

## Power Systems

**8246-L1C 8246-L1D 8246-L1S  
8246-L1T 8246-L2C 8246-L2D  
8246-L2S または 8246-L2T の  
ディスク・ドライブまたは  
ソリッド・ステート・ドライブ**

**IBM**



## Power Systems

**8246-L1C 8246-L1D 8246-L1S  
8246-L1T 8246-L2C 8246-L2D  
8246-L2S または 8246-L2T の  
ディスク・ドライブまたは  
ソリッド・ステート・ドライブ**

**IBM**

**お願い**

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、vii ページの『安全上の注意』、127 ページの『特記事項』、資料「*IBM Systems Safety Notices*」(G229-9054)、および「*IBM Environmental Notices and User Guide*」(Z125-5823)に記載されている情報をお読みください。

本製品およびオプションに電源コード・セットが付属する場合は、それぞれ専用のものになっていますので他の電気機器には使用しないでください。

本書は、POWER7 プロセッサを搭載した IBM Power Systems サーバーおよびすべての関連モデルに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

**原典：** Power Systems

Disk drives or solid-state drives for the  
8246-L1C, 8246-L1D, 8246-L1S,  
8246-L1T, 8246-L2C, 8246-L2D,  
8246-L2S, or 8246-L2T

**発行：** 日本アイ・ビー・エム株式会社

**担当：** トランスレーション・サービス・センター

第1刷 2013.9

© Copyright IBM Corporation 2012, 2013.

# 目次

|                  |     |
|------------------|-----|
| 安全上の注意 . . . . . | vii |
|------------------|-----|

|   |          |
|---|----------|
| <b>8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、<br/>または 8246-L2T のディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブ . . . . .</b> | <b>1</b> |
|---|----------|

|  |          |
|--|----------|
| <b>ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの 8246-L1C、8246-L1D、8246-<br/>L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T への取り付け . . . . .</b> | <b>3</b> |
|--|----------|

|  |   |
|--|---|
| 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T のソリッド・ステート・ドライブの構成規則 . . . . . | 3 |
|--|---|

|  |  |
|--|--|
| Linux システムまたは論理区画が電源オンの状態で 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、 |  |
|--|--|

|  |   |
|--|---|
| 8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T にディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り付ける . . . . . | 6 |
|--|---|

|  |   |
|--|---|
| ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り付ける準備 . . . . . | 7 |
|--|---|

|   |   |
|---|---|
| iprconfig コマンドを使用したディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り付ける準備 . . . . . | 8 |
|---|---|

|   |  |
|---|--|
| 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T システムまたは |  |
|---|--|

|  |   |
|--|---|
| は拡張装置へのディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの取り付け . . . . . | 9 |
|--|---|

|  |  |
|--|--|
| ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの 5887 ディスク・ドライブ・エンクロージャーへの取 |  |
|--|--|

|               |    |
|---------------|----|
| り付け . . . . . | 10 |
|---------------|----|

|  |    |
|--|----|
| ソリッド・ステート・ドライブの EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーへの取り付け . . . . . | 10 |
|--|----|

|  |  |
|--|--|
| 新しいディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブが取り付けられていて作動可能であることの確 |  |
|--|--|

|             |    |
|-------------|----|
| 認 . . . . . | 11 |
|-------------|----|

|                 |    |
|-----------------|----|
| 手順の完了 . . . . . | 12 |
|-----------------|----|

|  |  |
|--|--|
| システムまたは論理区画が電源オフの状態で 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、 |  |
|--|--|

|  |    |
|--|----|
| 8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T にディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り付ける . . . . . | 12 |
|--|----|

|  |    |
|--|----|
| ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り付ける準備 . . . . . | 13 |
|--|----|

|   |  |
|---|--|
| 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T システムまたは |  |
|---|--|

|  |    |
|--|----|
| は拡張装置へのディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの取り付け . . . . . | 16 |
|--|----|

|   |  |
|---|--|
| ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの 5887 ディスク・ドライブ・エンクロージャーへの |  |
|---|--|

|                |    |
|----------------|----|
| 取り付け . . . . . | 16 |
|----------------|----|

|  |    |
|--|----|
| ソリッド・ステート・ドライブの EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーへの取り付け . . . . . | 18 |
|--|----|

|                 |    |
|-----------------|----|
| 手順の完了 . . . . . | 18 |
|-----------------|----|

|   |           |
|---|-----------|
| <b>8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または<br/>8246-L2T からのディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの取り外し . . . . .</b> | <b>19</b> |
|---|-----------|

|  |  |
|--|--|
| Linux システムまたは論理区画が電源オンの状態で 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、 |  |
|--|--|

|   |    |
|---|----|
| 8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T のディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り外す . . . . . | 19 |
|---|----|

|  |    |
|--|----|
| ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブ取り外し準備 . . . . . | 20 |
|--|----|

|  |    |
|--|----|
| iprconfig コマンドを使用したディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り外す準備 . . . . . | 20 |
|--|----|

|   |  |
|---|--|
| 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T システムまたは |  |
|---|--|

|   |    |
|---|----|
| は拡張装置からのディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの取り外し . . . . . | 23 |
|---|----|

|  |    |
|--|----|
| EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーからのソリッド・ステート・ドライブの取り外し . . . . . | 24 |
|--|----|

|  |  |
|--|--|
| システムまたは論理区画が電源オフの状態で 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、 |  |
|--|--|

|  |    |
|--|----|
| 8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T からディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り外す . . . . . | 25 |
|--|----|

|  |    |
|--|----|
| ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブ取り外し準備 . . . . . | 26 |
|--|----|

|   |  |
|---|--|
| 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T システムまたは |  |
|---|--|

|   |    |
|---|----|
| は拡張装置からのディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの取り外し . . . . . | 27 |
|---|----|

|  |    |
|--|----|
| EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーからのソリッド・ステート・ドライブの取り外し . . . . . | 28 |
|--|----|

## ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T への取り替え . . . . . 31

Linux システムまたは論理区画が電源オンの状態で 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T 内のディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り替える . . . . . 31

ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り替える準備 . . . . . 32

iprconfig 診断コマンドを使用したディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り替える準備 . . . . . 33

8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T または拡張装置におけるディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの取り替え . . . . . 34

EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーにおけるソリッド・ステート・ドライブの取り替え . . . . . 34

iprconfig コマンドを使用したディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの取り替えの完了 . . . . . 35

手順の完了 . . . . . 35

システムまたは論理区画が電源オフの状態で 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T 内のディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り替える . . . . . 36

8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T または拡張装置におけるディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの取り替え . . . . . 37

EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーにおけるソリッド・ステート・ドライブの取り替え . . . . . 38

手順の完了 . . . . . 38

## 外部 SAS ポートの取り外しまたは取り付け . . . . . 41

8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T からの外部 SAS ポートの取り外し . . . . . 41

8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T への外部 SAS ポートの取り付け . . . . . 43

8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T における外部 SAS ポートの取り替え . . . . . 46

## ディスク・ドライブ・フィラーの取り外しまたは取り付け . . . . . 49

8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T からのディスク・ドライブ・フィラーの取り外し . . . . . 49

ディスク・ドライブ・フィラーの 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T への取り付け . . . . . 50

## ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの位置およびサービス・インディケータ . . . . . 53

PCIe RAID および SSD SAS アダプターの位置 . . . . . 53

8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T のディスクドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの位置およびサービス・インディケータ . . . . . 53

5802 拡張装置のディスク・ドライブの位置およびサービス・インディケータ . . . . . 55

5887 ディスク・ドライブ・エンクロージャーのディスク・ドライブの位置およびサービス・インディケータ . . . . . 56

EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーのソリッド・ステート・ドライブの位置およびサービス・インディケータ . . . . . 57

## ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの関連作業 . . . . . 59

Linux システムからディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り外す準備 . . . . . 59

ディスク・ドライブ取り外し準備 . . . . . 59

Linux を実行しているシステムまたは論理区画の取り替え用ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブでのデータの再ビルド . . . . . 61

iprconfig コマンドを使用するデータの再ビルド . . . . . 62

電源オフの状態で行う 5802 拡張装置の SAS コンジット・カードの取り替え . . . . . 63

電源オフの状態で行う 5802 拡張装置からの SAS コンジット・カードの取り外し . . . . . 71

電源オフの状態で行う 5802 拡張装置の SAS 拡張カードの取り替え . . . . . 79

電源オフの状態で行う 5802 拡張装置からの SAS 拡張カードの取り外し . . . . . 80

|  |           |
|--|-----------|
| <b>インストール可能フィーチャーに関する共通の手順</b> . . . . .   | <b>81</b> |
| 開始する前に . . . . .   | 81        |
| 部品の識別 . . . . .  | 84        |
| コントロール・パネルの LED . . . . .  | 85        |
| Linux システムまたは論理区画内の障害項目の識別 . . . . .   | 86        |
| Linux システムまたは論理区画内の障害項目の検出 . . . . .   | 86        |
| Linux システムまたは論理区画内の障害項目のロケーション・コード検出 . . . . .   | 86        |
| 障害項目の表示ライトのアクティブ化 . . . . .  | 86        |
| 障害項目の表示ライトの非アクティブ化 . . . . .   | 87        |
| バーチャル I/O サーバー システムまたは論理区画内の障害項目の検出 . . . . .  | 87        |
| バーチャル I/O サーバーを使用して部品を識別する . . . . .   | 88        |
| システムまたは論理区画の始動 . . . . .   | 88        |
| HMC または SDMC が管理しないシステムの始動 . . . . .   | 88        |
| HMC によるシステムまたは論理区画の始動 . . . . .  | 90        |
| SDMC を使用したシステムまたは仮想サーバーの始動 . . . . .   | 90        |
| システムまたは論理区画の停止 . . . . .   | 90        |
| HMC または SDMC が管理しないシステムの停止 . . . . .   | 91        |
| HMC を使用したシステムの停止 . . . . .   | 92        |
| SDMC を使用したシステムの停止 . . . . .  | 93        |
| システムのカバー . . . . .   | 93        |
| 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T のカバーの取<br>り外しおよび再取り付け . . . . .    | 93        |
| 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、 8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T からの保守<br>アクセス・カバーの取り外し . . . . .  | 93        |
| 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、 8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T への保守ア<br>クセス・カバーの取り付け . . . . .   | 94        |
| 保守位置および操作位置 . . . . .  | 95        |
| 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T システムの保<br>守位置または操作位置への設置 . . . . . | 95        |
| ラック・マウント型 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、 8246-L2D、8246-L2S、または<br>8246-L2T の保守位置への設置 . . . . .  | 95        |
| ラック・マウント型 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、 8246-L2D、8246-L2S、または<br>8246-L2T の操作への設置 . . . . .    | 96        |
| 電源コード . . . . .  | 98        |
| 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、 8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T からの電源コ<br>ードの切り離し . . . . .       | 98        |
| 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、 8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T システムへの<br>電源コードの接続 . . . . .      | 99        |
| 取り付け済み部品の検査 . . . . .  | 99        |
| Linux システムまたは論理区画に取り付けられた部品の検査 . . . . .   | 99        |
| スタンドアロン診断を使用して取り付け済み部品を検査する . . . . .  | 100       |
| HMC を使用した取り付け済み部品の検査 . . . . .   | 101       |
| HMC を使用した LED の活動化および非活動化 . . . . .  | 102       |
| HMC を使用したシステム・アテンション LED または区画 LED の非活動化 . . . . .   | 102       |
| HMC を使用した識別 LED の活動化または非活動化 . . . . .  | 102       |
| HMC を使用したサービス可能イベントの表示 . . . . .   | 103       |
| SDMC を使用した取り付け済み部品の検査 . . . . .  | 104       |
| SDMC を使用した LED の活動化および非活動化 . . . . .   | 104       |
| SDMC を使用したシステム・アテンション LED または区画 LED の非活動化 . . . . .  | 104       |
| SDMC を使用した識別 LED の活動化または非活動化 . . . . .   | 105       |
| SDMC を使用したサービス可能イベントの表示 . . . . .  | 106       |
| バーチャル I/O サーバーのツールを使用した、システムまたは論理区画の取り付け済み部品または取り替え済<br>み部品の検査 . . . . .                                       | 106       |
| VIOS を使用して取り付け済み部品を検査する . . . . .  | 106       |
| VIOS を使用した取り替え済み部品の検査 . . . . .  | 107       |
| 修復の検証 . . . . .  | 109       |

|   |            |
|---|------------|
| Linux での修復の検証 . . . . .   | 110        |
| 管理コンソールでの修復の検証 . . . . .  | 110        |
| サービス・コールの終了. . . . .  | 112        |
| Linux を使用したサービス・コールの終了. . . . .   | 117        |
| Integrated Virtualization Manager を使用したサービス・コールの終了. . . . .                           | 118        |
| LED の活動化および非活動化. . . . .  | 123        |
| 管理コンソールを使用したシステム・アテンション LED または区画 LED の非活動化. . . . .                                  | 123        |
| 管理コンソールを使用した識別 LED の活動化または非活動化. . . . .   | 124        |
| Advanced System Management Interface を使用したシステム・アテンション LED または論理区画 LED の非活動化 . . . . . | 125        |
| Advanced System Management Interface を使用した識別 LED の活動化または非活動化. . . . .                 | 125        |
| <b>特記事項. . . . .</b>  | <b>127</b> |
| 商標 . . . . .  | 128        |
| 電波障害自主規制特記事項. . . . .   | 129        |
| VCCI クラス A 情報技術装置. . . . .  | 129        |
| VCCI クラス B 情報技術装置. . . . .  | 129        |
| 使用条件. . . . .   | 129        |

---

## 安全上の注意

安全上の注意は、このガイド全体を通じて記載されています。

- **危険**の注記は、人間に致命的または極めて危険な損傷を与える可能性のある状態について注意を促します。
- **注意**の注記は、何らかの状況が原因の、人間に危険な損傷を与える可能性のある状態について注意を促します。
- **重要**の注記は、プログラム、装置、システム、あるいはデータに損傷を与える可能性があることを示します。

### ワールド・トレードの安全上の注意

国によっては、製品資料に記載される安全上の注意を自国語で提示するよう要求しています。この要求がお客様の国に適用される場合は、製品に付属の資料パッケージ (印刷された資料または DVD で、あるいは製品の一部として) に安全上の注意についての文書が含まれます。この文書には、英語原典に準拠した、各国語による安全上の注意が記載されています。この製品の取り付け、操作、または保守のために英語の資料をご使用になる場合は、まず、関連している安全上の注意についての文書をよくお読みください。また、英語版資料の安全上の注意が明確に理解できない場合も、必ずこの文書を参照してください。

安全上の注意についての文書の差し替え版または追加のコピーについては、IBM ホットライン (1-800-300-8751) に連絡して入手することができます。

### レーザーに関する安全上の注意

IBM® サーバーは、レーザーまたは LED を使用する、光ファイバー・ベースの I/O カードまたはフィーチャーを使用することができます。

#### レーザーに関する準拠

IBM サーバーは、IT 装置ラックの内部または外部に取り付けることができます。

## 危険

システムまたはその周辺で作業をする場合は、以下の予防措置を確認してください。

電源ケーブルや電話線、通信ケーブルからの電圧および電流は危険です。感電を防ぐために次の事項を守ってください。

- 電源と装置を接続する場合は、必ず IBM 提供の電源コードを使用してください。IBM 提供の電源コードを他の製品に使用しないでください。
- 電源装置アセンブリーを開いたり、保守しないでください。
- 雷雨の間はケーブルの接続や切り離し、または本製品の設置、保守、再構成を行わないでください。
- この製品は複数の電源コードを備えていることがあります。危険な電圧をすべて除去するには、すべての電源コードを取り外してください。
- すべての電源コードは正しく配線され接地されたコンセントに接続してください。コンセントがシステム定格プレートに従った正しい電圧および相回転を供給していることを確認してください。
- ご使用の製品に接続するすべての装置を、正しく配線されたコンセントに接続してください。
- シグナル・ケーブルの接続または切り離しは可能なかぎり片手で行ってください。
- 火災、水害、または建物に構造的損傷の形跡が見られる場合は、どの装置の電源もオンにしないでください。
- 取り付けおよび構成手順で特別に指示されている場合を除いて、装置のカバーを開く場合はその前に、必ず、接続されている電源コード、通信システム、ネットワーク、およびモデムを切り離してください。
- ご使用の製品または接続されたデバイスの取り付け、移動、またはカバーの取り外しを行う場合には、次の手順に従ってケーブルの接続および取り外しを行ってください。

ケーブルの切り離し手順:

1. すべての電源をオフにします (別に指示される場合を除く)。
2. 電源コードを電源コンセントから取り外します。
3. シグナル・ケーブルをコネクタから取り外します。
4. すべてのケーブルをデバイスから取り外します。

ケーブルの接続手順:

1. すべての電源をオフにします (別に指示される場合を除く)。
2. すべてのケーブルをデバイスに接続します。
3. シグナル・ケーブルをコネクタに接続します。
4. 電源コードをコンセントに接続します。
5. デバイスの電源をオンにします。

(D005)

## 危険

IT ラック・システムやその周辺で作業をする場合は、以下の予防措置を確認してください。

- 重量のある装置の場合、取り扱いを誤ると身体傷害または設備の損傷を引き起こす可能性があります。
- ラック・キャビネットのレベル・パッドは必ず下げておきます。
- ラック・キャビネットには必ずスタビライザー・ブラケットを取り付けてください。
- 釣り合いがとれていない機械的荷重による危険な状態を避けるため、最も重いデバイスを常に、ラック・キャビネットの下部に取り付けます。必ず、サーバーおよびオプション・デバイスはラック・キャビネットの下部側から取り付けてください。
- ラック・マウント型デバイスを棚やワークスペースとして使用しないでください。ラック・マウント型デバイスの上には何も置かないでください。



- 各ラック・キャビネットには複数の電源コードが付いていることがあります。保守する際に電源を切断するように指図された場合、ラック・キャビネットのすべての電源コードを抜いてください。
- ラック・キャビネット内のすべてのデバイスは、同一ラック・キャビネットに取り付けられている電源デバイスに接続します。あるラック・キャビネットに取り付けられているデバイスの電源コードを、別のラック・キャビネットにある電源デバイスに接続しないでください。
- 正しく配線されていない電源コンセントは、システムまたはシステムに接続されたデバイスの金属部品に危険な電圧をかける可能性があります。感電を避けるためにコンセントが正しく配線および接地されていることの確認は、お客様の責任で行ってください。

#### 注意

- ラック内部の温度が、すべてのラック・マウント型デバイスに対する製造者推奨の周辺温度を超えるようなラック内には、装置を取り付けしないでください。
- 空気の流れが妨げられているラック内には、装置を取り付けしないでください。装置内で空気の流れのために使用される装置のいずれかの側面、前面、または背面で、空気の流れが妨げられたり減速されたりしないようにしてください。
- 回路の過負荷によって電源配線や過電流保護が破損しないように、電源回路への機器の接続には十分注意してください。ラックに正しく電源を接続するには、ラック内の機器の定格ラベルで、電源回路の総消費電力を確認してください。
- (引き出し式ドロワーの場合。) ラック・スタビライザー・ブラケットがラックに取り付けられていない場合は、ドロワーまたはフィーチャーを引き出したり、取り付けたりしないでください。一度に複数のドロワーを引き出さないでください。一度に複数のドロワーを引き出すと、ラックが不安定になる可能性があります。
- (固定式ドロワーの場合。) このドロワーは固定ドロワーなので、製造元の指定がない限り、保守のために動かさないでください。ラックからドロワーの一部または全部を引き出そうとすると、ラックが不安定になったり、ドロワーがラックから落下する可能性があります。

(R001)

**注意:**

ラック・キャビネット内の上の方の位置からコンポーネントを取り外すと、再配置中のラックの安定性が改善されます。格納されたラック・キャビネットを部屋または建物内で再配置するときは必ず、以下の一般ガイドラインに従ってください。

- ラック・キャビネットの上部から順に装置を取り外すことにより、ラック・キャビネットの重量を減らします。可能な場合は、ラック・キャビネットを納品時のラック・キャビネットの構成に復元します。この構成がわからない場合は、以下の手順を実行する必要があります。
  - 32U 位置以上にあるすべてのデバイスを取り外します。
  - 最も重いデバイスがラック・キャビネットの下部に取り付けられていることを確認します。
  - ラック・キャビネット内で 32U レベルより下に取り付けられたデバイス間に空の U レベルがないことを確認します。
- 再配置しているラック・キャビネットが、一組のラック・キャビネットの一部である場合は、そのスイートからラック・キャビネットを切り離します。
- 通る予定の経路を検査して、障害になる可能性があるものを取り除きます。
- 選択する経路が、搭載されたラック・キャビネットの重量を支えることができるか検査します。搭載されたラック・キャビネットの重量については、ラック・キャビネットに付属の資料を参照してください。
- すべてのドアの開口部が少なくとも 760 x 230 mm 以上であることを確認します。
- すべてのデバイス、シェルフ、ドロワー、ドア、およびケーブルが安定していることを確認します。
- 4 つのレベル・パッドが最も高い位置に上がっていることを確認します。
- 移動時にスタビライザー・ブラケットがラック・キャビネットに取り付けられていないことを確認します。
- 傾斜が 10 度を超えるスロープは使用しないでください。
- ラック・キャビネットが新しい場所に置かれたら、次の手順を実行します。
  - 4 つのレベル・パッドを下げます。
  - スタビライザー・ブラケットをラック・キャビネットに取り付けます。
  - ラック・キャビネットからデバイスを取り外してあった場合は、ラック・キャビネットの最も低い位置から最も高い位置へと格納していきます。
- 長距離の移動が必要な場合は、ラック・キャビネットを納品時のラック・キャビネットの構成に復元します。ラック・キャビネットを元の梱包材、またはそれと同等のもので梱包します。また、レベル・パッドを下げ、キャスターをパレットから離れるように持ち上げ、ラック・キャビネットをパレットにボルトで止めます。

(R002)

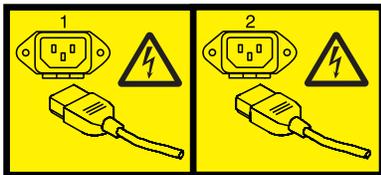
(L001)



(L002)



(L003)



または



すべてのレーザーは、クラス 1 のレーザー製品について規定している米国の保健社会福祉省連邦規則 21 副章 J (DHHS 21 CFR Subchapter J) の要件に準拠していることが認証されています。米国以外の国では、レーザーは、クラス 1 レーザー製品として IEC 60825 に準拠していることが認証されています。レーザー認証番号および承認情報については、各製品のラベルをご覧ください。

**注意:**

この製品には、クラス 1 のレーザー製品である CD-ROM ドライブ、DVD-ROM ドライブ、DVD-RAM ドライブ、またはレーザー・モジュールの各デバイスのうち 1 つ以上が含まれていることがあります。次の情報に注意してください。

- カバーを外さないこと。カバーを取り外すと有害なレーザー光を浴びることがあります。この装置の内部には保守が可能な部品はありません。
- 本書に記述されている以外の手順、制御または調節を行うと有害な光線を浴びることがあります。

(C026)

**注意:**

データ処理環境には、クラス 1 のパワー・レベルより高いレベルで作動するレーザー・モジュールを備えるシステム・リンク上で伝送する装置が含まれることがあります。この理由から、光ファイバー・ケーブルの先端、またはコンセントの差込口を覗き込まないでください。(C027)

**注意:**

この製品には、クラス 1M のレーザーが含まれています。光学装置を用いて直接見ないでください。

(C028)

**注意:**

一部のレーザー製品には、クラス 3A またはクラス 3B のレーザー・ダイオードが組み込まれています。次の点に注意してください。カバーを開くとレーザー光線の照射があります。光線を見つめたり、光学装置を用いて直接見たり、光線を直接浴びることは避けてください。(C030)

**注意:**

このバッテリーにはリチウムが含まれています。爆発することがありますので、バッテリーを火中に入れたり、充電したりしないでください。

次の行為は絶対にしないでください。

- \_\_\_ 水に投げ込む、あるいは浸す
- \_\_\_ 100°C (華氏 212 度) を超える過熱
- \_\_\_ 修理または分解

IBM 承認の部品のみと交換してください。バッテリーのリサイクルまたは廃棄については、地方自治体の条例に従ってください。米国では、IBM がこのバッテリーの回収プロセスを設けています。詳しくは、1-800-426-4333 にお問い合わせください。お問い合わせの前に、このバッテリー・ユニットの IBM 部品番号をご用意ください。(C003)

## **NEBS (Network Equipment-Building System) GR-1089-CORE の電源および配線の情報**

以下のコメントは、NEBS (Network Equipment-Building System) GR-1089-CORE 準拠として指定された IBM サーバーに適用されます。

装置は、以下での設置に適しています。

- ネットワーク通信設備
- NEC (National Electrical Code) が適用される場所

この装置のイントラビルディング・ポートは、イントラビルディングまたは屋外に露出していない配線またはケーブル接続にのみ適しています。この装置のイントラビルディング・ポートを OSP (屋外施設) やその配線に接続されているインターフェースの金属部と接続しないでください。これらのインターフェース

は、イントラビルディング・インターフェース (GR-1089-CORE 記載のタイプ 2 ポートまたはタイプ 4 ポート) としてのみ使用するよう設計されており、屋外に露出した OSP 配線とは分離する必要があります。1 次保護装置を追加しても、これらのインターフェースと OSP 配線の金属部の接続を十分に保護することはできません。

注: すべてのイーサネット・ケーブルは、シールドされ、両端が接地されている必要があります。

AC 電源システムに、外部サージ保護装置 (SPD) を使用する必要はありません。

DC 電源システムは、分離 DC 帰還 (DC-I) 設計を採用しています。DC バッテリー帰還端子をシャーシまたはフレーム・アースに接続しないでください。



---

## **8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、 8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T のディスク・ドライブ またはソリッド・ステート・ドライブ**

IBM PowerLinux™ 7R1 (8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、または 8246-L1T) および IBM PowerLinux 7R2 (8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T) システムおよびサポートされるドライブ・エンクロージャーまたは拡張装置の、ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブ (SSD) の取り付け、取り外し、および取り替えについて説明します。



## ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、 8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T への取り付け

8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T システム、ドライブ・エンクロージャー、または拡張装置内に Small Computer System Interface (SCSI) ドライブ、シリアル接続 SCSI (SAS) ドライブ、またはソリッド・ステート・ドライブ (SSD) を取り付ける方法について説明します。

### 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、 8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T のソリッド・ステート・ドライブ の構成規則

ソリッド・ステート・ドライブ (SSD) の取り付けおよび構成を行う前に、サポートされるマシン・タイプ・モデル、サポートされる拡張装置またはエンクロージャー、アダプター、および構成の詳細を検討する必要があります。

#### システム、エンクロージャー、または拡張装置の SSD ドライブ規則

ソリッド・ステート・ドライブは、フラッシュ・ドライブとも呼ばれ、通常のハード・ディスク・ドライブ (HDD) の規則に近い規則に従います。例えば、SSD は、物理的に HDD と似ており、HDD と同じ方法で、ほぼ同じスロットに取り付けられます。ただし、中には SSD 固有の制約事項および構成規則もあります。以下の表で、ご使用のシステムまたは拡張装置に適用されるオペレーティング・システム、アダプター、マシン・タイプ・モデル、およびディスク・ドライブ構成規則を判別できます。

構成規則を検討してから、他のディスク・ドライブと同様にドライブを取り付けることができます。ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの取り付けについては、ご使用のシステムまたは拡張装置のトピック・コレクションを参照してください。

**制約事項:** ソリッド・ステート・ドライブは、RAID アレイの部分を構成している必要があります。

表 1 を参照してください。

**重要:** ご使用のシステムに SSD を取り付ける前に、SSD およびアダプターの両方が前提条件となるすべての更新を済ませていることを確認してください。前提条件を確認するには、IBM Prerequisite の Web サイト ([www-912.ibm.com/e\\_dir/eServerPrereq.nsf](http://www-912.ibm.com/e_dir/eServerPrereq.nsf)) にアクセスしてください。

表 1. システム、エンクロージャー、または拡張装置のための Linux オペレーティング・システムのソリッド・ステート・ドライブ規則

| システム、エンクロージャー、または<br>拡張装置  | アダプター | 混合規則  |
|--|-------|---|
| 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、<br>8246-L2D、8246-L2S、または<br>8246-L2T |       | <ul style="list-style-type: none"><li>• 同じ RAID アレイまたはミラーリング・グループ内で SSD および HDD を混合させることはできません。</li><li>• SSD と HDD は分割できません。</li></ul> |

表1. システム、エンクロージャー、または拡張装置のための Linuxオペレーティング・システムのソリッド・ステート・ドライブ規則 (続き)

| システム、エンクロージャー、または拡張装置   | アダプター  | 混合規則  |
|-------------------------|--|---|
| 5802 および 5877           | FC 5903 (PCIe 380 MB キャッシュ搭載デュアル x4 3 Gb SAS RAID アダプター)   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• ペアの 5903 アダプターで SSD および HDD を混合させることはできません。</li> <li>• ペアの 5903 アダプターでは最大 9 個の SSD がサポートされます。</li> </ul>   |
| 5887 ディスク・ドライブ・エンクロージャー | <ul style="list-style-type: none"> <li>• FC 5805 (PCIe 380 MB キャッシュ搭載デュアル - x4 3 Gb SAS RAID アダプター)</li> <li>• FC 5901 (PCIe デュアル x4 SAS アダプター)</li> <li>• FC 5908 (PCI-X DDR 1.5 GB キャッシュ搭載 SAS RAID アダプター)</li> <li>• FC ESA1 (PCIe2 RAID SAS アダプター・デュアル・ポート 6 Gb)</li> <li>• FC ESA1 (PCIe2 LP RAID SAS アダプター・デュアル・ポート 6 Gb)</li> <li>• PCIe2 (3.1 GB キャッシュ搭載 RAID SAS エンクロージャー 6 Gb x8)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• このエンクロージャーでは、最大 24 台のドライブをサポートできます。</li> <li>• EXP24S は、24 個のベイ 1 セット (モード 1)、12 個のベイ 2 セット (モード 2)、または 6 個のベイ 4 セット (モード 4) として構成できます。</li> <li>• EXP24S シリアル接続 SCSI (SAS) ポートは SAS コントローラーに接続されます。この SAS コントローラーは、1 つの SAS PCI-X アダプター、1 つの PCI Express (PCIe) アダプター、または 1 対のアダプターの場合があります。内蔵 SAS ポートのあるシステムの場合は、EXP24S を 1 つの内蔵 SAS コントローラーに接続することもできます。</li> <li>• SSD と HDD の混合は次のようになります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>- モード 1 として構成する場合、SSD および HDD は 1 つの論理グループ内では混合できません。</li> <li>- モード 2 として構成する場合、SSD および HDD は、1 つのセットを SSD とし、もう 1 つのセットを HDD とすれば混合できます。</li> <li>- モード 4 として構成する場合、5887 をモード 4 に構成するために必要なアダプターが SSD をサポートしないため、SSD および HDD は混合できません。</li> </ul> </li> </ul> |

表 1. システム、エンクロージャー、または拡張装置のための Linuxオペレーティング・システムのソリッド・ステート・ドライブ規則 (続き)

| システム、エンクロージャー、または拡張装置   | アダプター  | 混合規則  |
|---|--|---|
| EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャー および FC EL30 (拡張 PCIe ストレージ・エンクロージャー) | PCIe2 (3.1 GB キャッシュ搭載 RAID SAS エンクロージャー 6 Gb x8) | <ul style="list-style-type: none"> <li>• このエンクロージャーは、30 個のホット・スワップ SSD ベイと 1 対の内蔵 SAS コントローラーを備えた、高さ 1 ユニット (1U) の I/O ドロワーです。SAS コントローラーは、大容量の書き込みキャッシュを提供して、パフォーマンスを向上させます。</li> <li>• EXP30 は HDD をサポートしません。</li> <li>• このディスク・ドライブ・エンクロージャーでは最大 30 台の SSD がサポートされます。</li> <li>• EXP30 は、次のように構成できます。             <ul style="list-style-type: none"> <li>- 30 個のベイ 1 セット。このセットは、連動する両方のコントローラーによって所有されます。</li> <li>- 2 つの論理セット。2 つのコントローラーはそれぞれ、1 つの論理セットを所有します。</li> </ul> </li> <li>• EXP30 は、システム内の GX ++ スロットに取り付けられた PCIe x8 ケーブルでシステムに接続されます。</li> </ul> |

---

## Linux システムまたは論理区画が電源オンの状態で 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T にディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り付ける

ドライブの位置を制御する Linux オペレーティング・システムまたは論理区画が電源オンの状態で、ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブをシステムまたは拡張装置内に取り付ける方法を説明します。

**重要:** 以下の情報を読んで、この手順の代わりに別の手順を完了する必要があるかどうかを判断してください。

- 電源オンのままこの手順を使用するのが不安な場合は、12 ページの『システムまたは論理区画が電源オフの状態での 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T にディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り付ける』に進みます。
- 障害のある部品を保守している場合は、31 ページの『Linux システムまたは論理区画が電源オンの状態で 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T 内のディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り替える』の保守手順を参照してください。

この手順は、新規またはアップグレードしたドライブを取り付けるための手順です。

ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り付けるには、以下のタスクを完了します。

- 7 ページの『ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り付ける準備』
- 7 ページの『iprconfig コマンドを使用したディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り付ける準備』
- 次のいずれかを選択してください。
  - 8 ページの『8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T システムまたは拡張装置へのディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの取り付け』
  - 9 ページの『ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの 5887 ディスク・ドライブ・エンクロージャーへの取り付け』
  - 10 ページの『ソリッド・ステート・ドライブの EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーへの取り付け』(このドライブ・エンクロージャーは、8246-L2T システム用にサポートされています。)
- 11 ページの『新しいディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブが取り付けられていて作動可能であることの確認』
- 12 ページの『手順の完了』

フィーチャーの取り付けまたは取り替えを行う前に、フィーチャーをサポートするために必要なソフトウェアがシステム上にインストールされていることを確認してください。ソフトウェア前提条件については、IBM Prerequisite の Web サイト ([www-912.ibm.com/e\\_dir/eServerPrereq.nsf](http://www-912.ibm.com/e_dir/eServerPrereq.nsf)) を参照してください。必要なソフトウェアがインストールされていない場合は、Fix Central ([www.ibm.com/support/fixcentral](http://www.ibm.com/support/fixcentral))に進み、必要なソフトウェアをダウンロードしてインストールしてから続行してください。

ソリッド・ステート・ドライブを取り付けている場合は、構成規則を検討してからここに戻ってください。詳しくは、3 ページの『8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T のソリッド・ステート・ドライブの構成規則』を参照してください。

## ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り付ける準備

システムまたは拡張装置に、ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り付ける前に、以下のステップを完了します。

1. 前提条件作業を実行します。手順については、81 ページの『開始する前に』を参照してください。
2. システム識別 (青色) LED をオンにして、取り付けまたはアップグレードを行うシステムを識別します。手順については、コントロール・パネルの LED およびエンクロージャー・インジケータの使用可能化 (Control panel LEDs and Enabling enclosure indicators)を参照してください。
3. 該当する場合は、システム装置または拡張装置のドアを取り外すか、またはラックを開きます。
4. ご使用のシステムまたは拡張装置で、次に使用可能なディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブ位置を判別します。詳しくは、53 ページの『8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2Tのディスクドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの位置およびサービス・インジケータ』を参照してください。

注: 拡張装置付きのシステムの場合は、システム装置のスロット位置の方を先に使用してください。ただし、お客様のデータ保護方針に応じて、異なるディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブ配置方法を選択できます。

5. 新規ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り付ける必要がある位置を記録します。例えば、その次に使用可能なディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブ・スロットは P3-D4 などです。
6. 新しいドライブが入っているパッケージを用意します。  
**重要:** ドライブは壊れやすいため、注意して取り扱ってください。
7. ドライブを帯電防止パッケージから取り出します。
8. `iprconfig` コマンドを使用して、ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブをシステムまたはディスク・ドライブ・エンクロージャーに取り付ける作業に進みます。

## iprconfig コマンドを使用したディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り付ける準備

システムまたは拡張装置に、ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り付ける前に、以下のステップを完了します。

1. root ユーザーとしてログインします。
2. Linux セッションのコマンド行で `iprconfig` と入力し、Enter キーを押します。「IBM Power RAID Configuration Utility」画面が表示されます。
3. 「IBM Power RAID Configuration Utility」画面で、「ディスク装置リカバリーの処理 (Work with disk unit recovery)」を選択します。Enter キーを押します。
4. 「ディスク装置リカバリーの処理 (Work with Disk Unit Recovery)」画面で、「デバイス並行追加 (Concurrent add device)」を選択します。Enter キーを押します。

「デバイス並行追加 (Concurrent Device Add)」画面が次のように表示されます。

| Concurrent Device Add                       |                         |             |        |
|---|-------------------------|-------------|--------|
| Choose a single location for add operations |                         |             |        |
| 1=Select                                    |                         |             |        |
| OPT Name                                    | PCI/SCSI Location       | Description | Status |
|   | U5887.001.Z065075-P1-D1 |             | Empty  |
|   | U5887.001.Z065075-P1-D6 |             | Empty  |
|   | U5887.001.Z065075-P1-D7 |             | Empty  |
|   | U5887.001.Z065075-P1-D8 |             | Empty  |
|   | U5887.001.Z065075-P1-D9 |             | Empty  |
| e=Exit q=Cancel t=Toggle                    |                         |             |        |

図 1. 「デバイス並行追加 (Concurrent Device Add)」画面の例

5. さまざまなロケーション・コード表現の間で切り替えを行うには、「t」を入力します。
6. ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り付ける位置の横に「1」を入力し、Enter キーを押します。

「デバイス並行追加の確認 (Verify Device Concurrent Add)」画面が表示されます。

ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り付けることができるスロットのサービス・インディケータが明滅します。

次のオプションから選択します。

- ドライブをシステムまたは拡張装置に取り付けようとする場合は、『8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T システムまたは拡張装置へのディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの取り付け』に進みます。
- ドライブを 5887 ディスク・ドライブ・エンクロージャーに取り付けようとする場合は、9 ページの『ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの 5887 ディスク・ドライブ・エンクロージャーへの取り付け』に進みます。
- ドライブを EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーに取り付けようとする場合は、10 ページの『ソリッド・ステート・ドライブの EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーへの取り付け』に進みます。

## 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T システムまたは拡張装置へのディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの取り付け

システムまたは拡張装置に、ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り付けるには、以下のステップを実行します。

1. 使用するスロットにディスク・ドライブ・フィラーが入っている場合は、スロットからそのディスク・ドライブ・フィラーを取り外します。手順については、49 ページの『8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T からのディスク・ドライブ・フィラーの取り外し』を参照してください。
2. ハンドルを握って手前に引き出し、ライブ・ハンドルをアンロックします。ハンドルが完全に引き出されていないと、ドライブをスライドさせてシステムまたは拡張装置に入れることができません。
3. ドライブの上端と下端を持ってドライブを位置決めし、システムまたは拡張装置に挿入します。ハンドルでドライブを支えないでください。
4. ドライブをシステムまたは拡張装置に半分くらいまで差し込みます。

### 8 ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブ

5. 「デバイス並行追加の確認 (Verify Device Concurrent Add)」画面で、選択したドライブが取り付けるドライブであることを確認してから、Enter キーを押します。
6. 識別 LED が明滅したら、ドライブをシステムまたは拡張装置の中に奥まで差し込み、ドライブのハンドル (A) をロックされるまで押します (図2 を参照)。

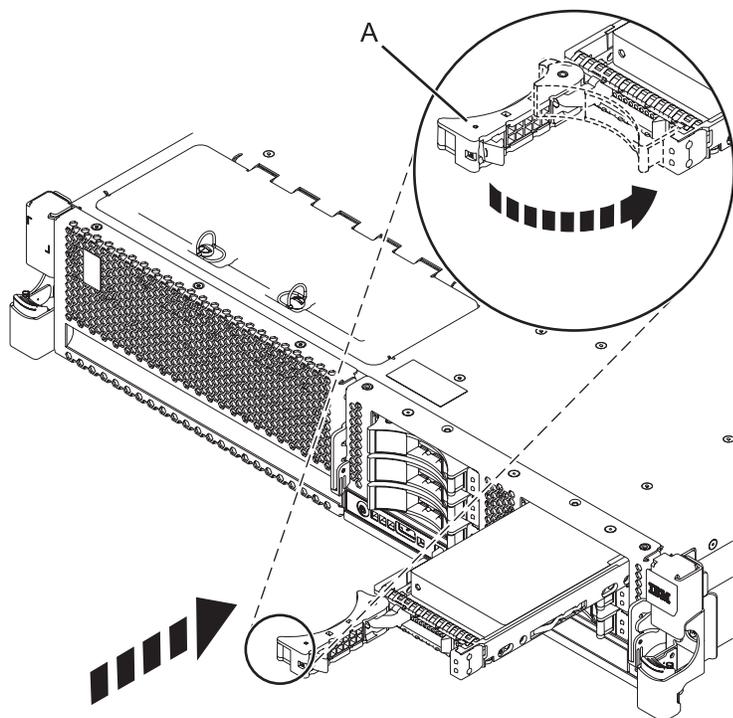


図2. ディスク・ドライブのシステムへの取り付け

7. コンソールで Enter キーを押して、ドライブを取り付けたことを示します。
8. 複数のドライブを取り付ける場合、すべてのドライブが取り付けられるまで、この手順のステップを繰り返します。

ドライブの取り付けを検査する手順に進みます。説明は、11 ページの『新しいディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブが取り付けられていて作動可能であることの確認』を参照してください。

## ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの 5887 ディスク・ドライブ・エンクロージャーへの取り付け

5887 ディスク・ドライブ・エンクロージャー に、ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り付けるには、以下のステップを実行します。

1. ハンドルをアンロック位置にして (10 ページの図3 を参照)、ドライブの底面を支え、拡張装置のガイド・レールに位置合わせします。

**注:** ハンドルだけをつかんでドライブを持たないでください。ドライブの側面を持ってドライブを支えてください。

2. ドライブを5887 ディスク・ドライブ・エンクロージャーに半分くらいまで差し込みます。
3. 「デバイス並行追加の確認 (Verify Device Concurrent Add)」画面で、選択したドライブが取り替えるドライブであることを確認してから、Enter キーを押します。

4. 識別 LED が明滅したら、ドライブが止まるまでドライブを 5887 ディスク・ドライブ・エンクロージャーの中に差し込みます。

**重要:** ドライブを取り付ける際、ドライブを完全に固定し、エンクロージャーに完全に入っていることを確認してください。

5. ハンドルをロック位置まで回転させます。

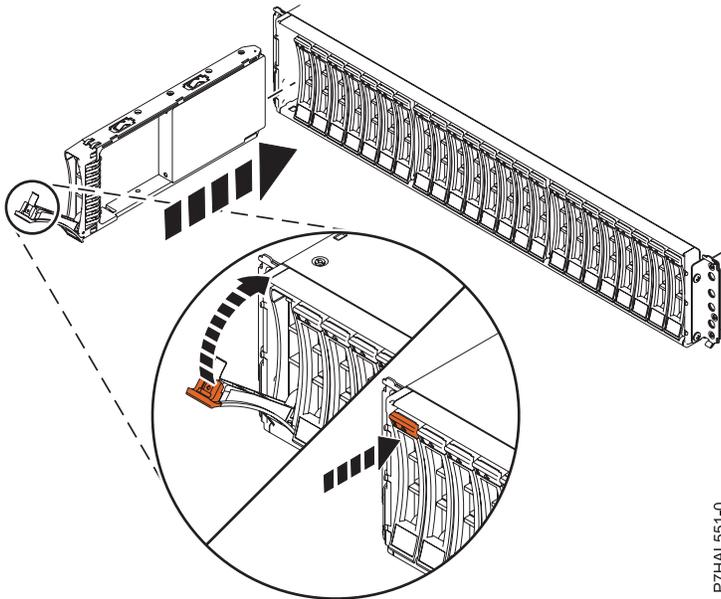


図3. ディスク・ドライブの 5887 ディスク・ドライブ・エンクロージャーへの取り付け

6. コンソールで Enter キーを押して、ドライブを取り付けたことを示します。

ドライブの取り付けを検査する手順に進みます。説明は、11 ページの『新しいディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブが取り付けられていて作動可能であることの確認』を参照してください。

## ソリッド・ステート・ドライブの EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーへの取り付け

ソリッド・ステート・ドライブを EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーに取り付けるには、以下のステップを完了します。

1. ハンドルをアンロック位置にして、ソリッド・ステート・ドライブをエンクロージャーのガイド・レールに位置合わせします。11 ページの図4 を参照してください。

**注:** ハンドルだけをつかんでソリッド・ステート・ドライブを持たないでください。ドライブの側面を持ってドライブを支えてください。

2. ドライブをEDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーに半分くらいまで差し込みます。
3. 「デバイス並行追加の確認 (Verify Device Concurrent Add)」画面で、選択したドライブが取り替えるドライブであることを確認してから、Enter キーを押します。
4. 識別 LED が明滅したら、ソリッド・ステート・ドライブが止まるまでドライブを EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーの中に差し込みます。

**重要:** ドライブを取り付ける際、ドライブを完全に固定し、EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーに完全に入っていることを確認してください。

5. ハンドル (A) をロック位置まで回転させます。
6. ベゼル (B) を取り付けます。

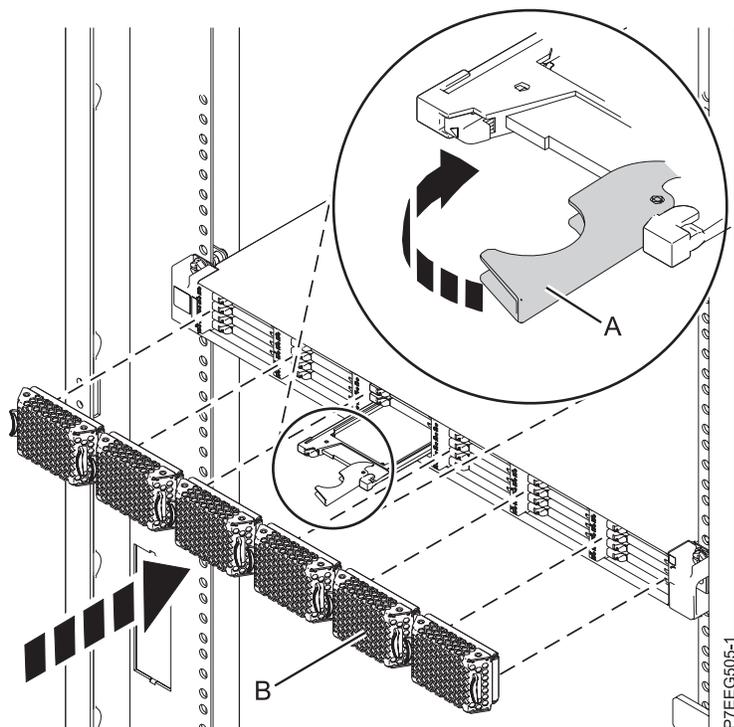


図4. ソリッド・ステート・ドライブの EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーへの取り付け

7. コンソールで Enter キーを押して、ドライブを取り付けたことを示します。

ドライブの取り付けを検査する手順に進みます。説明は、『新しいディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブが取り付けられていて作動可能であることの確認』を参照してください。

## 新しいディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブが取り付けられていて作動可能であることの確認

目的のディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブが取り付けられていることを表示するには「デバイス並行追加の完了 (Complete Device Concurrent Add)」画面で Enter キーを押します。識別 LED はオフになります。

新しいディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブが操作可能であることを確認するために、以下のステップを完了します。

1. root ユーザーとしてログインします。
2. Linux セッションのコマンド行で `iprconfig` と入力し、Enter キーを押します。「IBM Power RAID Configuration Utility」画面が表示されます。
3. 「ハードウェア状況の表示 (Display hardware status)」を選択します。以下のような「ハードウェア状況の表示 (Display hardware status)」画面が表示されます。

```

Display Hardware Status

Type option, press Enter.
l=Display hardware resource information details

OPT Name  PCI/SCSI Location      Description      Status
-----
0000:01:00.0/0:      PCI-E SAS RAID Adapter  Operational
0000:01:00.0/0:0:0:0  Advanced Function SSD    Active
0000:01:00.0/0:0:1:0  Advanced Function SSD    Active
0000:01:00.0/0:0:2:0  Advanced Function SSD    Active
0000:01:00.0/0:0:3:0  Advanced Function SSD    Active
0000:01:00.0/0:0:4:0  Advanced Function SSD    Active
0000:01:00.0/0:0:5:0  Advanced Function SSD    Active
0000:01:00.0/0:0:6:0  Advanced Function SSD    Active
0000:01:00.0/0:0:8:0  Enclosure                 Active
0000:01:00.0/0:0:9:0  Enclosure                 Active
0001:01:00.0/1:      PCI-E SAS RAID Adapter  Operational
0001:01:00.0/1:0:3:0  Advanced Function SSD    Remote
0001:01:00.0/1:0:4:0  Advanced Function SSD    Remote
0001:01:00.0/1:0:5:0  Advanced Function SSD    Remote
More...

e=Exit  q=Cancel  r=Refresh  t=Toggle  f=PageDn  b=PageUp

```

図 5. 「ハードウェア状況の表示 (Display Hardware Status)」の例

4. この画面に表示される、取り付けられたディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを確認します。

手順を完了する作業に進みます。

## 手順の完了

システム、エンクロージャー、または拡張装置でディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの取り付けまたは取り替えを行った後、以下のステップを実行します。

1. 取り付け済み部品を検査します。
  - 障害が原因で部品を取り替えた場合は、取り付け済み部品を検査します。手順については、109 ページの『修復の検証』を参照してください。
  - 他の何らかの理由で部品を取り付けた場合は、取り付け済み部品を検査します。手順については、99 ページの『取り付け済み部品の検査』を参照してください。
2. 新しく取り付け、または取り替えたディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブでデータを再ビルドするには、61 ページの『Linux を実行しているシステムまたは論理区画の取り替え用ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブでのデータの再ビルド』を参照してください。

## システムまたは論理区画が電源オフの状態で 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T にディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り付ける

電源オフの状態で、ドライブの位置を制御するシステムまたは論理区画にディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り付ける方法を説明します。

障害のある部品を保守している場合は、36 ページの『システムまたは論理区画が電源オフの状態で 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T 内のディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り替える』の保守手順を参照してください。

フィーチャーの取り付けまたは取り替えを行う前に、フィーチャーをサポートするために必要なソフトウェアがシステム上にインストールされていることを確認してください。ソフトウェア前提条件については、IBM Prerequisite の Web サイト ([www-912.ibm.com/e\\_dir/eServerPrereq.nsf](http://www-912.ibm.com/e_dir/eServerPrereq.nsf)) を参照してください。必要なソフトウェアがインストールされていない場合は、Fix Central ([www.ibm.com/support/fixcentral](http://www.ibm.com/support/fixcentral))に進み、必要なソフトウェアをダウンロードしてインストールしてから続行してください。

ソリッド・ステート・ドライブを取り付けている場合は、構成規則を検討してからここに戻ってください。詳しくは、3 ページの『8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T のソリッド・ステート・ドライブの構成規則』を参照してください。

ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り付けるには、以下のタスクを完了します。

- 『ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り付ける準備』
- 次のいずれかを選択してください。
  - 15 ページの『8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T システムまたは拡張装置へのディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの取り付け』
  - 16 ページの『ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの 5887 ディスク・ドライブ・エンクロージャーへの取り付け』
  - 17 ページの『ソリッド・ステート・ドライブの EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーへの取り付け』 (このドライブ・エンクロージャーは、8246-L2T システム 用にサポートされています。)
- 18 ページの『手順の完了』

## ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り付ける準備

システムまたは拡張装置に、ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り付ける前に、以下のステップを完了します。

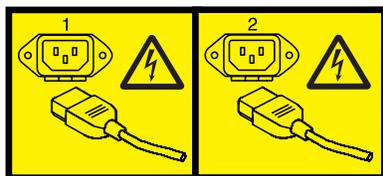
1. 前提条件作業を実行します。手順については、81 ページの『開始する前に』を参照してください。
2. システム識別 (青色) LED をオンにして、取り付けまたはアップグレードを行うシステムを識別します。手順については、コントロール・パネルの LED およびエンクロージャー・インジケータの使用可能化 (Control panel LEDs and Enabling enclosure indicators)を参照してください。
3. 該当する場合は、システム装置または拡張装置のドアを取り外すか、またはラックを開きます。
4. ご使用のシステムまたは拡張装置で、次に使用可能なディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブ位置を判別します。詳しくは、53 ページの『8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2Tのディスクドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの位置およびサービス・インジケータ』を参照してください。

注: 拡張装置付きのシステムの場合は、システム装置のスロット位置の方を先に使用してください。ただし、お客様のデータ保護方針に応じて、異なるディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブ配置方法を選択できます。

5. 新規ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り付ける必要がある位置を記録します。例えば、その次に使用可能なディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブ・スロットは P3-D4 などです。
6. システムまたは論理区画を停止します。手順については、90 ページの『システムまたは論理区画の停止』を参照してください。
7. システムのプラグを抜いて、システムの電源を切り離します。手順については、98 ページの『8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2Tからの電源コードの切り離し』を参照してください。

注: このシステムには、2 次電源装置が装備されている場合があります。この手順を続行する前に、この電源装置を切り離します。 システムの電源が切られていることを確認してください。

(L003)



または



8. リスト・ストラップを付けます。

**重要:**

- 静電気の放電 (ESD) によってハードウェアが損傷するのを防ぐために、リスト・ストラップをハードウェアの塗装されていない金属面に接続します。
- リスト・ストラップ使用時は、電気機器のすべての安全手順に従います。 リスト・ストラップは静電気を制御するためのものです。これは、電気機器を使用または電気機器で作業を行う際に、感電するリスクを増大するものでも、低減するものでもありません。
- リスト・ストラップがない場合は、製品を ESD パッケージから取り出して、ハードウェアの取り付けまたは取り替えを行う直前に、システムの塗装されていない金属面に少なくとも 5 秒以上触れてください。

9. 新しいドライブが入っているパッケージを用意します。

**重要:** ドライブは壊れやすいため、注意して取り扱ってください。

10. ドライブを帯電防止パッケージから取り出します。

次のオプションから選択します。

- ドライブをシステムまたは拡張装置に取り付けようとする場合は、15 ページの『8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T システムまたは拡張装置へのディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの取り付け』に進みます。

- ドライブを 5887 ディスク・ドライブ・エンクロージャー に取り付けようとする場合は、16 ページの『ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの 5887 ディスク・ドライブ・エンクロージャーへの取り付け』に進みます。
- ドライブを EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャー に取り付けようとする場合は、17 ページの『ソリッド・ステート・ドライブの EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーへの取り付け』に進みます。

## **8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T システムまたは拡張装置へのディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの取り付け**

システムまたは拡張装置に、ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り付けるには、以下のステップを実行します。

1. 使用するスロットにディスク・ドライブ・フィラーが入っている場合は、スロットからそのディスク・ドライブ・フィラーを取り外します。手順については、49 ページの『8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T からのディスク・ドライブ・フィラーの取り外し』を参照してください。
2. ハンドルを握って手前に引き出し、ライブ・ハンドルをアンロックします。ハンドルが完全に引き出されていないと、ドライブをスライドさせてシステムまたは拡張装置に入れることができません。
3. ドライブの上端と下端を持ち、ドライブの位置を合わせながらシステム内に挿入します。ハンドルでドライブを支えないでください。
4. 16 ページの図 6 に示すように、ドライブをシステムまたは拡張装置まで完全にスライドさせ、ドライブ・ハンドル (A) がロックされるまで押し込みます。

**重要:** ドライブを取り付ける際、ドライブを完全に固定し、システムに完全に入っていることを確認してください。

**注:** ハンドルだけをつかんでドライブを持たないでください。ドライブの側面を持ってドライブを支えてください。

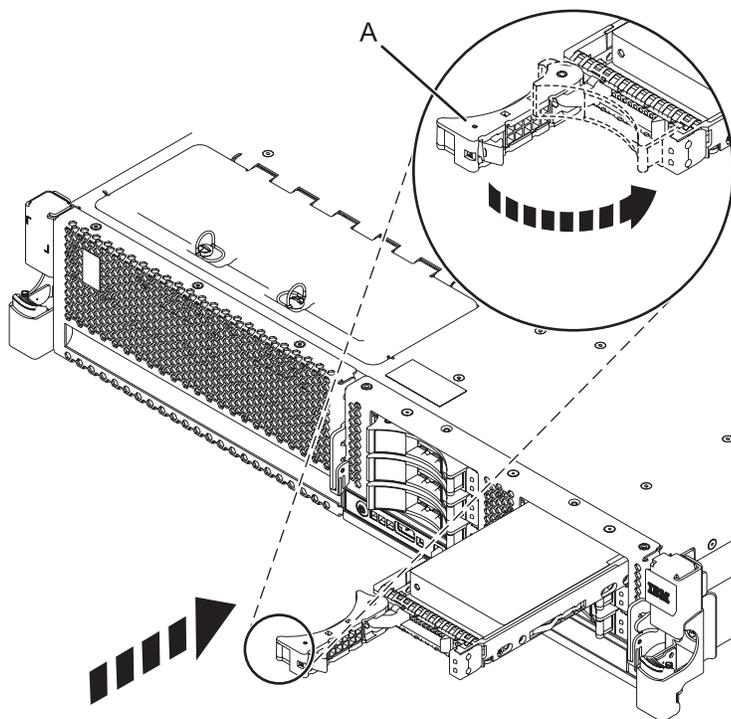


図6. システムへのドライブの取り付け

- 複数のドライブを取り付ける場合、すべてのドライブが取り付けられるまで、この手順のステップを繰り返します。

ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの取り付けを完了する手順に進みます。説明は、18 ページの『手順の完了』を参照してください。

## ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの 5887 ディスク・ドライブ・エンクロージャーへの取り付け

5887 ディスク・ドライブ・エンクロージャー に、ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り付けるには、以下のステップを実行します。

- ハンドルをアンロック位置にして (17 ページの図7 を参照)、ドライブの底面を支え、拡張装置のガイド・レールに位置合わせします。

**注:** ハンドルだけをつかんでソリッド・ステート・ドライブを持たないでください。ドライブの側面を持ってドライブを支えてください。

- ドライブが止まるまでドライブを 5887 ディスク・ドライブ・エンクロージャーの中に差し込みます。

**重要:** ドライブを取り付ける際、ドライブを完全に固定し、エンクロージャーに完全に入っていることを確認してください。

- ハンドルをロック位置まで回転させます。

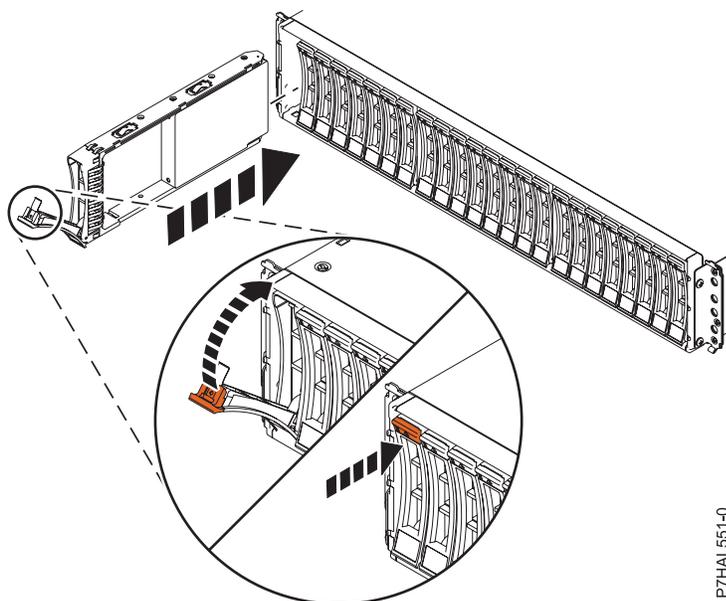


図7. ディスク・ドライブの 5887 ディスク・ドライブ・エンクロージャーへの取り付け

ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの取り付けを完了する手順に進みます。説明は、18 ページの『手順の完了』を参照してください。

## ソリッド・ステート・ドライブの EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーへの取り付け

ソリッド・ステート・ドライブを EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーに取り付けるには、以下のステップを完了します。

1. ハンドルをアンロック位置にして、ソリッド・ステート・ドライブをエンクロージャーのガイド・レールに位置合わせします。 18 ページの図 8 を参照してください。

**注:** ハンドルだけをつかんでドライブを持たないでください。ドライブの側面を持ってドライブを支えてください。

2. ソリッド・ステート・ドライブが止まるまでドライブを EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーの中に差し込みます。
3. 18 ページの図 8 に示すように、ハンドル (A) をロック位置まで回転させます。
4. ベゼル (B) を取り付けます。

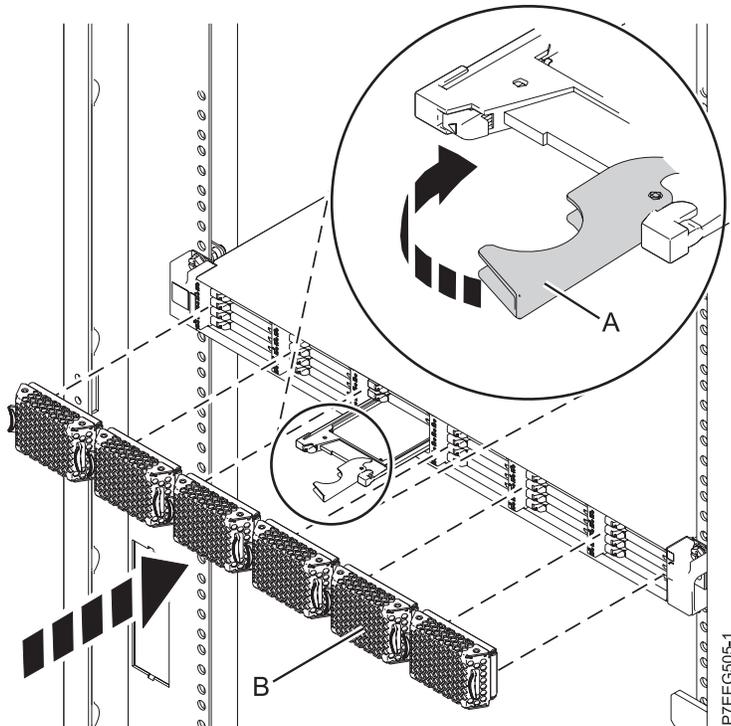


図8. ソリッド・ステート・ドライブの EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーへの取り付け

ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの取り付けを完了する手順に進みます。説明は、『手順の完了』を参照してください。

## 手順の完了

システム、エンクロージャー、または拡張装置でディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの取り付けまたは取り替えを行った後、以下のステップを実行します。

1. 電源コードがシステムから切り離されている場合は、システムに再接続してください。手順については、99 ページの『8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T システムへの電源コードの接続』を参照してください。
2. システムまたは論理区画を始動します。手順については、88 ページの『システムまたは論理区画の始動』を参照してください。
3. 取り付け済み部品を検査します。
  - 障害が原因で部品を取り替えた場合は、取り付け済み部品を検査します。手順については、109 ページの『修復の検証』を参照してください。
  - 他の何らかの理由で部品を取り付けた場合は、取り付け済み部品を検査します。手順については、99 ページの『取り付け済み部品の検査』を参照してください。
4. 新たに取り付けまたは取り替えを行ったディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブでデータを構成または再作成するには、データを再作成するための手順を参照してください。
5. 新しく取り付け、または取り替えたディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブでデータを再ビルドするには、61 ページの『Linux を実行しているシステムまたは論理区画の取り替え用ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブでのデータの再ビルド』を参照してください。

---

## 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T からのディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの取り外し

システムまたは論理区画が電源オンまたは電源オフの状態で、システム、ドライブ・エンクロージャー、または拡張装置から障害のあるディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り外す方法を説明します。

---

### Linux システムまたは論理区画が電源オンの状態で 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T のディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り外す

ドライブの位置を制御する Linux オペレーティング・システムまたは論理区画が電源オンの状態で、ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブをシステムまたは拡張装置内から取り外す方法を説明します。

**重要:** 以下の情報を読んで、この手順の代わりに別の手順を実行する必要があるかどうかを判断してください。

- 電源オンのままこの手順をするのが不安な場合は、25 ページの『システムまたは論理区画が電源オフの状態で 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T からディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り外す』に進みます。
- 新規またはアップグレードしたドライブを取り付ける場合は、6 ページの『Linux システムまたは論理区画が電源オンの状態で 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T にディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り付ける』を参照してください。

取り替えようとしているドライブを制御しているシステムまたは論理区画が Linux コマンド行にある場合は、この電源オンでの手順を使用できます。

保守手順の一環としてドライブを取り外す場合は、このまま進んで以下の手順を実行してください。

**注:** この手順で示す図のいくつかは、ご使用のシステム装置または拡張装置とまったく同じではないことがあります。ただし、完了する作業手順は同じです。

ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り外すには、以下のタスクを完了します。

- 20 ページの『ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブ取り外し準備』
- 20 ページの『iprconfig コマンドを使用したディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り外す準備』
- 次のオプションから選択します。
  - 『Linux システムまたは論理区画が電源オンの状態で 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T のディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り外す』

- 24 ページの『EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーからのソリッド・ステート・ドライブの取り外し』（このドライブ・エンクロージャーは、8246-L2T システム 用にサポートされています。）

#### 関連情報:

🔗 バックプレーン

🔗 5887 ディスク・ドライブ・エンクロージャー装置のディスク・ドライブの取り外しと再取り付け

## ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブ取り外し準備

システムまたは拡張装置から、ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り外す前に、以下のステップを実行します。

1. 前提条件作業を実行します。手順については、81 ページの『開始する前に』を参照してください。
2. 該当する場合は、システム装置または拡張装置のドアを取り外すか、またはラックの前面ドアを開きます。

iprconfig コマンドを使用してディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り外す手順に進みます。

## iprconfig コマンドを使用したディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り外す準備

iprconfig コマンドを使用して、ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブをシステムまたは拡張装置から取り外すには、以下のステップを実行します。

1. root ユーザーとしてログインします。
2. Linux セッションのコマンド行で iprconfig と入力し、Enter キーを押します。

「IBM Power RAID Configuration Utility」画面が表示されます。

3. 「ログの分析 (Analyze log)」を選択します。Enter キーを押します。「カーネル・メッセージ・ログ (Kernel Messages Log)」画面が表示されます。

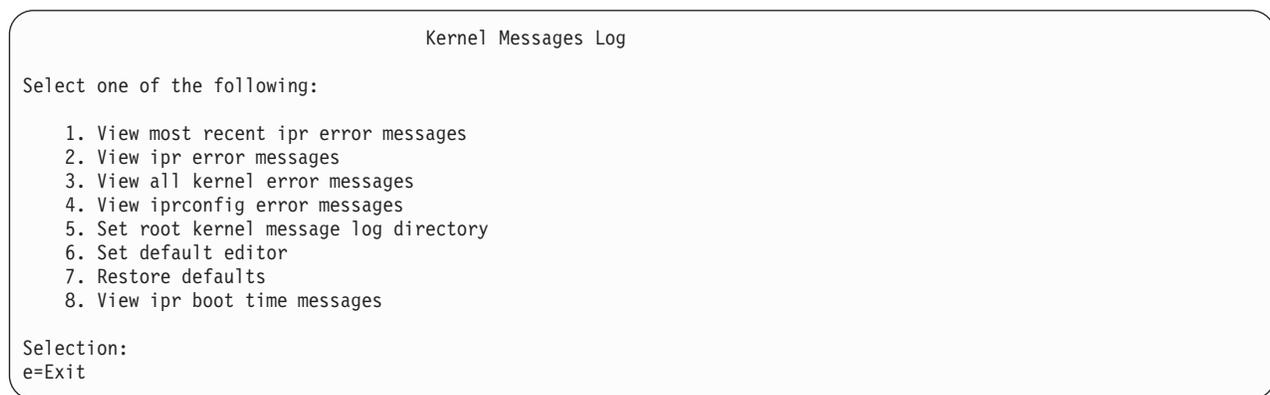


図 9. Kernel Messages Log

4. 「カーネル・メッセージ・ログ (Kernel Messages Log)」画面で、「最新 ipr エラー・メッセージの表示 (View most recent ipr error messages)」を選択します。Enter キーを押します。
5. 取り替えるドライブのログ・エントリーを見つけます。
6. ドライブのロケーション情報を記録します。

注: ロケーション情報は以下のいずれかの形式になっています。

**0:0:5:0** この例では、0 は SCSI ホスト・ナンバー、0 は SCSI バス、5 は SCSI ターゲット ID、0 は論理装置番号 (LUN) です。

**0/00-0E-02**

この例では、0 は SCSI ホスト・ナンバー、00 は入出力アダプター (IOA) SAS ポート、0E はエキスパンダー・ポート、02 はデバイス・ポートです。

7. 取り替えるドライブが無保護または使用中である場合は、この手順を続行する前に、ドライブからデータを移動してください。ドライブが RAID 0 (非冗長 RAID アレイ) 内にある場合は、データを移動した後で、RAID 0 を削除してから先に進みます。

PCI-X コントローラーについて詳しくは、「*PCI-X SCSI RAID Controller Reference Guide for Linux PDF*」を参照してください。この PDF は、Web ページ「SCSI PCI アダプター」から入手できます。

SAS RAID コントローラーについて詳しくは、SAS RAID コントローラー (Linux 用)を参照してください。

8. コマンド行で `iprconfig` と入力し、Enter キーを押します。

「IBM Power RAID Configuration Utility」画面が表示されます。

9. 「IBM Power RAID Configuration Utility」画面で、「ハードウェア状況の表示 (Display hardware status)」を選択します。Enter キーを押します。

図 10 および 22 ページの図 11 に示すように、「ハードウェア状況の表示 (Display Hardware Status)」画面が表示されます。

```
Display Hardware Status
Type option, press Enter.
1=Display hardware resource information details
OPT Name  PCI/SCSI Location      Description              Status
-----
0000:01:00.0/0:      PCI-E SAS RAID Adapter  Operational
0000:01:00.0/0:0:0:0  Advanced Function SSD   Active
0000:01:00.0/0:0:1:0  Advanced Function SSD   Active
0000:01:00.0/0:0:2:0  Advanced Function SSD   Active
0000:01:00.0/0:0:3:0  Advanced Function SSD   Active
0000:01:00.0/0:0:4:0  Advanced Function SSD   Active
0000:01:00.0/0:0:5:0  Advanced Function SSD   Failed
0000:01:00.0/0:0:6:0  Advanced Function SSD   Active
0000:01:00.0/0:0:8:0  Enclosure                Active
0000:01:00.0/0:0:9:0  Enclosure                Active
0001:01:00.0/1:      PCI-E SAS RAID Adapter  Operational
0001:01:00.0/1:0:3:0  Advanced Function SSD   Remote
0001:01:00.0/1:0:4:0  Advanced Function SSD   Remote
0001:01:00.0/1:0:5:0  Advanced Function SSD   Remote
More...
e=Exit  q=Cancel  r=Refresh  t=Toggle  f=PageDn  b=PageUp
```

図 10. 「ハードウェア状況の表示 (Display Hardware Status)」の例

```

Display Hardware Status
Type option, press Enter.
l=Display hardware resource information details
OPT Name Resource Path/Address Vendor Product ID Status
-----
sg23 FE IBM 57CE001SISIOA Operational
sg0 00-0E-01 IBM SG9XCA2E200GEIBM Active
sg1 00-0E-0A IBM SG9XCA2E200GEIBM Active
sg2 00-0E-0B IBM SG9XCA2E200GEIBM Active
sg3 00-0E-03 IBM SG9XCA2E200GEIBM Active
sg4 00-0E-09 IBM SG9XCA2E200GEIBM Active
sg5 00-0E-02 IBM SG9XCA2E200GEIBM Failed
sg6 00-0E-04 IBM SG9XCA2E200GEIBM Active
sg7 00-0C-26 IBM 5887 Active
sg8 00-0E-26 IBM 5887 Active
sg47 FE IBM 57CE001SISIOA Operational
sg26 00-0E-01 IBM SG9XCA2E200GEIBM Remote
sg27 00-0E-0A IBM SG9XCA2E200GEIBM Remote
sg28 00-0E-0B IBM SG9XCA2E200GEIBM Remote
More...
e=Exit q=Cancel r=Refresh t=Toggle f=PageDn b=PageUp

```

図 11. 「ハードウェア状況の表示 (Display Hardware Status)」の例

10. 記録した SCSI ロケーションで目的のドライブを探します。そのドライブは「障害 (Failed)」状況になっています。
11. 「IBM Power RAID Configuration Utility」画面に戻ります。
12. PCIe RAID および SSD SAS アダプター上にあるソリッド・ステート・デバイスを取り外す場合は、SAS RAID アダプターの取り外しおよび取り替えに進み、その手順を完了します。
13. 「IBM Power RAID Configuration Utility」画面で、「ディスク装置リカバリーの処理 (Work with disk unit recovery)」を選択します。Enter キーを押します。
14. 「ディスク装置リカバリーの処理 (Work with Disk Unit Recovery)」画面で、「デバイス並行取り外し (Concurrent remove device)」を選択して、Enter キーを押します。図 12 および 23 ページの図 13 に示す次の例のような「デバイス並行取り外し (Concurrent Device Remove)」画面が表示されます。

```

Concurrent Device Remove
Choose a single location for remove operations
l=Select
OPT Name PCI/SCSI Location Description Status
-----
sg0 U5887.001.Z065075-P1-D1 Empty
sg5 U5887.001.Z065075-P1-D2 Advanced Function SSD Active
sg3 U5887.001.Z065075-P1-D3 Advanced Function SSD Failed
sg6 U5887.001.Z065075-P1-D4 Advanced Function SSD Active
U5887.001.Z065075-P1-D5 Advanced Function SSD Active
U5887.001.Z065075-P1-D6 Empty
U5887.001.Z065075-P1-D7 Empty
U5887.001.Z065075-P1-D8 Empty
U5887.001.Z065075-P1-D9 Empty
sg4 U5887.001.Z065075-P1-D10 Advanced Function SSD Active
sg1 U5887.001.Z065075-P1-D11 Advanced Function SSD Active
sg2 U5887.001.Z065075-P1-D12 Advanced Function SSD Active

```

図 12. 「デバイス並行取り外し (Concurrent Device Remove)」画面の例

| Concurrent Device Remove                       |                         |          |                  |        |
|--|-------------------------|----------|------------------|--------|
| Choose a single location for remove operations |                         |          |                  |        |
| l=Select                                       |                         |          |                  |        |
| OPT Name                                       | SCSI Host/Resource Path | Vendor   | Product ID       | Status |
|  | 0/00-0E-00              |          |                  | Empty  |
| sg0  | 0/00-0E-01              | IBM      | SG9XCA2E200GEIBM | Active |
| sg5  | 0/00-0E-02              | IBM      | SG9XCA2E200GEIBM | Failed |
| sg3  | 0/00-0E-03              | IBM      | SG9XCA2E200GEIBM | Active |
| sg6  | 0/00-0E-04              | IBM      | SG9XCA2E200GEIBM | Active |
|  | 0/00-0E-05              |          |                  | Empty  |
|  | 0/00-0E-06              |          |                  | Empty  |
|  | 0/00-0E-07              |          |                  | Empty  |
|  | 0/00-0E-08              |          |                  | Empty  |
| sg4  | 0/00-0E-09              | IBM      | SG9XCA2E200GEIBM | Active |
| sg1  | 0/00-0E-0A              | IBM      | SG9XCA2E200GEIBM | Active |
| sg2  | 0/00-0E-0B              | IBM      | SG9XCA2E200GEIBM | Active |
| e=Exit   | q=Cancel                | t=Toggle |                  |        |

図 13. 「デバイス並行取り外し (Concurrent Device Remove)」画面の例

15. 「デバイス並行取り外し (Concurrent Device Remove)」パネル間の切り替えを行うには、「T」を押します。

16. ドライブの位置 (0:0:5:0 または 0/00-0E-02) の横に、「1」(選択 (Select)) を入力します。

「デバイス並行取り外しの確認 (Verify Device Concurrent Remove)」画面が示されます。そのドライブ・スロットのサービス・インディケータが明滅します。

次のオプションから選択します。

- ドライブをシステムまたは拡張装置から取り外そうとする場合は、『8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T システムまたは拡張装置からのディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの取り外し』に進みます。
- ドライブを EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャー から取り外そうとする場合は、24 ページの『EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーからのソリッド・ステート・ドライブの取り外し』に進みます。

## 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T システムまたは拡張装置からのディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの取り外し

システムまたは拡張装置から、ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り外す前に、以下のステップを実行します。

1. 「デバイス並行取り外しの確認 (Verify Device Concurrent Remove)」画面で、選択したドライブが取り替えるドライブであることを確認してから、Enter キーを押します。

注: 目的のドライブがデータ・ロスを防止するために使用されていないことを確認してください。

2. 以下のステップを実行します。
  - a. 識別 LED が明滅したら、24 ページの図 14 に示すように、ドライブのハンドルを握って手前に引き出し、ロックを解除します。
  - b. ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り外す前に、ドライブのハンドルを手前に引き出します。ハンドルが完全に引き出されていないと、ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブをスライドさせてシステムまたは拡張装置から引き出すことができません。
3. ドライブの底面を支えて、システムまたは拡張装置から引き出します。

注: ハンドルだけをつかんでドライブを持たないでください。ドライブの側面を持ってドライブを支えてください。

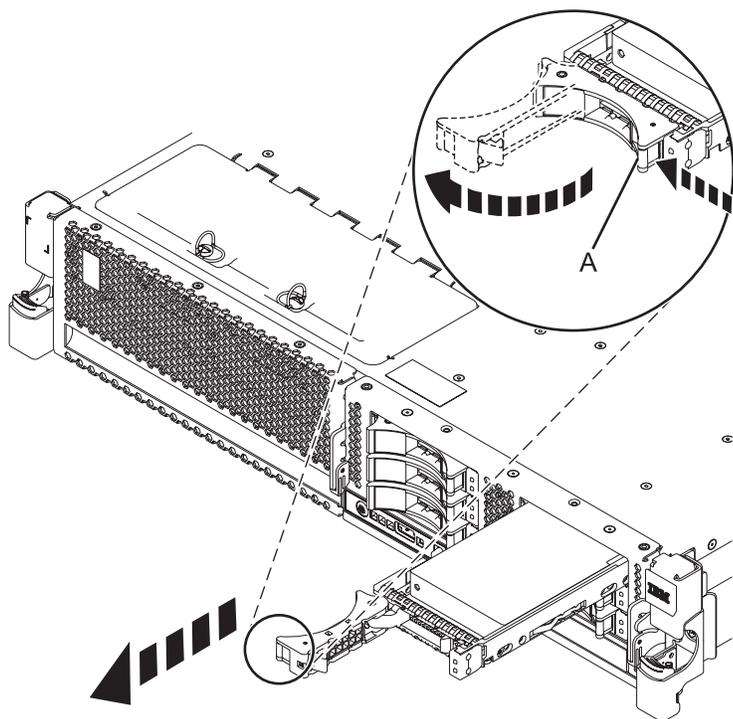


図 14. ディスク・ドライブのシステムからの取り外し

4. コンソールで Enter キーを押して、ドライブを取り外したことを示します。

取り替え用ドライブを取り付ける場合は、31 ページの『Linux システムまたは論理区画が電源オンの状態で 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T 内のディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り替える』に進みます。

取り替え用ドライブを取り付けない場合は、空の slots にフィラーを取り付けて、冷却のために適切な空気の流れを確保します。手順については、50 ページの『ディスク・ドライブ・フィラーの 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T への取り付け』を参照してください。

## EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーからのソリッド・ステート・ドライブの取り外し

EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーからソリッド・ステート・ドライブを取り外すには、以下のステップを実行します。

1. ソリッド・ステート・ドライブが取り付けられている slots を覆っているベゼル (A) を引いて取り外します。
2. リリース・ラッチ (B) をゆっくり上にスライドさせて、ドライブ・ハンドルのロックを解除します。25 ページの図 15 を参照してください。
3. 「デバイス並行取り外しの確認 (Verify Device Concurrent Remove)」画面で、選択したドライブが取り替えるドライブであることを確認してから、Enter キーを押します。

注: 目的のドライブがデータ・ロスを防止するために使用されていないことを確認してください。

4. ソリッド・ステート・ドライブ識別 LED が明滅したら、ハンドル (C) を握って、ドライブの一部をスロットから引き出します。
5. ソリッド・ステート・ドライブを持って、スロットから引き出します。コンソールで Enter キーを押して、ソリッド・ステート・ドライブを取り外したことを示します。 識別 LED はオフになります。

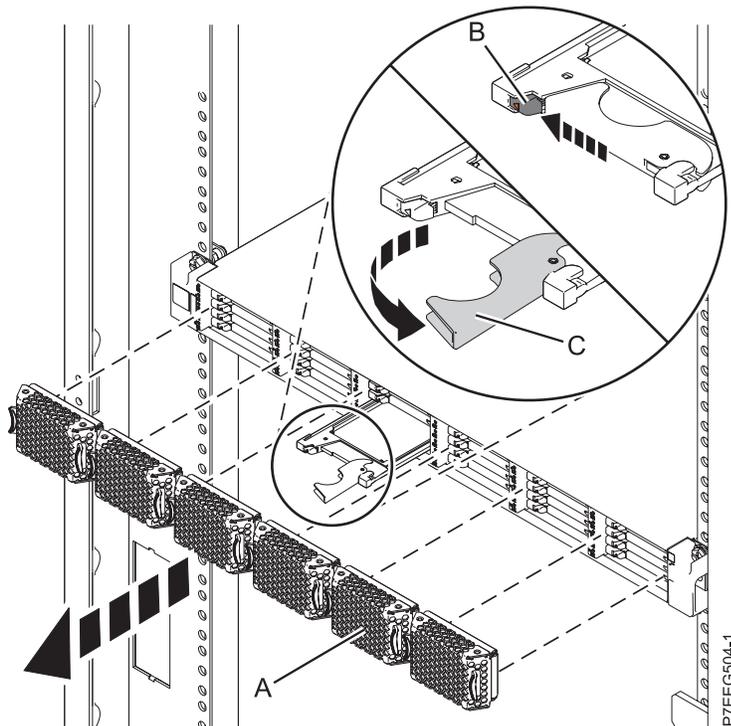


図 15. EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーからのソリッド・ステート・ドライブの取り外し

取り替え用ソリッド・ステート・ドライブを取り付ける場合、EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーのソリッド・ステート・ドライブを取り替える手順に進みます。手順については、34 ページの『EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーにおけるソリッド・ステート・ドライブの取り替え』を参照してください。

取り替え用ソリッド・ステート・ドライブを取り付けない場合は、空のスロットにフィラーを取り付けて、冷却のために適切な空気の流れを確保します。手順については、50 ページの『ディスク・ドライブ・フィラーの 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T への取り付け』を参照してください。

## システムまたは論理区画が電源オフの状態では 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T からディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り外す

ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの位置を制御するシステムまたは論理区画の電源がオフの状態では、Small Computer System Interface (SCSI) ドライブを取り外す方法を説明します。

保守手順の一環としてディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り外す場合は、このまま進んで以下の手順を実行してください。

電源オフの状態ではディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り外すには、以下のタスクを完了します。

- 『ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブ取り外し準備』
- 27 ページの『8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または8246-L2T システムまたは拡張装置からのディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの取り外し』
- 28 ページの『EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーからのソリッド・ステート・ドライブの取り外し』（このドライブ・エンクロージャーは、8246-L2T システム 用にサポートされています。）

#### 関連情報:

 [バックプレーン](#)

 [5887 ディスク・ドライブ・エンクロージャー装置のディスク・ドライブの取り外しと再取り付け](#)

## ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブ取り外し準備

システムまたは拡張装置から、ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り外す前に、以下のステップを実行します。

1. 前提条件作業を実行します。手順については、81 ページの『開始する前に』を参照してください。
2. 取り外すディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを見つけて、そのロケーション情報を記録します。詳しくは、84 ページの『部品の識別』を参照してください。
3. 次のようにシステム装置または拡張装置からディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り外す準備をします。

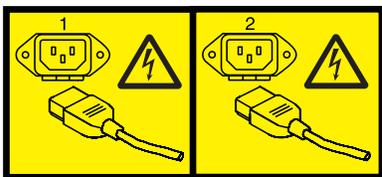
ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの位置を制御するシステムまたは論理区画が Linux オペレーティング・システムを実行していて、取り替えるディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブが無保護または使用中である場合は、この手順を続行する前に、ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブからデータを移動してください。

詳しくは、「*PCI-X SCSI RAID Controller Reference Guide for Linux PDF*」または SAS RAID コントローラー (Linux 用)を参照してください。「*PCI-X SCSI RAID Controller Reference Guide for Linux PDF*」は、Web ページ「SCSI PCI アダプター」から入手できます。

4. システムまたは論理区画を停止します。手順については、90 ページの『システムまたは論理区画の停止』を参照してください。
5. システムを停止した場合は、プラグを抜いてシステムから電源を切ります。手順については、98 ページの『8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または8246-L2T からの電源コードの切り離し』を参照してください。

注: このシステムには、2 次電源装置が装備されている場合があります。この手順を続行する前に、この電源装置を切り離します。システムの電源が切られていることを確認してください。

(L003)



または



6. リスト・ストラップを付けます。

**重要:**

- 静電気の放電 (ESD) によってハードウェアが損傷するのを防ぐために、リスト・ストラップをハードウェアの塗装されていない金属面に接続します。
- リスト・ストラップ使用時は、電気機器のすべての安全手順に従います。リスト・ストラップは静電気を制御するためのものです。これは、電気機器を使用または電気機器で作業を行う際に、感電するリスクを増大するものでも、低減するものでもありません。
- リスト・ストラップがない場合は、製品を ESD パッケージから取り出して、ハードウェアの取り付けまたは取り替えを行う直前に、システムの塗装されていない金属面に少なくとも 5 秒以上触れてください。

**8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T システムまたは拡張装置からのディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの取り外し**

システムまたは拡張装置から、ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り外す前に、以下のステップを実行します。

1. 28 ページの図 16 に示すように、ハンドルを握って手前に引き出し、ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブ・ハンドルをアンロックします。
2. ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り外す前に、ドライブのハンドルをつまんで手前に引き出します。ハンドルが完全に引き出されていないと、ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブをスライドさせてシステムまたは拡張装置から引き出すことができません。

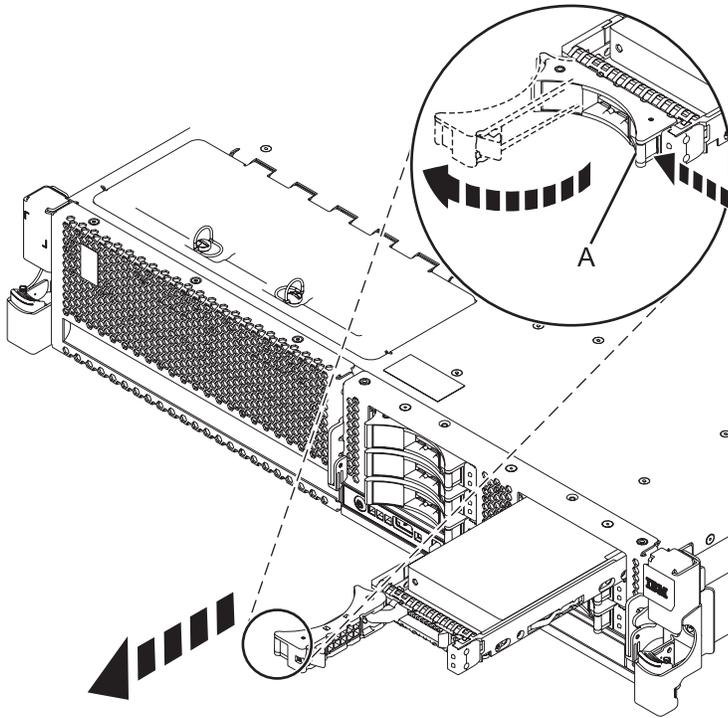


図 16. ディスク・ドライブのシステムからの取り外し

3. ドライブの底面を支えて、システムまたは拡張装置から引き出します。ハンドルでディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを支えないでください。

障害のあるディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの取り替え用ドライブを取り付ける場合は、36 ページの『システムまたは論理区画が電源オフの状態での 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T 内のディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り替える』に進みます。

取り替え用ドライブを取り付けない場合は、空の slot にフィラーを取り付けて、冷却のために適切な空気の流れを確保します。手順については、50 ページの『ディスク・ドライブ・フィラーの 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T への取り付け』を参照してください。

## EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーからのソリッド・ステート・ドライブの取り外し

EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーからソリッド・ステート・ドライブを取り外すには、以下のステップを実行します。

1. ソリッド・ステート・ドライブが取り付けられている slot を覆っているベゼル (A) を引いて取り外します。29 ページの図 17 を参照してください。
2. リリース・ラッチ (B) をゆっくり上にスライドさせて、ドライブ・ハンドルのロックを解除します。
3. ハンドル (C) を握って、ドライブの一部を slot から引き出します。

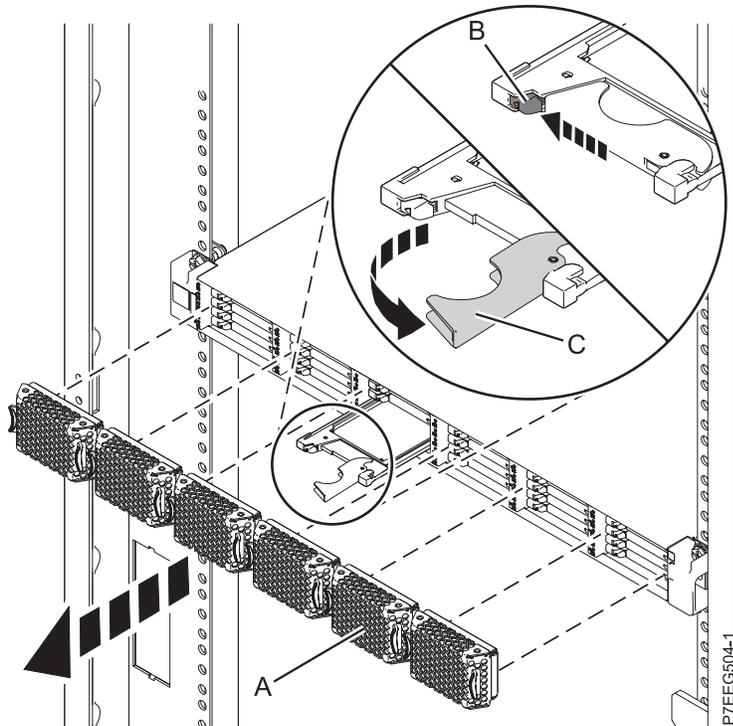


図 17. EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャからのソリッド・ステート・ドライブの取り外し

4. ソリッド・ステート・ドライブを持って、スロットから引き出します。

障害のあるソリッド・ステート・ドライブの取り替え用ドライブを取り付ける場合は、37 ページの『EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャにおけるソリッド・ステート・ドライブの取り替え』に進みます。

取り替え用ドライブを取り付けない場合は、空のスロットにフィラーを取り付けて、冷却のために適切な空気の流れを確保します。手順については、50 ページの『ディスク・ドライブ・フィラーの 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T への取り付け』を参照してください。



---

## ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、 8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2Tへの取り替え

システム電源をオンまたはオフにした状態でシステムまたは拡張装置の SCSI またはシリアル接続 SCSI (SAS) ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り替える方法について説明します。

他のエンクロージャーでのディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの取り外しおよび取り替えについては、そのエンクロージャーの情報を参照してください。

障害のあるディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り外し、同一タイプのディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブと取り替えるには、この手順を使用します。 ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り外した後で異なるタイプのディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り付ける場合は、既存のディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り外します。

ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの取り替え時には、システムまたは論理区画の電源はオフにしておくこともオンにしておくこともできます。 取り替えるディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブが Linux ルート・ボリューム・グループ (rootvg) 内にあり、ディスク保護されていない場合、あるいはソリッド・ステート・ディスク・ドライブが組み込まれた PCI Express (PCIe) RAID アダプターである場合は、電源オフ状態で取り替える手順を使用して、ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り替えてください。

---

### Linux システムまたは論理区画が電源オンの状態で 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T 内のディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り替える

ドライブの位置を制御する Linux オペレーティング・システムまたは論理区画が電源オンの状態で、ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブをシステムまたは拡張装置内に取り替える方法を説明します。

ドライブを取り替えるためには、最初に、そのドライブ用に使用するスロットに別のドライブまたはディスク・ドライブ・フィラーが取り付けられていないことを確認する必要があります。 ドライブを取り外す手順については、19 ページの『Linux システムまたは論理区画が電源オンの状態で 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T のディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り外す』を参照してください。 ディスク・ドライブ・フィラーを取り外す手順については、49 ページの『8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T からのディスク・ドライブ・フィラーの取り外し』を参照してください。

**重要:** 以下の情報を読んで、この手順の代わりに別の手順を実行する必要があるかどうかを判断してください。

- 以下のいずれかの場合は、36 ページの『システムまたは論理区画が電源オフの状態  
8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T 内の  
ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り替える』に進みます。
  - 6203 または 6204 SCSI アダプターに接続されるドライブを取り付ける。
  - 電源オンのままこの手順を使用するのが不安だ。
- 新規またはアップグレードしたドライブを取り付ける場合は、6 ページの『Linux システムまたは論理区  
画が電源オンの状態で 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、  
または 8246-L2T にディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り付ける』を参照し  
てください。

保守手順の一環としてドライブを取り替える場合は、このまま進んで以下の手順を実行してください。

ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り替えるには、以下のタスクを完了します。

- 『ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り替える準備』
- 33 ページの『`iprconfig` 診断コマンドを使用したディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライ  
ブを取り替える準備』
- 次のオプションから選択します。
  - 33 ページの『8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または  
8246-L2T または拡張装置におけるディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの取り替  
え』
  - 34 ページの『EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーにおけるソリッド・ステート・ドライブの  
取り替え』 (このドライブ・エンクロージャーは、8246-L2T システム 用にサポートされています。)
- 35 ページの『`iprconfig` コマンドを使用したディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの  
取り替えの完了』
- 35 ページの『手順の完了』

**注:** この手順で示す図のいくつかは、ご使用のシステム装置または拡張装置とまったく同じではないことが  
あります。ただし、完了する作業手順は同じです。

#### 関連情報:

 5887 ディスク・ドライブ・エンクロージャー装置のディスク・ドライブの取り外しと再取り付け

## ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り替える準備

システムまたは拡張装置に、ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り替える前に、  
以下のステップを完了します。

1. 前提条件作業を実行します。手順については、81 ページの『開始する前に』を参照してください。
2. 新しいドライブが入っているパッケージを用意します。

**重要:** ドライブは壊れやすいため、注意して取り扱ってください。
3. ドライブを帯電防止パッケージから取り出します。
4. `iprconfig` コマンドを使用したドライブを取り替える準備に進みます。

## iprconfig 診断コマンドを使用したディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り替える準備

iprconfig コマンドを使用してディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り替える前に、以下のステップを完了してください。

1. 「IBM Power RAID Configuration Utility」画面で、「ディスク装置リカバリーの処理 (Work with disk unit recovery)」を選択します。Enter キーを押します。
2. 「ディスク装置リカバリーの処理 (Work with Disk Unit Recovery)」画面で、「デバイス並行追加 (Concurrent add device)」を選択します。Enter キーを押します。

「デバイス並行追加 (Concurrent Device Add)」画面が次の例のように表示されます。

```
Concurrent Device Add
Choose a single location for add operations
l>Select
OPT Name      Platform Location      Description      Status
-----
              U5887.001.Z065075-P1-D1      Empty
              U5887.001.Z065075-P1-D6      Empty
              U5887.001.Z065075-P1-D7      Empty
              U5887.001.Z065075-P1-D8      Empty
              U5887.001.Z065075-P1-D9      Empty
e=Exit  q=Cancel  t=Toggle
```

図 18. 「デバイス並行追加 (Concurrent Device Add)」画面の例

3. ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り外した位置の横に、「1」(選択 (Select)) を入力します。

「デバイス並行追加の確認 (Verify Device Concurrent Add)」画面が表示されます。そのドライブ・スロットのサービス・インディケータが明滅します。

次のオプションから選択します。

- システムまたは拡張装置内のドライブを取り替えようとする場合は、『8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T または拡張装置におけるディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの取り替え』に進みます。
- EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャー 内のドライブを取り替えようとする場合は、34 ページの『EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーにおけるソリッド・ステート・ドライブの取り替え』に進みます。

## 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T または拡張装置におけるディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの取り替え

システムまたは拡張装置で、ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り替えるには、以下のステップを実行します。

1. ハンドルを握って手前に引き出し、ライブ・ハンドルをアンロックします。ハンドルが完全に引き出されていないと、ドライブをスライドさせてシステムまたは拡張装置に入れることができません。
2. ドライブの上端と下端を持ってドライブを位置決めし、システムまたは拡張装置に挿入します。ハンドルでドライブを支えないでください。

3. ドライブをシステムに半分くらいまで差し込みます。
4. 「デバイス並行追加の確認 (Verify Device Concurrent Add)」画面で、選択したドライブが取り替えるドライブであることを確認してから、Enter キーを押します。
5. 識別 LED が明滅したら、ドライブをシステムの中に奥まで差し込み、ドライブのハンドル (A) をロックされるまで押します (図 19 を参照)。

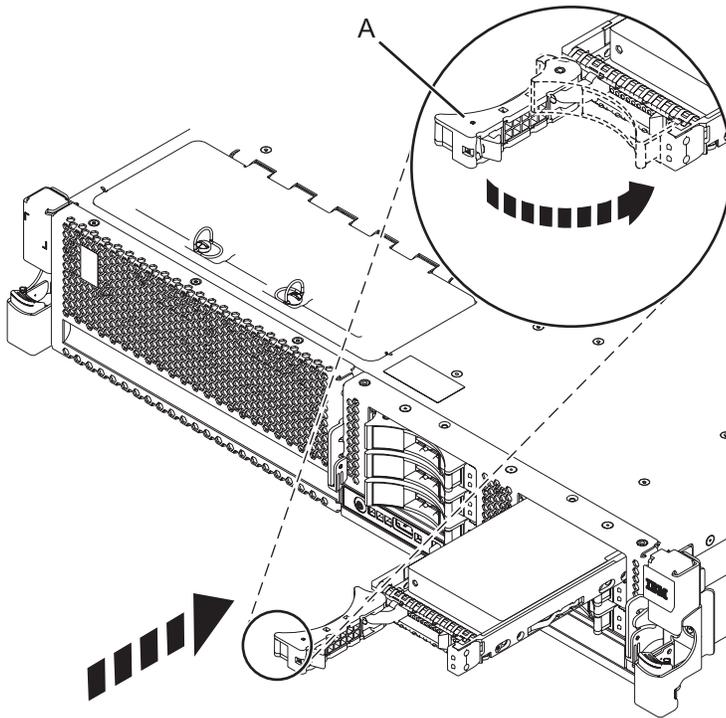


図 19. ディスク・ドライブのシステムへの取り付け

ドライブの取り替えを完了する手順に進みます。手順については、35 ページの『iprconfig コマンドを使用したディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの取り替えの完了』を参照してください。

## EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーにおけるソリッド・ステート・ドライブの取り替え

ソリッド・ステート・ドライブをEDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーに取り替えるには、以下のステップを完了します。

1. ハンドルをアンロック位置にして、ソリッド・ステート・ドライブをエンクロージャーのガイド・レールに位置合わせします。

**注:** ハンドルだけをつかんでドライブを持たないでください。ドライブの側面を持ってドライブを支えてください。

2. ソリッド・ステート・ドライブをEDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーに半分くらいまで差し込みます。
3. 「デバイス並行追加の確認 (Verify Device Concurrent Add)」画面で、選択したドライブが取り替えるドライブであることを確認してから、Enter キーを押します。

4. ソリッド・ステート・ドライブ識別 LED が明滅したら、ソリッド・ステート・ドライブを EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーの中に奥まで差し込み、完全に固定します。次に、ハンドル (A) をロック位置まで回転させます。図 20 を参照してください。
5. ベゼル (B) を取り付けます。

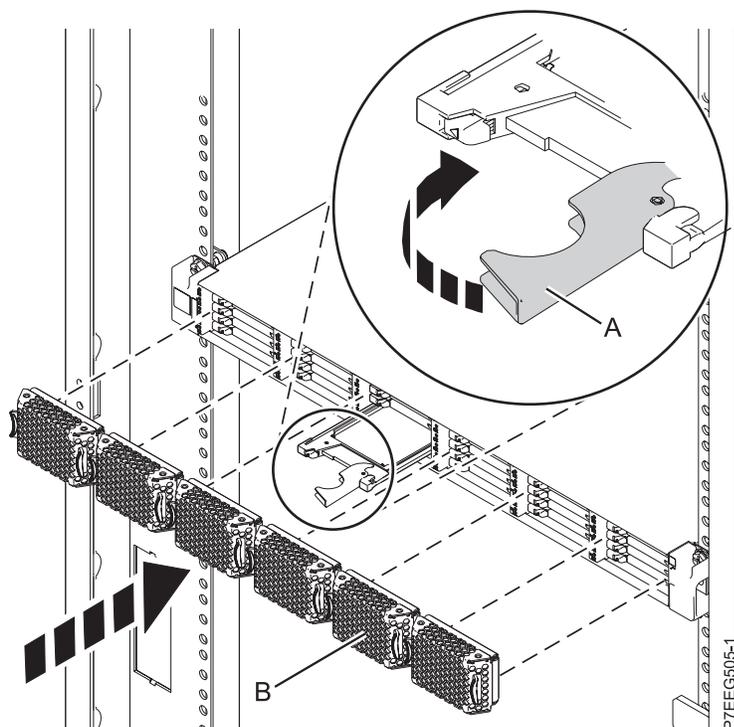


図 20. EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーにおけるソリッド・ステート・ドライブの取り替え

ドライブの取り替えを完了する手順に進みます。手順については、『iprconfig コマンドを使用したディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの取り替えの完了』を参照してください。

## iprconfig コマンドを使用したディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの取り替えの完了

iprconfig コマンドを使用して以下のタスクを完了します。

1. 目的のディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブが取り付けられていることを表示するには「デバイス並行追加の完了 (Complete Device Concurrent Add)」画面で Enter キーを押します。
2. 手順を完了する作業に進みます。

### 手順の完了

システム、エンクロージャー、または拡張装置でディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの取り付けまたは取り替えを行った後、以下のステップを実行します。

1. 取り付け済み部品を検査します。
  - 障害が原因で部品を取り替えた場合は、取り付け済み部品を検査します。手順については、109 ページの『修復の検証』を参照してください。

- 他の何らかの理由で部品を取り付けた場合は、取り付け済み部品を検査します。手順については、99 ページの『取り付け済み部品の検査』を参照してください。
2. 新しく取り付け、または取り替えたディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブでデータを再ビルドするには、61 ページの『Linux を実行しているシステムまたは論理区画の取り替え用ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブでのデータの再ビルド』を参照してください。

---

## システムまたは論理区画が電源オフの状態での 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T 内のディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り替える

ドライブの位置を制御するシステムまたは論理区画の電源がオフの状態、障害のある Small Computer System Interface (SCSI) ドライブを取り替える方法を説明します。

この手順を実行するには、取り外し手順がすでに完了している必要があります。取り外し手順については、25 ページの『システムまたは論理区画が電源オフの状態での 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T からディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り外す』を参照してください。新規またはアップグレードしたディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り付ける場合は、12 ページの『システムまたは論理区画が電源オフの状態での 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T にディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り付ける』を参照してください。保守手順の一環としてディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り替える場合は、このまま進んで以下の手順を実行してください。

ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り替えるには、以下のタスクを完了します。

- 次のオプションから選択します。
  - 『システムまたは論理区画が電源オフの状態での 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T 内のディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り替える』
  - 37 ページの『EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーにおけるソリッド・ステート・ドライブの取り替え』（このドライブ・エンクロージャーは、8246-L2T システム用にサポートされています。）
- 38 ページの『手順の完了』

### 関連情報:

 5887 ディスク・ドライブ・エンクロージャー装置のディスク・ドライブの取り外しと再取り付け

## 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T または拡張装置におけるディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの取り替え

システムまたは拡張装置で、ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り替えるには、以下のステップを実行します。

1. 使用するスロットにディスク・ドライブ・フィラーが入っている場合は、スロットからそのディスク・ドライブ・フィラーを取り外します。手順については、49 ページの『8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T からのディスク・ドライブ・フィラーの取り外し』を参照してください。

2. ハンドルを握って手前に引き出し、ライブ・ハンドルをアンロックします。ハンドルが完全に引き出されていないと、ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブをスライドさせてシステムまたは拡張装置に入れることができません。
3. ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの上端と下端を持ってドライブを位置決めし、システムまたは拡張装置に挿入します。

注: ハンドルだけをつかんでソリッド・ステート・ドライブを持たないでください。ドライブの側面を持ってドライブを支えてください。

4. ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブをシステムまたは拡張装置まで完全にスライドさせ、ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブ・ハンドル (A) がロックされるまで押し込みます。図 21 を参照してください。

重要: ドライブを取り付ける際、ドライブを完全に固定し、エンクロージャーに完全に入っていることを確認してください。

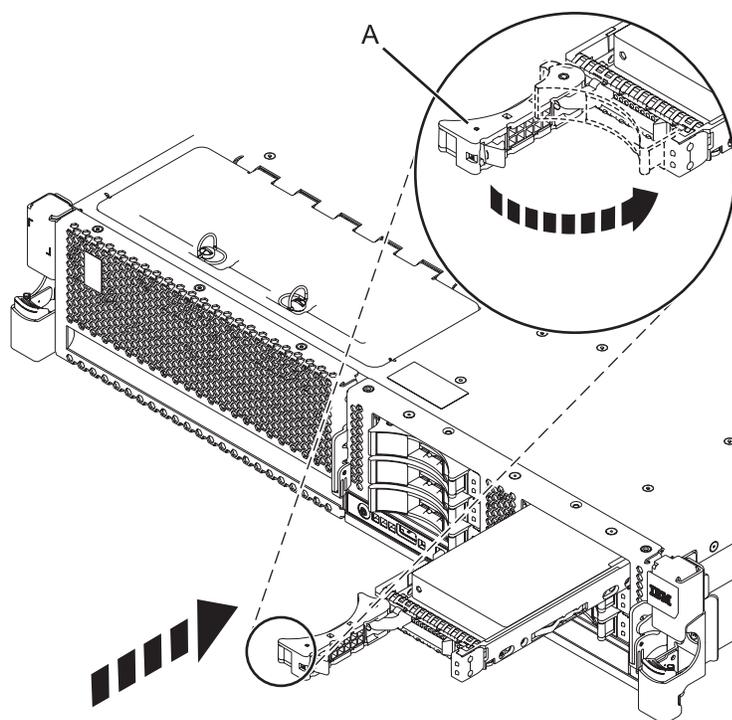


図 21. ディスク・ドライブのシステムへの取り付け

ドライブの取り替えを完了する手順に進みます。手順については、38 ページの『手順の完了』を参照してください。

## EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーにおけるソリッド・ステート・ドライブの取り替え

ソリッド・ステート・ドライブをEDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーに取り替えるには、以下のステップを完了します。

1. ハンドルをアンロック位置にして、ソリッド・ステート・ドライブをエンクロージャーのガイド・レールに位置合わせします。

注: ハンドルだけをつかんでドライブを持たないでください。ドライブの側面を持ってドライブを支えてください。

2. ソリッド・ステート・ドライブが止まるまでドライブを EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーの中に差し込みます。
3. 図 22 に示すように、ハンドル (A) をロック位置まで回転させます。
4. ベゼル (B) を取り付けます。

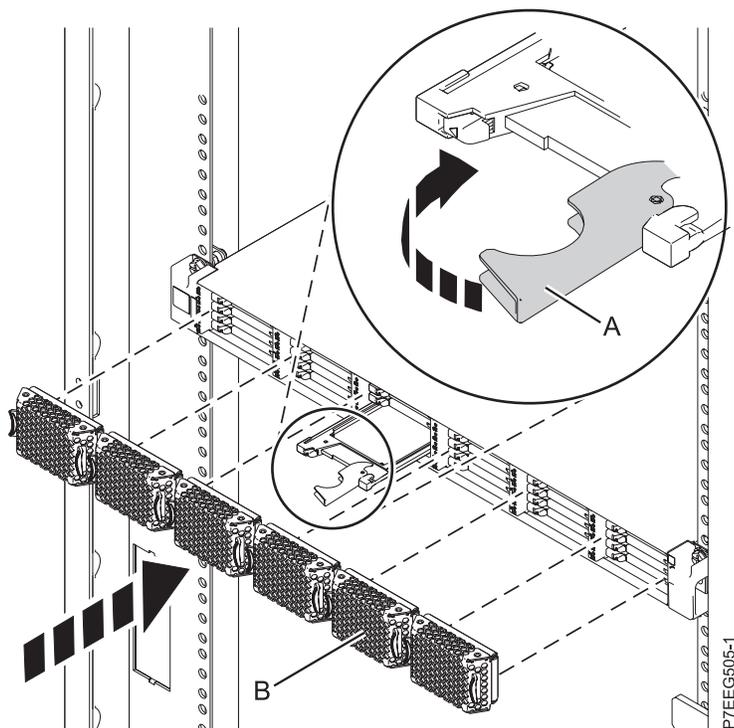


図 22. EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーにおけるソリッド・ステート・ドライブの取り替え

ドライブの取り替えを完了する手順に進みます。手順については、『手順の完了』を参照してください。

## 手順の完了

システム、エンクロージャー、または拡張装置でディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの取り付けまたは取り替えを行った後、以下のステップを実行します。

1. 電源コードがシステムから切り離されている場合は、システムに再接続してください。手順については、99 ページの『8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T システムへの電源コードの接続』を参照してください。
2. システムまたは論理区画を始動します。手順については、88 ページの『システムまたは論理区画の始動』を参照してください。
3. 取り付け済み部品を検査します。
  - 障害が原因で部品を取り替えた場合は、取り付け済み部品を検査します。手順については、109 ページの『修復の検証』を参照してください。
  - 他の何らかの理由で部品を取り付けた場合は、取り付け済み部品を検査します。手順については、99 ページの『取り付け済み部品の検査』を参照してください。

4. 新たに取り付けまたは取り替えを行ったディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブでデータを構成または再作成するには、データを再作成するための手順を参照してください。
5. 新しく取り付けた、または取り替えたディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブでデータを再ビルドするには、61 ページの『Linux を実行しているシステムまたは論理区画の取り替え用ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブでのデータの再ビルド』を参照してください。



---

## 外部 SAS ポートの取り外しまたは取り付け

サーバーで外部シリアル接続 SCSI (SAS) ポートの取り外しまたは取り付けを行う方法を説明します。

注: 外部 SAS ポート・スロットには、別の外部 SAS ポートまたはフィルターを取り付けてください。空のスロットを塞ぐことにより、冷却のための適切な空気の流れが確保され、最適な電磁気干渉 (EMI) 適合性が維持されます。

---

### 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、 8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T からの外部 SAS ポートの取り外し

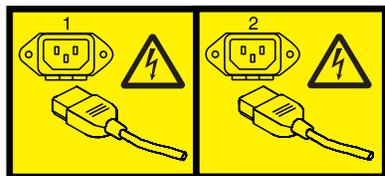
保守手順の一環としてディスク・ドライブ・バックプレーンから障害のあるシリアル接続 SCSI (SAS) ポートを取り外す方法を説明します。

サーバー・システム・バックプレーンの外部 SAS 接続ポートから SAS ケーブルを取り外すには、以下のステップを完了します。

1. システム識別 (青色) LED をオンにして、作業を行うシステムを識別します。手順については、コントロール・パネルの LED およびエンクロージャー・インジケータの使用可能化 (Control panel LEDs and enabling enclosure indicators) を参照してください。
2. 前提条件作業を実行します。手順については、81 ページの『開始する前に』を参照してください。
3. システムまたは論理区画を停止します。手順については、90 ページの『システムまたは論理区画の停止』を参照してください。
4. システムのプラグを抜いて、システムの電源を切り離します。手順については、98 ページの『8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T からの電源コードの切り離し』を参照してください。

注: このシステムには、2 次電源装置が装備されている場合があります。この手順を続行する前に、この電源装置を切り離します。システムの電源が切られていることを確認してください。

(L003)



または



5. リスト・ストラップを付けます。

**重要:**

- 静電気の放電 (ESD) によってハードウェアが損傷するのを防ぐために、リスト・ストラップをハードウェアの塗装されていない金属面に接続します。
  - リスト・ストラップ使用時は、電気機器のすべての安全手順に従います。リスト・ストラップは静電気を制御するためのものです。これは、電気機器を使用または電気機器で作業を行う際に、感電するリスクを増大するものでも、低減するものでもありません。
  - リスト・ストラップがない場合は、製品を ESD パッケージから取り出して、ハードウェアの取り付けまたは取り替えを行う直前に、システムの塗装されていない金属面に少なくとも 5 秒以上触れてください。
6. システムを保守位置に置きます。手順については、95 ページの『ラック・マウント型 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T の保守位置への設置』を参照してください。
  7. 保守アクセス・カバーを取り外します。手順については、93 ページの『8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T からの保守アクセス・カバーの取り外し』を参照してください。
  8. 外部 SAS ポート・ケーブルにアクセスするために、すべての PCI アダプターを切り離して取り外します。手順については、電源オフ時に行う 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T サーバーからの PCI アダプターの取り外しを参照してください。
  9. 青色のタッチ・ポイント (B) を持ってケーブル・ブラケットを引っ張り、SAS ケーブルをシャーシ後部の外部 SAS ポート開口部から引き出します。43 ページの図 23 を参照してください。
  10. SAS ケーブル (C) をシステムから引き抜きます。
  11. SAS コネクター (A) のラッチを強く握って、ケーブルをシステム変換コネクター・カードの被覆部から引き抜きます。

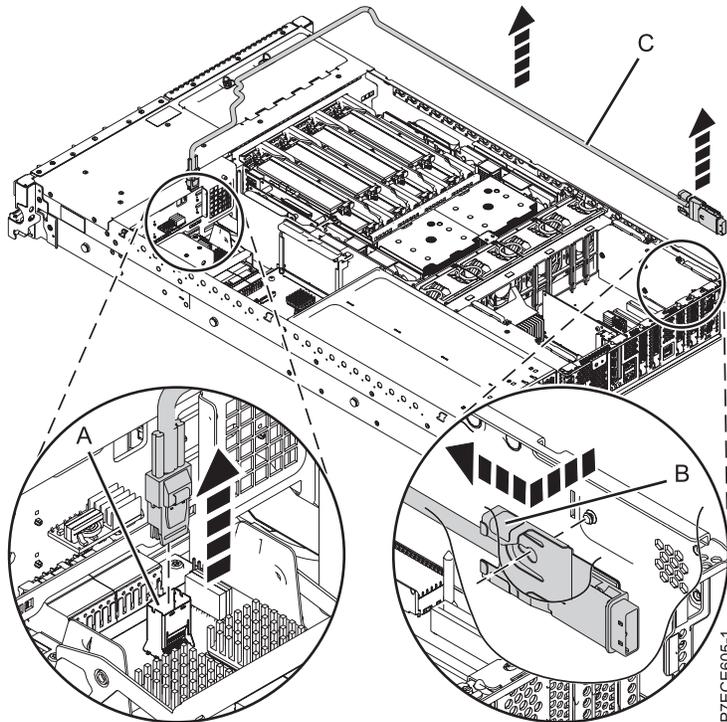


図 23. 外部 SAS ポートの取り外し

SAS ポートを取り替える手順を続行できます。手順については、46 ページの『8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T における外部 SAS ポートの取り替え』を参照してください。

SAS ポートを取り替えない場合は、ディスク・ドライブ・バックプレーン上の外部 SAS 接続ポートにフィルターを取り付けることができます。

## 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T への外部 SAS ポートの取り付け

ディスク・ドライブ・バックプレーンのアップグレード作業の一環として、または内部ディスクの共有を可能にするために、外部シリアル接続 SCSI (SAS) ポートを取り付ける方法を説明します。

障害のある SAS ポートを取り替える場合は、46 ページの『8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T における外部 SAS ポートの取り替え』を参照してください。

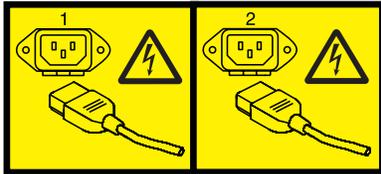
サーバー・システム・バックプレーンの外部 SAS 接続ポートに SAS ケーブルを接続するには、以下の手順を完了します。

1. システム識別 (青色) LED をオンにして、作業を行うシステムを識別します。手順については、コントロール・パネルの LED およびエンクロージャー・インジケータの使用可能化 (Control panel LEDs and enabling enclosure indicators) を参照してください。
2. 前提条件作業を実行します。手順については、81 ページの『開始する前に』を参照してください。
3. システムまたは論理区画を停止します。手順については、90 ページの『システムまたは論理区画の停止』を参照してください。

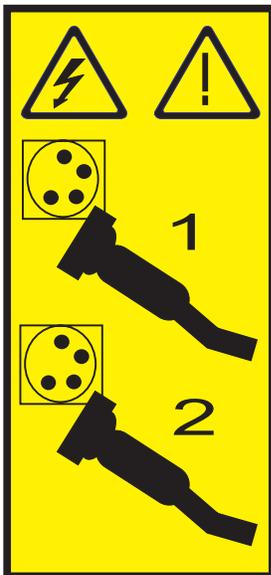
4. システムのプラグを抜いて、システムの電源を切り離します。手順については、98 ページの『8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T からの電源コードの切り離し』を参照してください。

注: このシステムには、2 次電源装置が装備されている場合があります。この手順を続行する前に、この電源装置を切り離します。システムの電源が切られていることを確認してください。

**(L003)**



または



5. リスト・ストラップを付けます。

**重要:**

- 静電気の放電 (ESD) によってハードウェアが損傷するのを防ぐために、リスト・ストラップをハードウェアの塗装されていない金属面に接続します。
  - リスト・ストラップ使用時は、電気機器のすべての安全手順に従います。リスト・ストラップは静電気を制御するためのものです。これは、電気機器を使用または電気機器で作業を行う際に、感電するリスクを増大するものでも、低減するものでもありません。
  - リスト・ストラップがない場合は、製品を ESD パッケージから取り出して、ハードウェアの取り付けまたは取り替えを行う直前に、システムの塗装されていない金属面に少なくとも 5 秒以上触れてください。
6. システムを保守位置に置きます。手順については、95 ページの『ラック・マウント型 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T の保守位置への設置』を参照してください。

7. 保守アクセス・カバーを取り外します。手順については、93ページの『8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または8246-L2Tからの保守アクセス・カバーの取り外し』を参照してください。
8. 外部 SAS ポート・ケーブルにアクセスするために、すべての PCI アダプターを切り離して取り外します。手順については、電源オフ時に行う8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または8246-L2Tサーバーからの PCI アダプターの取り外しを参照してください。
9. システム・シャーシ背面の外部 SAS 接続ポートからフィラーを取り外します (ある場合)。
10. SAS ケーブルのミニ SAS コネクタを、ストレージ変換コネクタの内部 SAS 接続ポート (C) に音がするまでしっかりと接続します。図 24を参照してください。
11. メモリー・ライザー・ケージの前面にあるケーブル (A) を、SAS ポート・コネクタがシャーシ後部の開口部の近くに来るまで側壁のチャンネルに沿って配線します。
12. SAS ポート・コネクタ (B) のブラケットのスロットをシャーシのガイド・ピンの上の位置に合わせます。次に SAS ポート・コネクタをシャーシ後部の開口部に差し込み、ブラケットのタブが音を立ててはまるまで押し込みます。

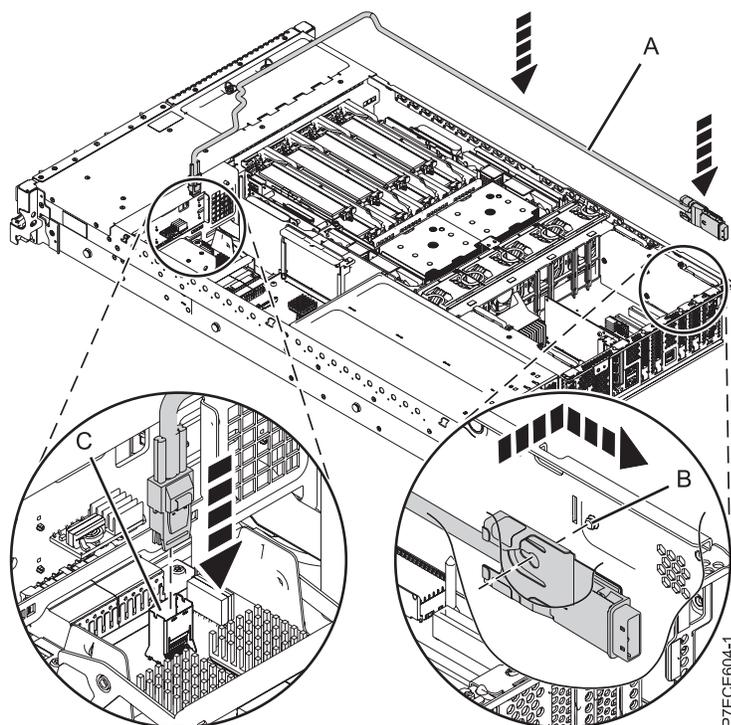


図 24. SAS ケーブルの取り付け

13. PCI アダプターをすべて元の位置に戻します。手順については、電源オフ時に行う8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または8246-L2Tサーバーでの PCI アダプターの取り替えを参照してください。
14. システムを操作位置にします。手順については、96ページの『ラック・マウント型8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または8246-L2Tの操作への設置』を参照してください。

15. 保守アクセス・カバーを再取り付けします。手順については、94 ページの『8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T への保守アクセス・カバーの取り付け』を参照してください。
16. 電源コードをシステムに接続します。手順については、99 ページの『8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T システムへの電源コードの接続』を参照してください。
17. システムまたは論理区画を始動します。手順については、88 ページの『システムまたは論理区画の始動』を参照してください。
18. 取り付け済み部品を検査します。
  - 障害が原因で部品を取り替えた場合は、取り付け済み部品を検査します。手順については、109 ページの『修復の検証』を参照してください。
  - 他の何らかの理由で部品を取り付けた場合は、取り付け済み部品を検査します。手順については、99 ページの『取り付け済み部品の検査』を参照してください。

これで、サポートされる他の SAS フィーチャーをシステムに接続できるようになりました。

---

## 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T における外部 SAS ポートの取り替え

保守手順の一環として外部シリアル接続 SCSI (SAS) ポートを取り替える方法を説明します。

外部 SAS ポートを取り替える前に、障害のある外部 SAS ポートを取り外しておく必要があります。システム・バックプレーン上の障害のある SAS ポートを取り替えるには、以下の手順を完了します。

1. 前提条件作業を実行します。手順については、81 ページの『開始する前に』を参照してください。
2. リスト・ストラップを付けます。

### 重要:

- 静電気の放電 (ESD) によってハードウェアが損傷するのを防ぐために、リスト・ストラップをハードウェアの塗装されていない金属面に接続します。
  - リスト・ストラップ使用時は、電気機器のすべての安全手順に従います。リスト・ストラップは静電気を制御するためのものです。これは、電気機器を使用または電気機器で作業を行う際に、感電するリスクを増大するものでも、低減するものでもありません。
  - リスト・ストラップがない場合は、製品を ESD パッケージから取り出して、ハードウェアの取り付けまたは取り替えを行う直前に、システムの塗装されていない金属面に少なくとも 5 秒以上触れてください。
3. SAS ケーブルのミニ SAS コネクタを、ストレージ変換コネクタの内部 SAS 接続ポート (C) に音がするまでしっかりと接続します。47 ページの図 25 を参照してください。
  4. メモリー・ライザー・ケージの前面にあるケーブル (A) を、SAS ポート・コネクタがシャーシ後部の開口部の近くに来るまで側壁のチャンネルに沿って配線します。
  5. SAS ポート・コネクタ (B) のブラケットのスロットをシャーシのガイド・ピンの上の位置に合わせます。次に SAS ポート・コネクタをシャーシ後部の開口部に差し込み、ブラケットのタブが音を立ててはまるまで押し込みます。

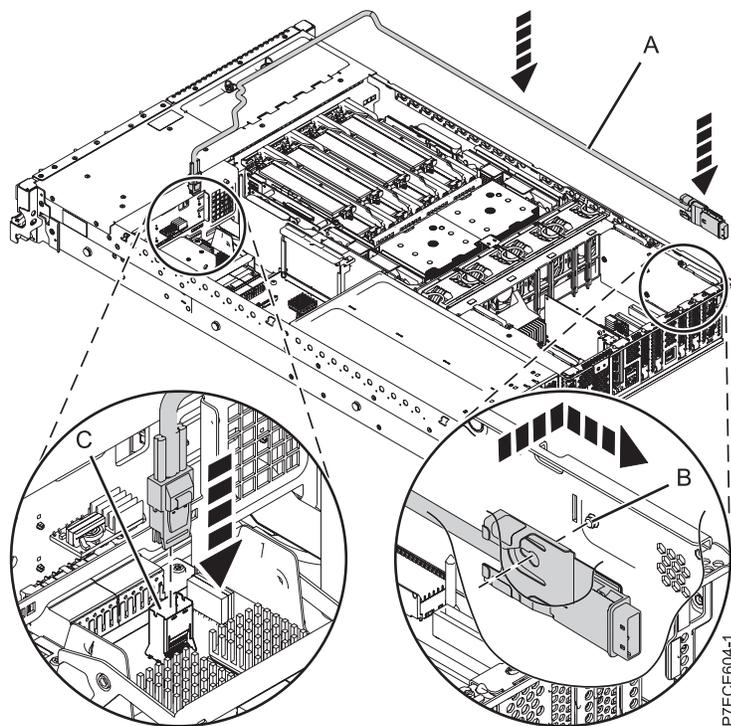


図 25. SAS ケーブルの再取り付け

6. PCI アダプターをすべて元の位置に戻します。手順については、電源オフ時に行う 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T サーバーでの PCI アダプターの取り替えを参照してください。
7. システムを操作位置にします。手順については、96 ページの『ラック・マウント型 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T の操作への設置』を参照してください。
8. 保守アクセス・カバーを再取り付けします。手順については、94 ページの『8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T への保守アクセス・カバーの取り付け』を参照してください。
9. 電源コードをシステムに接続します。手順については、99 ページの『8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T システムへの電源コードの接続』を参照してください。
10. システムまたは論理区画を始動します。手順については、88 ページの『システムまたは論理区画の始動』を参照してください。
11. 取り付け済み部品を検査します。
  - 障害が原因で部品を取り替えた場合は、取り付け済み部品を検査します。手順については、109 ページの『修復の検証』を参照してください。
  - 他の何らかの理由で部品を取り付けた場合は、取り付け済み部品を検査します。手順については、99 ページの『取り付け済み部品の検査』を参照してください。

これで、サポートされる他の SAS フィーチャーをシステムに接続できるようになりました。



---

## ディスク・ドライブ・フィルターの取り外しまたは取り付け

システムまたは拡張装置で SCSI ディスク・ドライブ・フィルターの取り外しまたは取り付けを行う方法を説明します。

注: ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブのスロットには、別のディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブ、あるいはディスク・ドライブ・フィルターを取り付けてください。ディスク・ドライブ・スロットを塞ぐことにより、冷却のための適切な空気の流れが確保され、最適な電磁気干渉 (EMI) 適合性が維持されます。

---

### 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T からのディスク・ドライブ・フィルターの取り外し

サーバーまたは拡張装置から Small Computer System Interface (SCSI) ディスク・ドライブ・フィルターを取り外す方法を説明します。

ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブをシステムまたは拡張装置に取り付けようとする場合、使用したいスロットにはディスク・ドライブ・フィルターが取り付けられている可能性があります。

ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブをスロットに取り付ける前にフィルターを取り外すには、以下のステップを実行します。

1. システム装置、拡張装置のドアを取り外すか、またはラックの前面ドアを開きます。
2. ディスク・ドライブ・フィルターが入ったスロットを識別します。

**重要:**

- 静電気の放電 (ESD) によってハードウェアが損傷するのを防ぐために、リスト・ストラップをハードウェアの塗装されていない金属面に接続します。
  - リスト・ストラップ使用時は、電気機器のすべての安全手順に従います。リスト・ストラップは静電気を制御するためのものです。これは、電気機器を使用または電気機器で作業を行う際に、感電するリスクを増大するものでも、低減するものでもありません。
  - リスト・ストラップがない場合は、製品を ESD パッケージから取り出して、ハードウェアの取り付けまたは取り替えを行う直前に、システムの塗装されていない金属面に少なくとも 5 秒以上触れてください。
3. 50 ページの図 26 に示すように、フィルター・ハンドル (A) を引き上げて、ディスク・ドライブ・フィルターをスロットから引き出します。

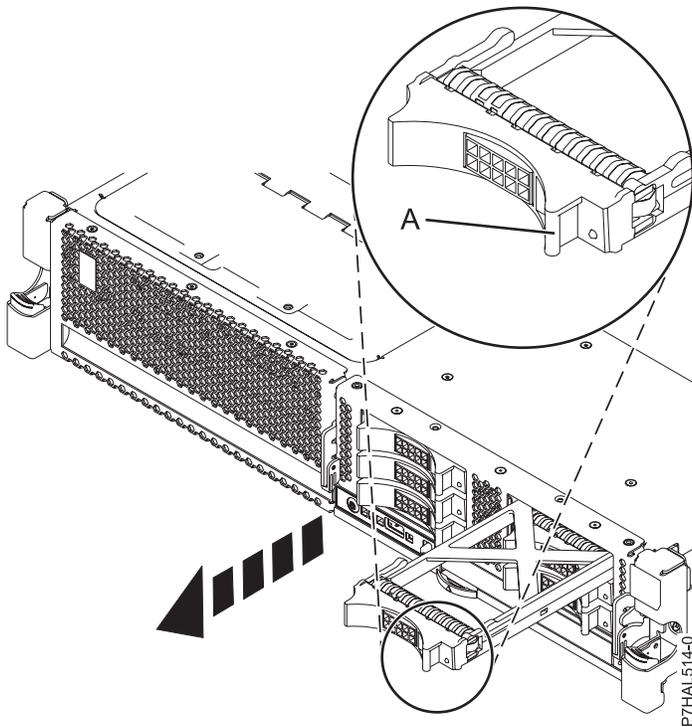


図 26. ディスク・ドライブ・フィルターの取り外し

ここに進む前に行っていた手順に戻ります。

## ディスク・ドライブ・フィルターの 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T への取り付け

Small Computer System Interface (SCSI) ディスク・ドライブ・フィルターをシステムまたは拡張装置に取り付ける方法を説明します。

ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブをシステムまたは拡張装置から取り外す場合に、取り替え用ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り付けない時は、ディスク・ドライブ・フィルターをスロットに取り付けることができます。

ディスク・ドライブ・フィルターをシステムまたは拡張装置に取り付けるには、以下のステップを実行します。

1. ディスク・ドライブ・フィルターの上端と下端を持ってフィルターを位置決めし、システムまたは拡張装置に挿入します。

**重要:**

- 静電気の放電 (ESD) によってハードウェアが損傷するのを防ぐために、リスト・ストラップをハードウェアの塗装されていない金属面に接続します。
  - リスト・ストラップ使用時は、電気機器のすべての安全手順に従います。リスト・ストラップは静電気を制御するためのものです。これは、電気機器を使用または電気機器で作業を行う際に、感電するリスクを増大するものでも、低減するものでもありません。
  - リスト・ストラップがない場合は、製品を ESD パッケージから取り出して、ハードウェアの取り付けまたは取り替えを行う直前に、システムの塗装されていない金属面に少なくとも 5 秒以上触れてください。
2. 図 27 に示すように、ディスク・ドライブ・フィラーをシステムまたは拡張装置内に完全に滑り込ませ、ディスク・ドライブ・フィラー・ハンドル (A) がロックされるまで押し込みます。

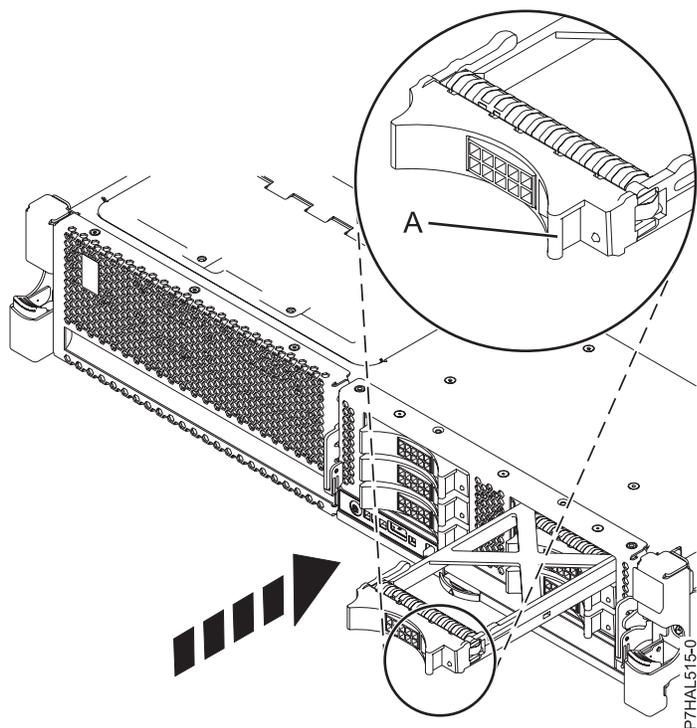


図 27. ディスク・ドライブ・フィラーの取り付け

ここに進む前に行っていた手順に戻ります。



---

## ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの位置およびサービス・インディケータ

システム、ドライブ・エンクロージャ、または拡張装置上にあるディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブおよびサービス・インディケータの位置を確認します。

システム、ドライブ・エンクロージャ、または拡張装置のディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの位置、およびサービス・インディケータの位置について説明します。

---

## PCIe RAID および SSD SAS アダプターの位置

PCIe RAID および SSD SAS アダプターの位置、および PCIe RAID および SSD SAS アダプター上のサービス・インディケータの位置について説明します。

図 28 は、PCIe RAID および SSD SAS アダプターの位置を示しています。

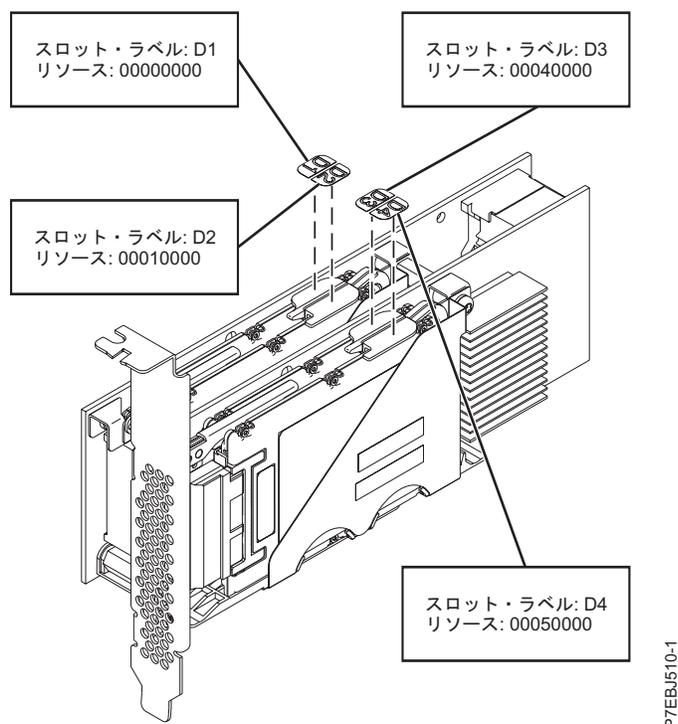


図 28. PCIe RAID および SSD SAS アダプターの位置

---

## 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2Tのディスクドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの位置およびサービス・インディケータ

システムのディスク・ドライブの位置、およびサービス・インディケータの位置について説明します。

次の図は、8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または8246-L2T のディスク・ドライブの位置とサービス・インディケータを示しています。サービス・インディケータは、ディスク・ドライブのラッチ・ハンドルの上にあります。

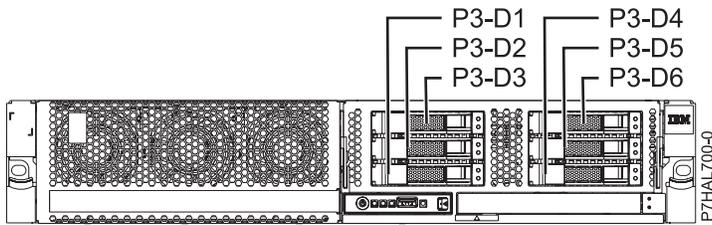


図 29. 6 つの Small-Form Factor (SFF) ベイを持つシステムのディスク・ドライブの位置

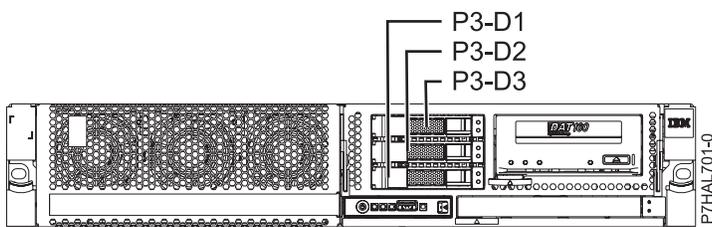


図 30. 3 つの SFF ベイを持つ (オプション) システムのディスク・ドライブの位置

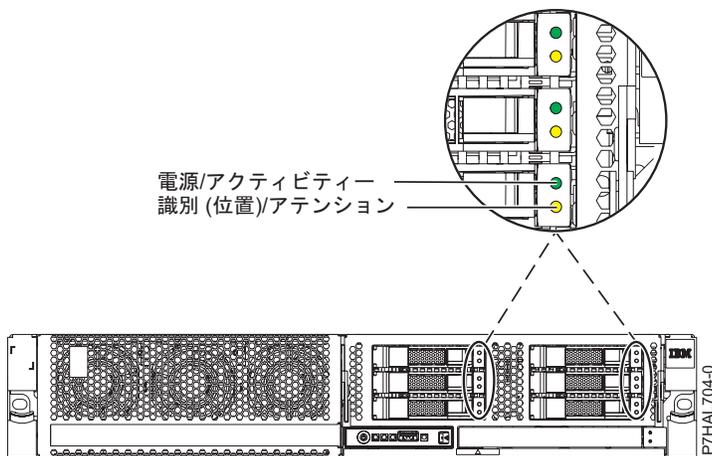
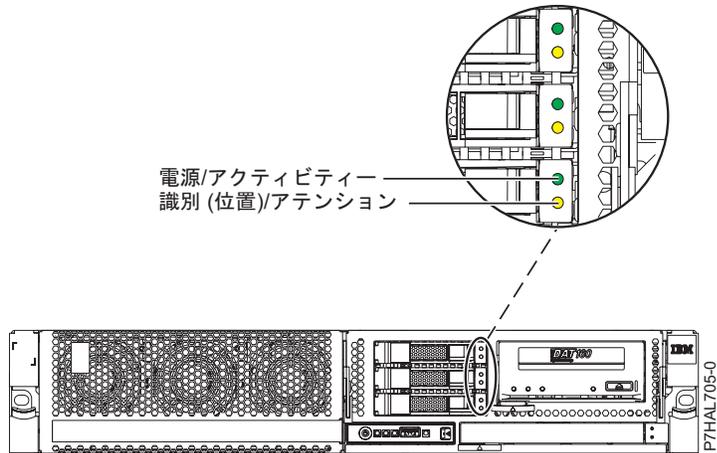


図 31. 6 つの SFF ベイを持つシステムのサービス・インディケータの位置



電源/アクティビティ  
 識別 (位置)/アテンション

図 32. 3 つの SFF ベイを持つ (オプション) システムのサービス・インディケータの位置

## 5802 拡張装置のディスク・ドライブの位置およびサービス・インディケータ

拡張装置のディスク・ドライブの位置、およびサービス・インディケータの位置について説明します。

以下の図は、5802 のディスク・ドライブの位置を示しています。

サービス・インディケータは、各ディスク・ドライブのラッチ・ハンドル下部にあります。

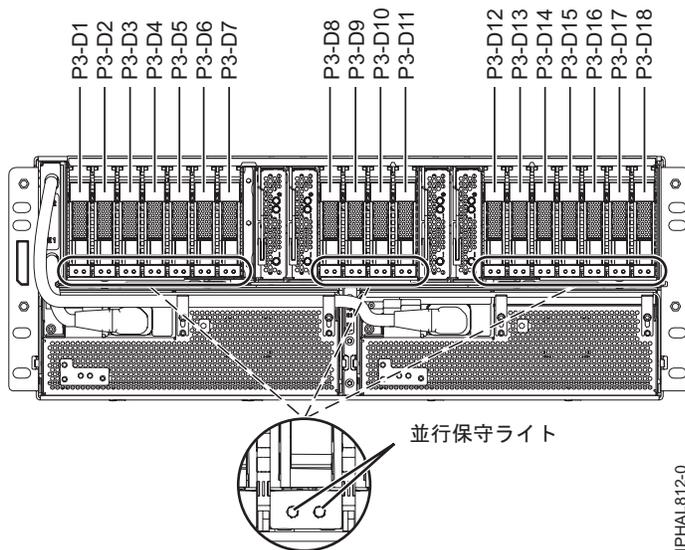


図 33. ディスク・ドライブの位置

## 関連情報:

5802 ディスク・サブシステムのケーブル接続

# 5887 ディスク・ドライブ・エンクロージャー のディスク・ドライブの位置 およびサービス・インディケータ

5887 ディスク・ドライブ・エンクロージャーのディスク・ドライブの位置、およびサービス・インディケータの位置について説明します。

以下の図は、5887 ディスク・ドライブ・エンクロージャーの正面図と背面図で、5887 ディスク・ドライブ・エンクロージャー内のディスク・ドライブの位置が示されています。

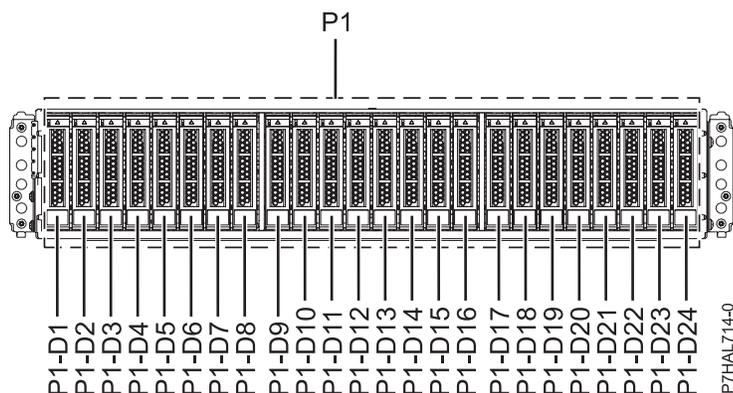


図 34. 5887 ディスク・ドライブ・エンクロージャーの正面図 (ディスク・ドライブの位置を示す)

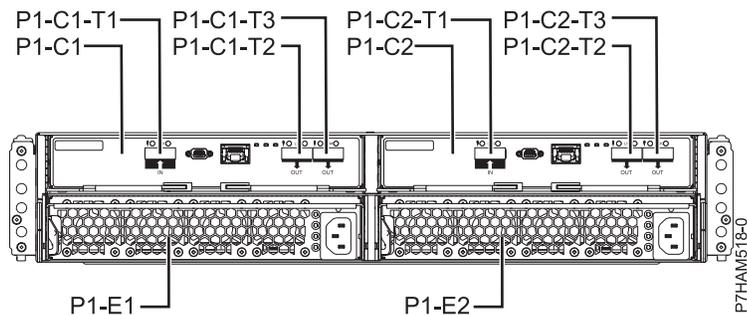


図 35. 5887 ディスク・ドライブ・エンクロージャーの背面図

次の図は、5887 ディスク・ドライブ・エンクロージャーのディスク・ドライブのサービス・インディケータの位置を示します。

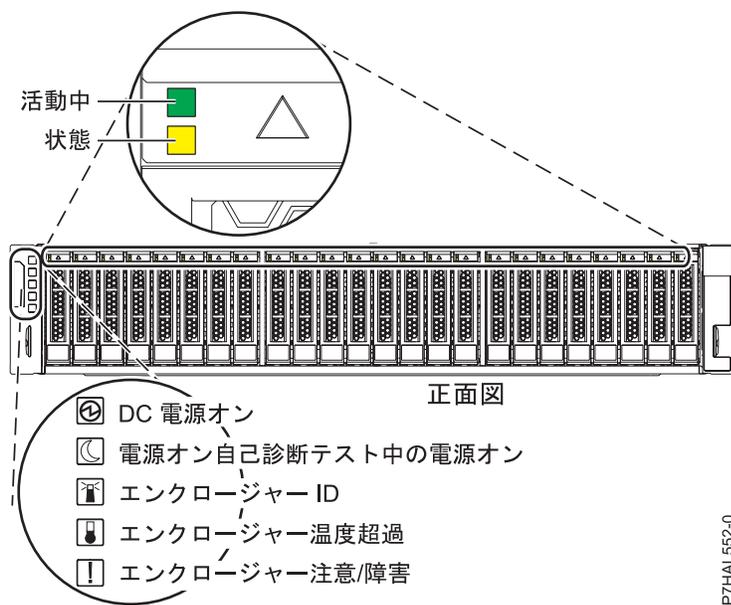


図 36. 5887 ディスク・ドライブ・エンクロージャーの正面図 (サービス・インディケータの位置を示す)

## EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーのソリッド・ステート・ドライブの位置およびサービス・インディケータ

EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーのソリッド・ステート・ドライブの位置、およびサービス・インディケータの位置について説明します。

以下の図は、EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーの正面図と背面図で、EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャー内のソリッド・ステート・ドライブの位置が示されています。P1-D1 から P1-D30 は、EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーのソリッド・ステート・ドライブのロケーション・コードです。

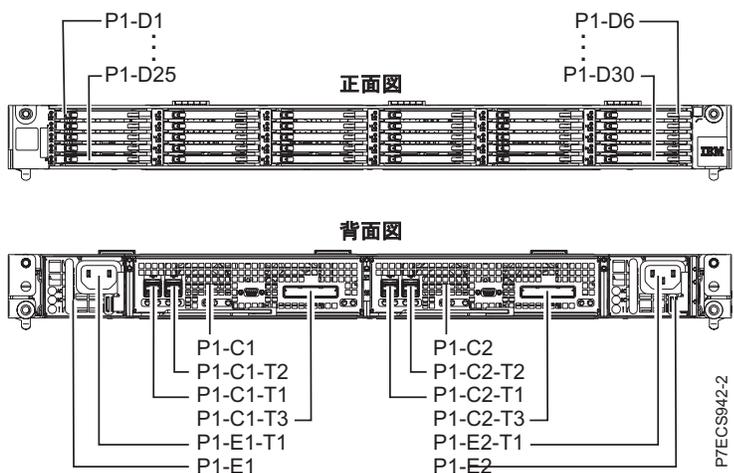


図 37. ソリッド・ステート・ドライブの位置を示す EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーの正面図と背面図

次の図は、EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーの SSD のサービス・インディケータの位置を示します。

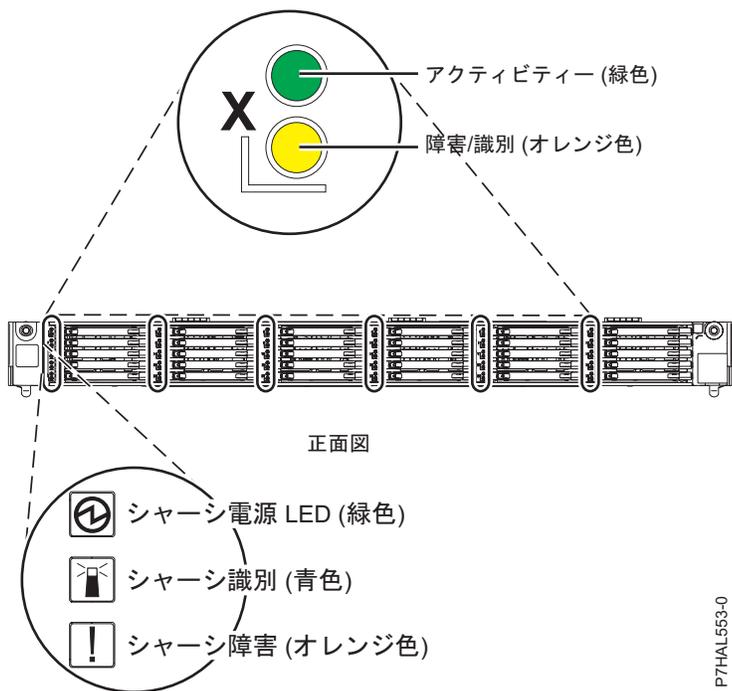


図 38. EDR1 PCIe ストレージ・エンクロージャーの正面図 (サービス・インディケータの位置を示す)

---

## ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの関連作業

取り付け、取り外し、または取り替えの作業を行う上で役立つ、ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブに関連する追加情報および手順について説明します。

---

### Linux システムからディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り外す準備

Linux を実行中のシステムまたは論理区画によって制御されている位置でディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブを取り外すためにシステムを準備する方法について説明します。

#### ディスク・ドライブ取り外し準備

1. root ユーザーとしてログインします。
2. Linux セッションのコマンド行で `iprconfig` と入力し、Enter キーを押します。

「IBM Power® RAID Configuration Utility」画面が表示されます。

3. 「ログの分析 (Analyze log)」を選択します。Enter キーを押します。「カーネル・メッセージ・ログ (Kernel Messages Log)」画面が表示されます。

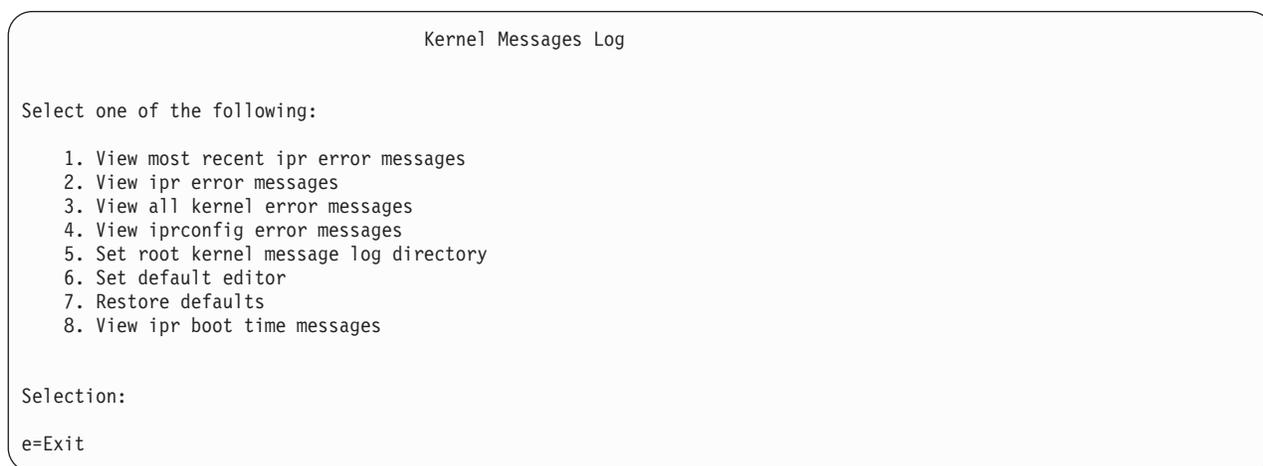


図 39. Kernel Messages Log

4. 「カーネル・メッセージ・ログ (Kernel Messages Log)」画面で、「最新 ipr エラー・メッセージの表示 (View most recent ipr error messages)」を選択します。Enter キーを押します。
5. 取り替えるドライブのログ・エントリを見つけます。
6. ドライブのロケーション情報を記録します。

注: ロケーション情報は以下のいずれかの形式になっています。

**0:0:5:0** この例では、0 は SCSI ホスト・ナンバー、0 は SCSI バス、5 は SCSI ターゲット ID、0 は論理装置番号 (LUN) です。

## 0/00-0E-02

この例では、0 は SCSI ホスト・ナンバー、00 は入出力アダプター (IOA) SAS ポート、0E はエキスパンダー・ポート、02 はデバイス・ポートです。

7. コマンド行に戻ります。
8. 次のコマンドを入力します。

```
ls -ld/sys/class/scsi_host/host#
```

ここで、# は SCSI ホスト・ナンバーです。 Enter キーを押します。

例: `ls -ld/sys/class/scsi_host/host0`。

```
lrwxrwxrwx. 1 root root 0 Jul 18 16:27 /sys/class/scsi_host/host0
-> ../../devices/pci0000:01/0000:01:00.0/host0/scsi_host/host0
0000:01:00.0 is PCI location information.
```

9. PCI 位置情報を記録します。

注: PCI 位置情報は 61:01:0:2 のような形式になっています。

10. コマンド行で `iprconfig` と入力し、Enter キーを押します。

「IBM Power RAID Configuration Utility」画面が表示されます。

11. 「IBM Power RAID Configuration Utility」画面で、「ハードウェア状況の表示 (Display hardware status)」を選択します。 Enter キーを押します。

「ハードウェア状況の表示 (Display hardware status)」画面が表示されます。

```
Display Hardware Status
Type option, press Enter.
l=Display hardware resource information details
OPT Name  PCI/SCSI Location      Description      Status
-----
          0000:01:00.0/0:
          0000:01:00.0/0:0:0:0
          0000:01:00.0/0:0:0:1:0
          0000:01:00.0/0:0:0:2:0
          0000:01:00.0/0:0:0:3:0
          0000:01:00.0/0:0:0:4:0
          0000:01:00.0/0:0:0:5:0
          0000:01:00.0/0:0:0:6:0
          0000:01:00.0/0:0:0:8:0
          0000:01:00.0/0:0:0:9:0
          0001:01:00.0/1:
          0001:01:00.0/1:0:3:0
          0001:01:00.0/1:0:4:0
          0001:01:00.0/1:0:5:0
          More...
e=Exit  q=Cancel  r=Refresh  t=Toggle  f=PageDn  b=PageUp
```

図 40. 「ハードウェア状況の表示 (Display Hardware Status)」の例

12. 記録した PCI ロケーションで目的のドライブを探します。そのドライブは「障害 (Failed)」状況になっています。
13. 取り替えるドライブが無保護または使用中である場合は、この手順を続行する前に、ドライブからデータを移動してください。

PCI-X コントローラーについては、「*PCI-X SCSI RAID Controller Reference Guide for Linux*」を参照してください。このガイドは、Web ページ「SCSI PCI アダプター」から入手できます。

SAS RAID コントローラーについて詳しくは、SAS RAID コントローラー (Linux 用)トピックを参照してください。

14. 取り替えるドライブの横に「1」(ハードウェア・リソース情報詳細の表示 (Display hardware resource information details)) を入力します。 Enter キーを押します。

次の例に示されているような「ディスク装置ハードウェア・リソース情報詳細の表示 (Disk Unit Hardware Resource Information Details)」が表示されます。

```
Disk Unit Hardware Resource Information Details

Manufacturer . . . . . : IBM
Product ID . . . . . : SG9XCA2E200GEIBM
Firmware Version . . . . . : 53433436 (SC46)
Serial Number. . . . . : 50B0042M
Capacity . . . . . : 177.80 GB

Physical location
PCI Address. . . . . : 0000:01:00.0
Resource Path. . . . . : 00-0E-02
SCSI Host Number . . . . . : 0
SCSI Channel . . . . . : 0
SCSI Id. . . . . : 5
SCSI Lun . . . . . : 0
Platform Location. . . . . : U5887.001.Z065075-P1-D3

Extended Details
Press Enter to Continue

e=Exit q=Cancel f=PageDn b=PageUp

More...
```

図 41. 「ディスク装置ハードウェア・リソース情報詳細 (Disk Unit Hardware Resource Information Details)」画面の例

15. 物理位置情報を記録します。
16. 「IBM Power RAID Configuration Utility」画面に戻ります。

## Linux を実行しているシステムまたは論理区画の取り替え用ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブでのデータの再ビルド

ディスク・ドライブまたはソリッド・ステート・ドライブの障害のために取り替えたドライブまたは新しく取り付けられたドライブで、データを再ビルドできます。

ホット・スペア・ドライブが使用可能で、ディスク・アレイがすべてのドライブ障害から保護されていた場合は、新規に取り付けたディスク・アレイをホット・スペアとして構成できます。手順については、「*PCI-X SCSI RAID Controller Reference Guide for Linux*」を参照してください。

このガイドは、Web ページ「SCSI PCI アダプター」から入手できます。

ホット・スペア再ビルドがコントローラーによって開始されなかった場合、新規に取り付けたドライブでは再ビルドを開始する必要があります。再ビルドを開始するには、以下のステップに従います。

### 無保護ディスク・ドライブの場合

取り替えようとしているドライブが RAID Level 0 ディスク・アレイか、または障害状況の RAID Level 5 もしくは RAID Level 10 ディスク・アレイに存在する場合、以下の作業を完了します。

1. ディスク・アレイを再作成する。

2. そのディスク・アレイでファイルシステムを再作成する。
3. リストアされたディスク・アレイにバックアップ・メディアからデータをコピーし直す。

## iprconfig コマンドを使用するデータの再ビルド

ホット・スペア再ビルドがコントローラーによって開始されなかった場合、新規に取り付けたドライブでは再ビルドを開始する必要があります。再ビルドを開始するには、iprconfig コマンドを使用して以下の手順を完了します。

### RAID Level 5 または RAID Level 10 ディスク・アレイのディスク・ドライブの場合

1. root ユーザーとしてログインします。
2. Linux セッションのコマンド行で iprconfig と入力し、Enter キーを押します。「IBM Power RAID Configuration Utility」画面が表示されます。
3. 「IBM Power RAID Configuration Utility」画面で、「ディスク装置リカバリーの処理 (Work with disk unit recovery)」を選択します。Enter キーを押します。「ディスク装置リカバリーの処理 (Work with Disk Unit Recovery)」画面が表示されます。
4. 「ディスク装置リカバリーの処理 (Work with Disk Unit Recovery)」画面で、「ディスク装置データの再ビルド (Rebuild disk unit data)」を選択します。

「ディスク装置データの再ビルド (Rebuild Disk Unit Data)」画面が次のように表示されます。

```
Rebuild Disk Unit Data

Select the disks to be rebuilt

Type choice, press Enter.
1=Rebuild

OPT Name   PCI/SCSI Location   Description   Status
-----
1          0000:58:01.0.0/0:4:0 RAID Array Member Failed

e=Exit  q=Cancel  t=Toggle
```

図 42. 「ディスク装置データの再ビルド (Rebuild Disk Unit Data)」画面の例

5. 再ビルドするディスク・ドライブの横に、「1」(再ビルド (Rebuild)) を入力し、Enter キーを押します。

**注:** ドライブで再ビルドを完了するとドライブの現行データは上書きされます。

「ディスク装置データの再ビルドの確認 (Confirm Rebuild Disk Unit Data)」画面が次のように表示されます。

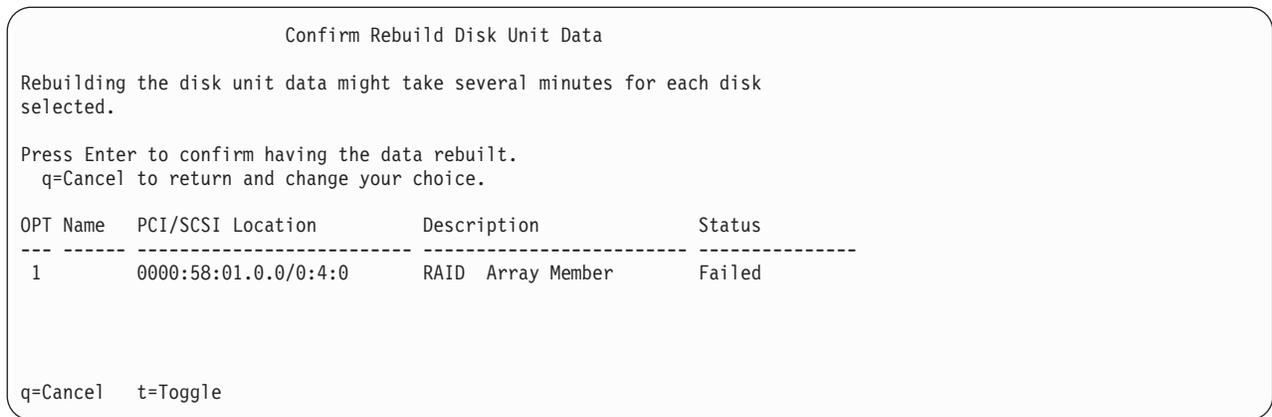


図 43. 「ディスク装置データの再ビルドの確認 (Confirm Rebuild Disk Unit Data)」画面の例

6. ドライブ上で再ビルドするデータを確認するには、Enter キーを押します。

「ディスク装置リカバリーの処理 (Work with Disk Unit Recovery)」画面の下部に再ビルドが開始されたというメッセージが表示されます。再ビルドが完了するには数分間かかります。

## 電源オフの状態で行う 5802 拡張装置の SAS コンジット・カードの取り替え

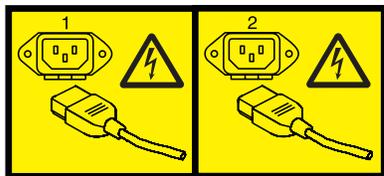
電源オフの状態では 5802 拡張装置の SAS コンジット・カードを取り替える方法を説明します。

コンジット・カードを取り替えるには、以下のステップを実行します。

1. 前提条件作業を実行します。手順については、81 ページの『開始する前に』を参照してください。
2. システムまたは論理区画を停止します。手順については、90 ページの『システムまたは論理区画の停止』を参照してください。
3. システムのプラグを抜いて、システムの電源を切ります。

**重要:** このシステムには、2 次電源装置が装備されている場合があります。この手順を行う間のシステム損傷を避けるために、すべての電源コードを取り外して、システムを電源から切り離します。

(L003)



または



4. ミッドプレーンと SAS コンジット・カードをシステムの元の位置に戻すには、以下のステップを完了します。
- a. 確実に接続するためのガイド・トラック (B) を使用して、カード・コネクタ (C) をミッドプレーン接続部 (D) の上に位置付けます。
  - b. 図 44 に示すように、ハンドル (A) を引き上げて、SAS コンジット・カードをミッドプレーンに設置し、固定させます。

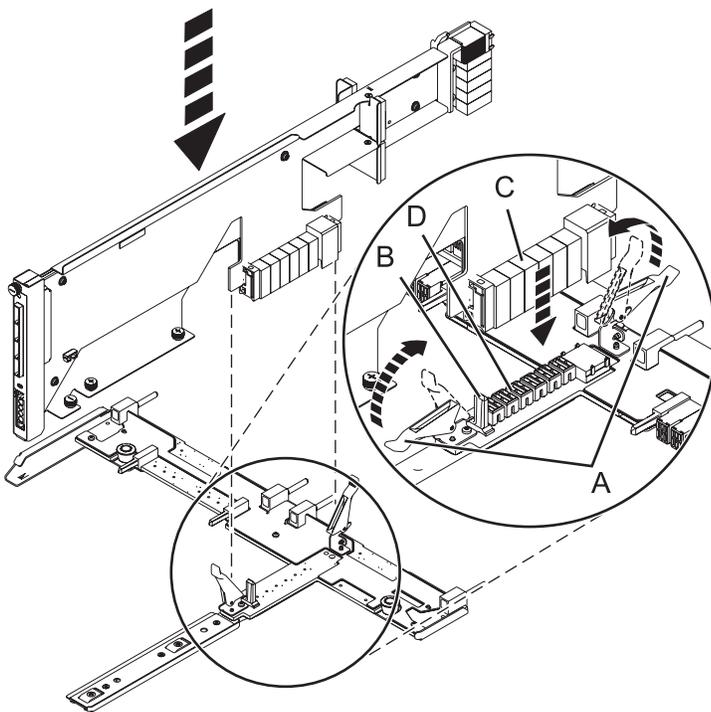


図 44. ミッドプレーンへの SAS コンジット・カードの取り付け

5. ミッドプレーンと SAS コンジット・カードをシステムの元の位置に戻すには、以下のステップを完了します。
  - a. ミッドプレーンをトラックに位置合わせし、ミッドプレーン上のスロット (A) がシステム内のポスト (B) に接続されていることを確認します。
  - b. SAS コンジット・カード上のつまみねじ (C) と (D) を締め付けて固定させます。
  - c. ミッドプレーン側面のつまみねじ (E) を締め付けて固定させます。

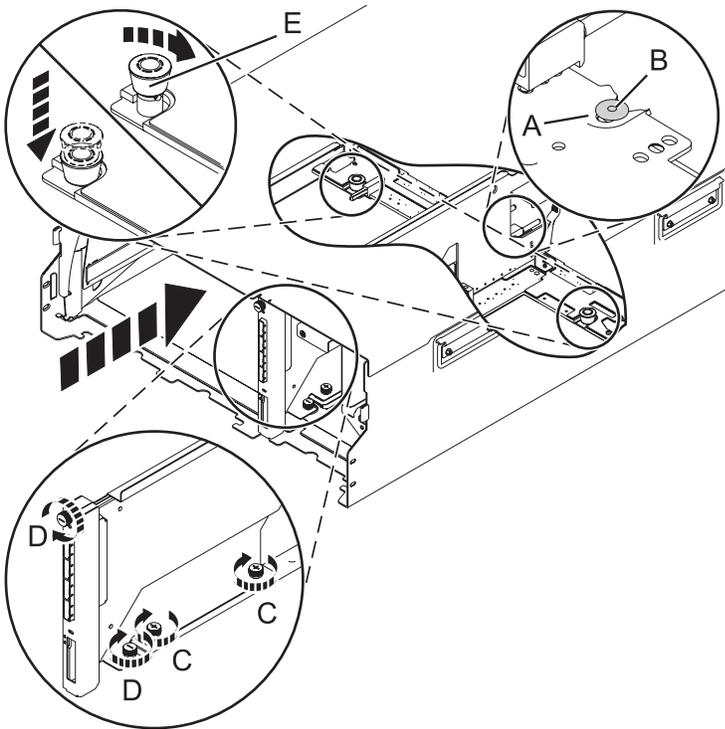


図 45. SAS コンジット・カードおよびミッドプレーンの取り付け

6. 電源コード・カバーを付けて、つまみねじ (A) を締め付けてシステムに固定させます。

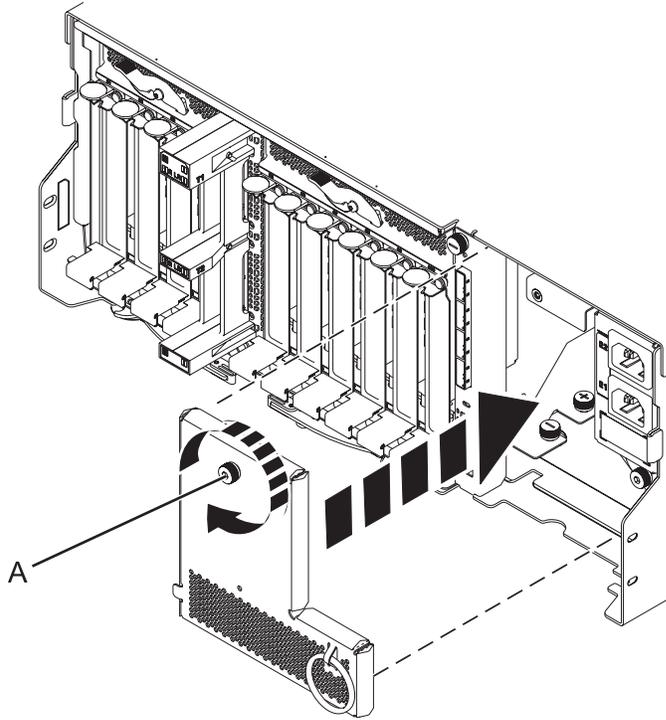


図 46. 電源コード・プレートの取り付け

7. 図 47 に示すように、エンクロージャー管理コントローラーを慎重にシステムに差し込んで、ラッチ (A) を閉じます。

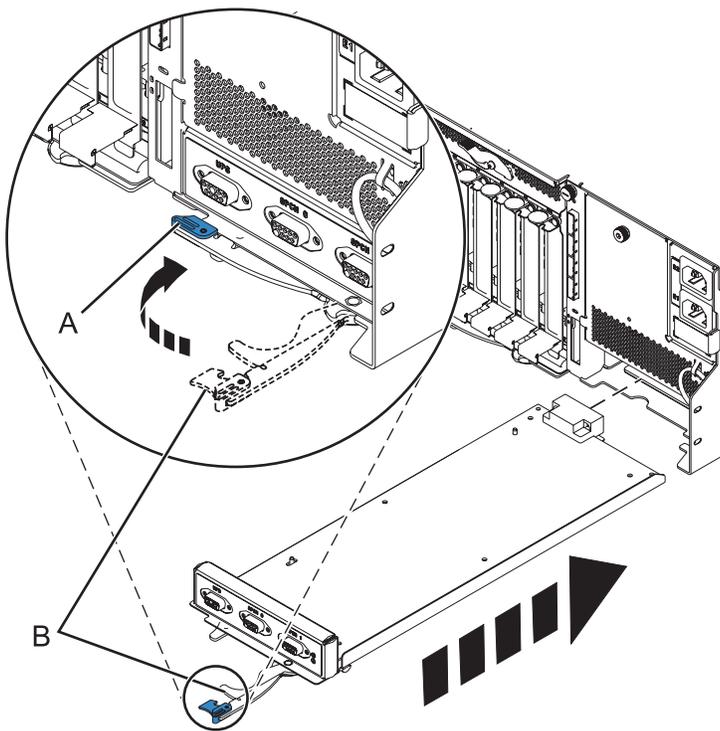


図 47. エンクロージャー管理コントローラーの再取り付け

8. 慎重に I/O システム・ボードを持ち上げて、拡張装置の背面のスロットに位置合わせします。
9. 図 48 に示すように、I/O システム・ボードをしっかりとサーバーに挿入します。
10. 図 48 に示すように、I/O システム・ボードをロック・タブ (A) で固定します。

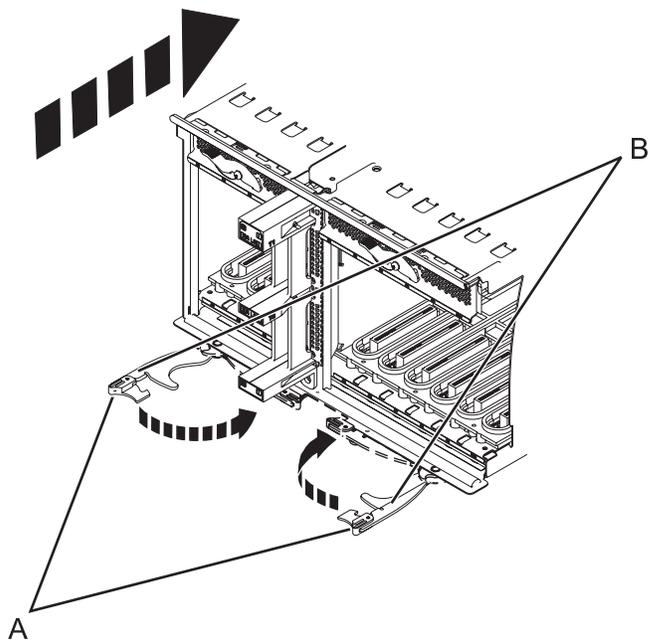


図 48. ラック・マウント型モデルへの I/O システム・ボードの取り付け

11. 電源機構を取り替えるには、68 ページの図 49 に示すように、ロックング・ハンドル (A) を開位置にしたままで、電源機構を拡張装置内に押し込みます。
12. 電源機構が所定の位置にロックされるまで、ロックング・ハンドル (A) を閉じます。

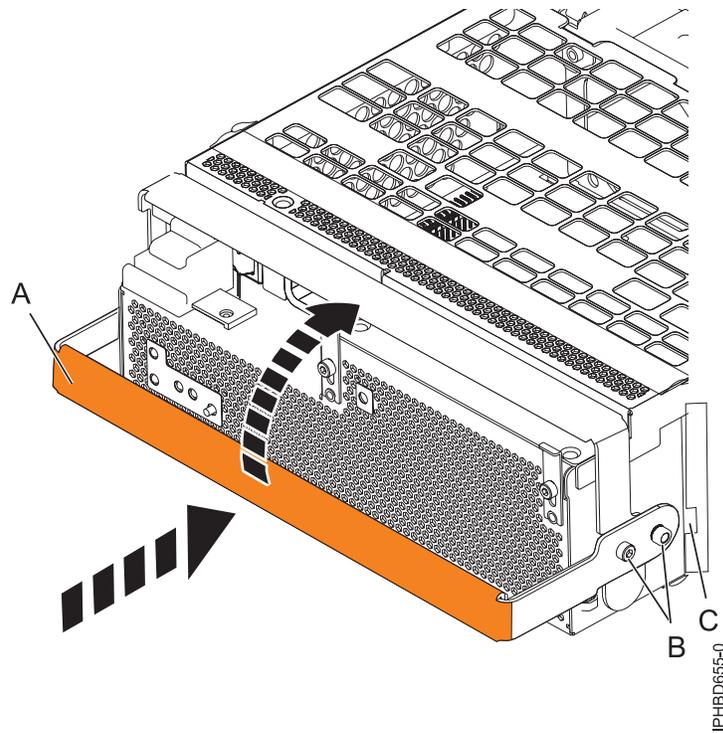


図 49. 電源機構の取り替え

13. ディスク・ドライブのバックプレーンを再取り付けするには、バックプレーンの両側面を持ち上げて、拡張装置のガイド・レールに位置合わせします。

**注意:**

持ち上げるバックプレーンは重いことがあります。始める前に、この作業を安全に完了できることを確認してください。

14. 69 ページの図 50 に示すように、バックプレーンの底部を片手で支え、スライドさせて拡張装置に入れます。
15. ロッキング・タブを開位置 (B) からロックされた位置 (A) に移動して、バックプレーンを固定します。

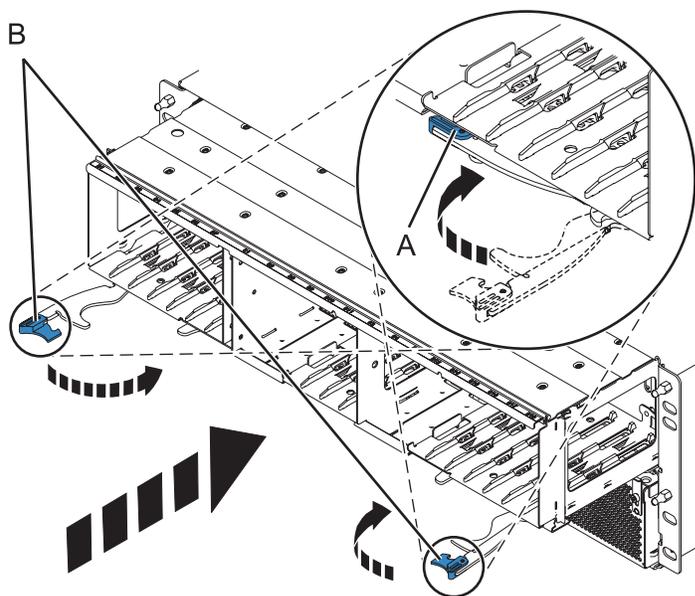
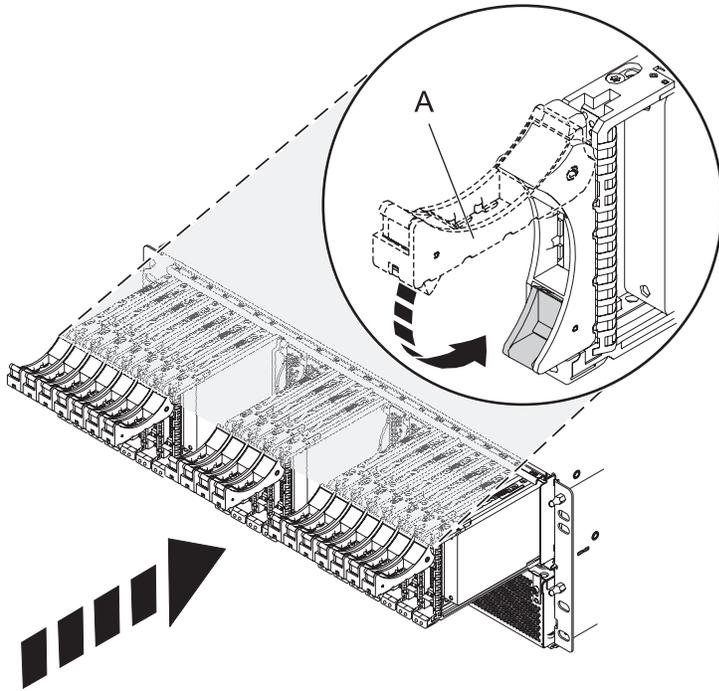
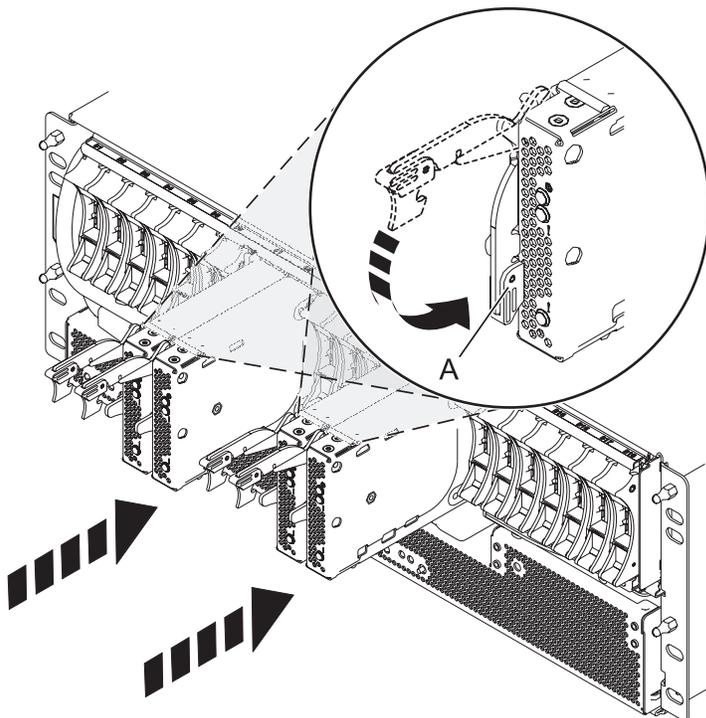


図 50. ラック・マウント型モデルのバックプレーンの取り付け

16. 前にディスク・ドライブ装置およびフィルラーを取り外した場合は、それらをすべて再取り付けします。
  - a. ディスク・ドライブ装置をバックプレーンのガイド・レールの位置に合わせる際、ディスク・ドライブ装置の下部を支えます。
  - b. ディスク・ドライブ装置をバックプレーンの奥までスライドさせます。
  - c. ハンドル (A) をディスク・ドライブ装置に向かって押し、ロックします。



17. 前に拡張カードおよびフィラーを取り外した場合は、それらをすべて再取り付けします。
- a. 拡張カードの底部を片手で支え、バックプレーンのガイド・レールに位置合わせします。
  - b. 拡張カードをバックプレーンの奥までスライドさせます。
  - c. ハンドル (A) をカードに向かって押し、ロックします。



18. システムを始動します。手順については、システムまたは論理区画の始動を参照してください。

行う必要のある他の保守アクションを続行します。

- システムの接続については、拡張装置の接続を参照してください。
- PCI アダプターをシステム・ボードに取り付ける方法については、モデル 5802 および 5877 の拡張装置、PCI アダプター、およびカセットを参照してください。

## 電源オフの状態で行う 5802 拡張装置からの SAS コンジット・カードの取り外し

電源オフの状態では、障害のある部品の取り替えが必要な場合に、5802 ラック・マウント型拡張装置から SAS コンジット・カードを取り外す方法を説明します。

5802 ラック・マウント型拡張装置から SAS コンジット・カードを取り外すには、以下のステップを完了します。

1. 前提条件作業を実行します。手順については、81 ページの『開始する前に』を参照してください。
2. 取り外すカードを識別します。詳しくは、84 ページの『部品の識別』を参照してください。
3. システムまたは論理区画を停止します。手順については、90 ページの『システムまたは論理区画の停止』を参照してください。
4. 図 51 に示すように、ドライブおよびフィラーを取り外します。
  - a. ドライブのラッチを握り、ハンドル (A) を手前に引いてドライブを解放します。
  - b. ドライブの底部を片手で支え、バックプレーンからスライドさせて引き出します。

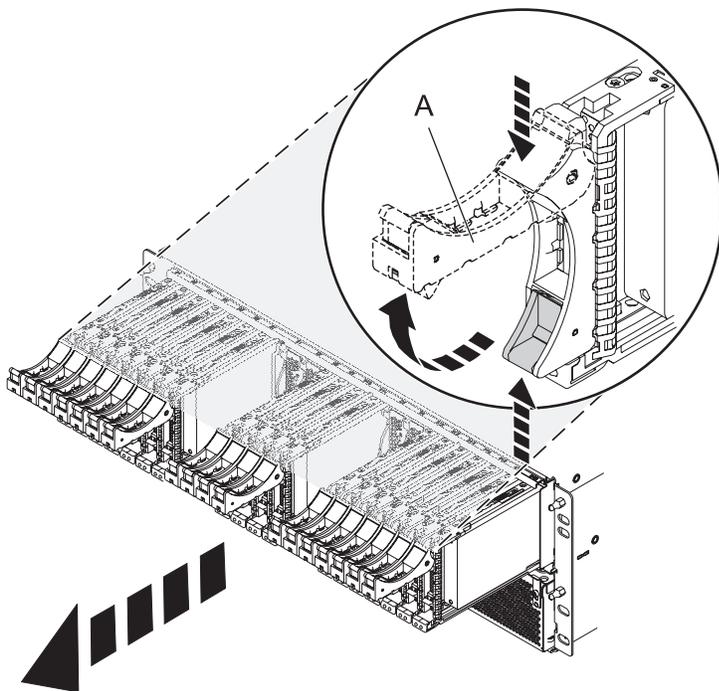


図 51. バックプレーンからのドライブの取り外し

5. 72 ページの図 52 に示すように、ポート・カードおよびフィラーを取り外します。
  - a. ラッチ・ハンドル (A) の端を掴んで上に引き、ポート・カードをアンロックします。

- b. ポート・カードの底部を片手で支え、バックプレーンからスライドさせて引き出します。
- c. ポート・カードを、静電気の放電 (ESD) から保護された面に置きます。

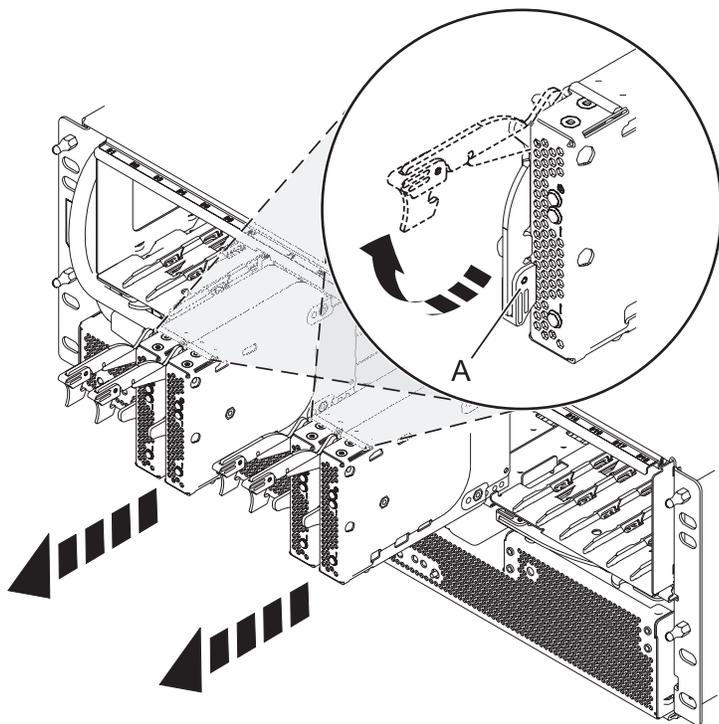


図 52. バックプレーンからのポート・カードの取り外し

6. 73 ページの図 53 に示すように、バックプレーンを取り外します。

**注意:**

バックプレーンは重いことがあります。この手順を安全に完了できることを確認してください。

- a. 青いラッチ (A) を握って、ハンドルをアンロックします。
- b. ハンドル (B) を外側 (矢印の方向) に引いて、バックプレーンを解放します。
- c. バックプレーンの底部を片手で支え、バックプレーンをスライドさせてエンクロージャーから引き出します。

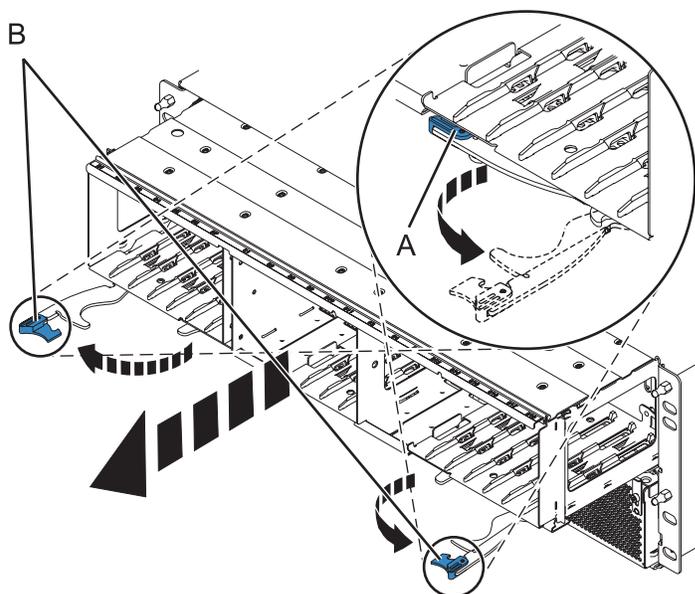


図 53. エンクロージャーからのバックプレーンの取り外し

7. 以下のステップを完了して、オフライン・コンバーター・アセンブリー (OCA) の電源コードを両方とも切り離します。
  - a. 両方の OCA の前面で、電源コード・ホルダー (A) を左方向へスライドさせます。74 ページの図 54 を参照してください。
  - b. 両方の OCA 電源コード (B) にラベルを付け、それぞれの OCA から切り離します。

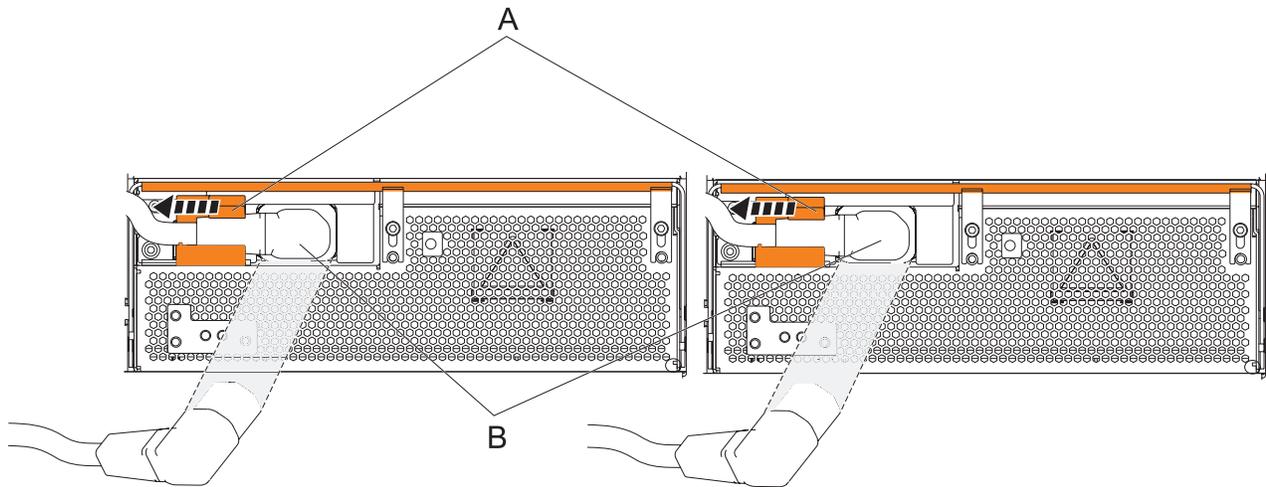


図 54. OCA 電源コードの切り離し

8. 以下のステップを完了して、オフライン・コンバーター・アセンブリーを取り外します。
  - a. OCA ハンドル (A) を示されている方向にいっぱい引き、OCA を外します。 75 ページの図 55 を参照してください。
  - b. OCA の両側を掴み、エンクロージャーの外へ引き出します。

注: エンクロージャーから引き出すときは、両手で OCA を支えてください。
  - c. 以上の手順を繰り返して、両方の OCA を取り外してください。

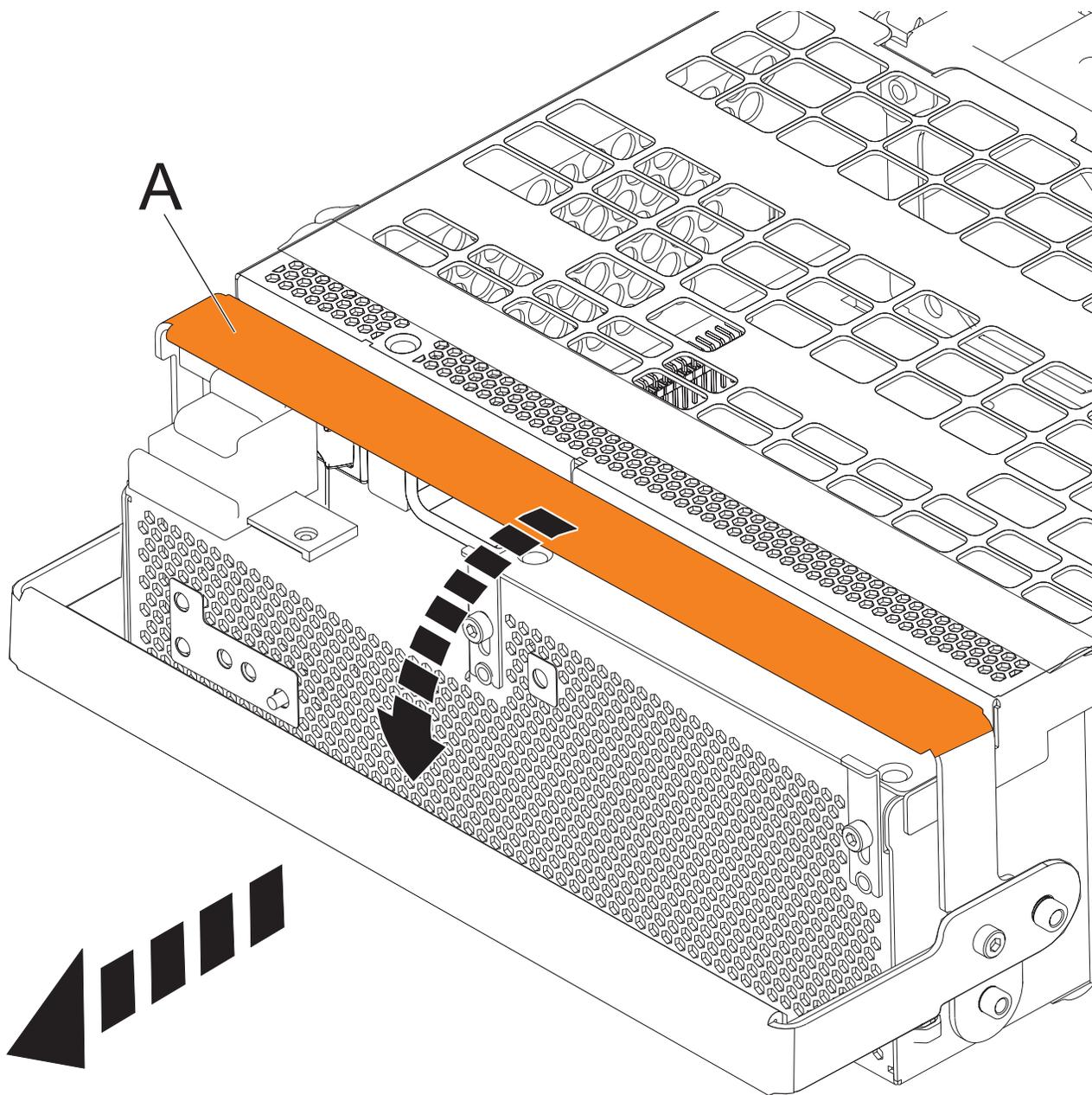


図 55. オフライン・コンバーター・アセンブリの取り外し

9. 以下のステップを完了して、エンクロージャー管理コントローラーを取り外します。
  - a. エンクロージャー管理コントローラー・カードに接続されているケーブルにラベルを付け、切り離します。
  - b. ラッチ (A) をつまんで、ハンドル (B) をアンロックします。 76 ページの図 56を参照してください。
  - c. ハンドルを示されている方向に外側に引き、EMC カードを外します。
  - d. エンクロージャー管理コントローラー・カードをスライドさせて、まっすぐエンクロージャーの外へ出します。

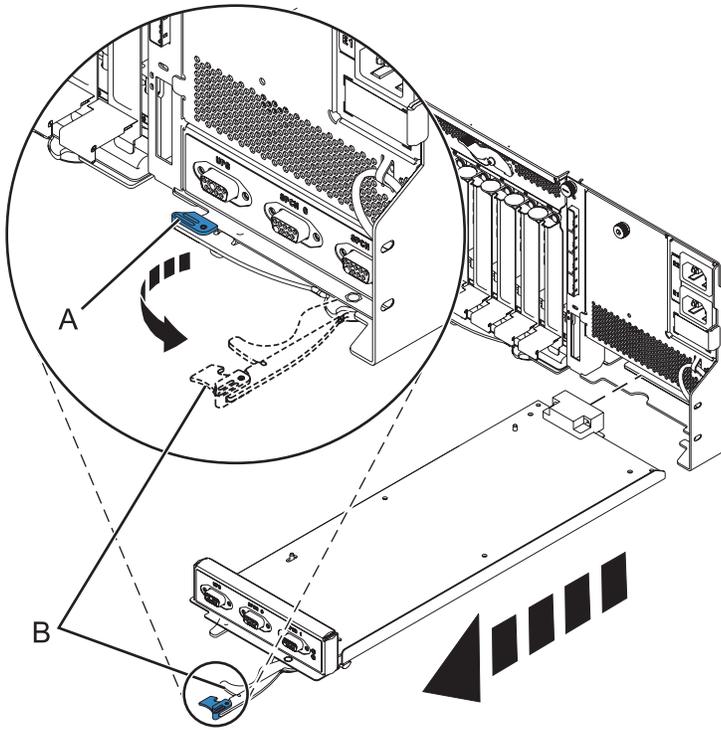


図 56. エンクロージャー管理コントローラーの取り外し

10. 図 57 に示すように、つまみねじ (A) を回し、プレートシステムから引き離して、電源コード・プレートを取り外します。

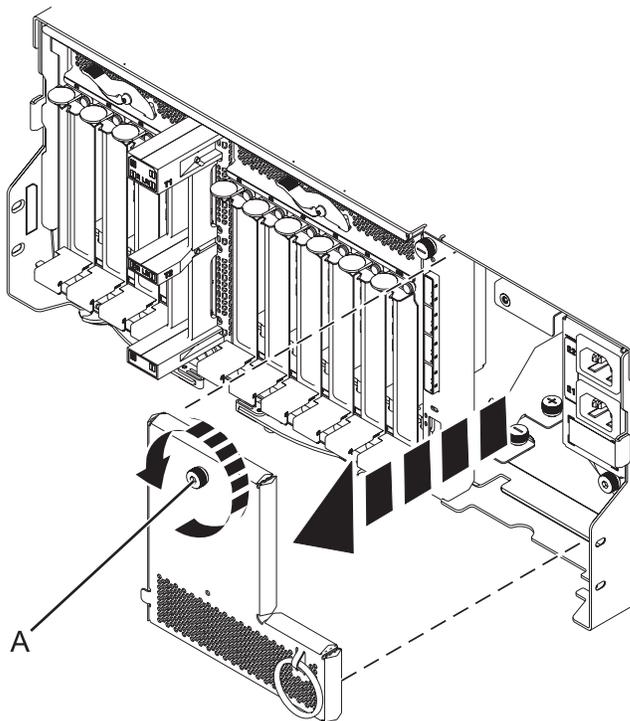


図 57. 電源コード・プレートの取り外し

11. I/O システム・ボードの背面からケーブルを切り離します。
12. 図 58 に示すように、リリース・ラッチ (A) をつまみ、レバー (B) を引いてシステムから離します。

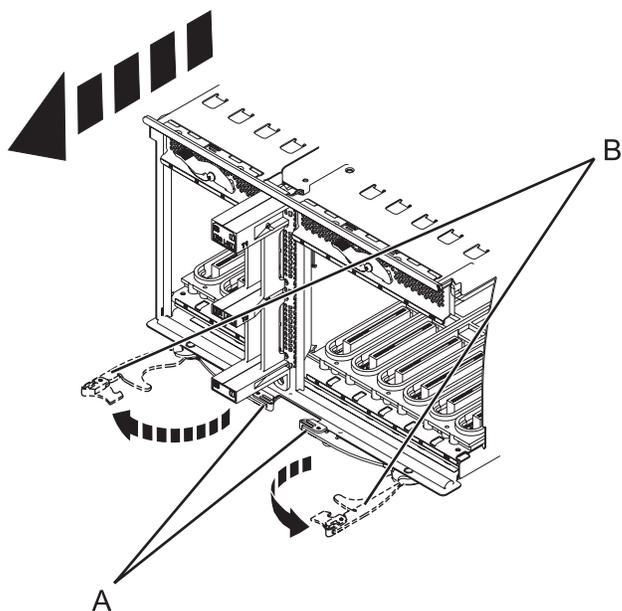


図 58. I/O システム・ボードの取り外し

13. システム・ボードをスライドさせてシステムから取り外します。
14. 以下の手順を行って、SAS コンジット・カードおよびミッドプレーンをエンクロージャーから取り外します。
  - a. ばね式プランジャー (A) を上へ引いて、4 分の 1 ほど左方へ回します。
  - b. 拘束ねじ (B) と (C) を完全に緩むまで反時計方向に回します。
  - c. SAS コンジットおよびミッドプレーン・コンポーネントをエンクロージャーの外に引き出します。

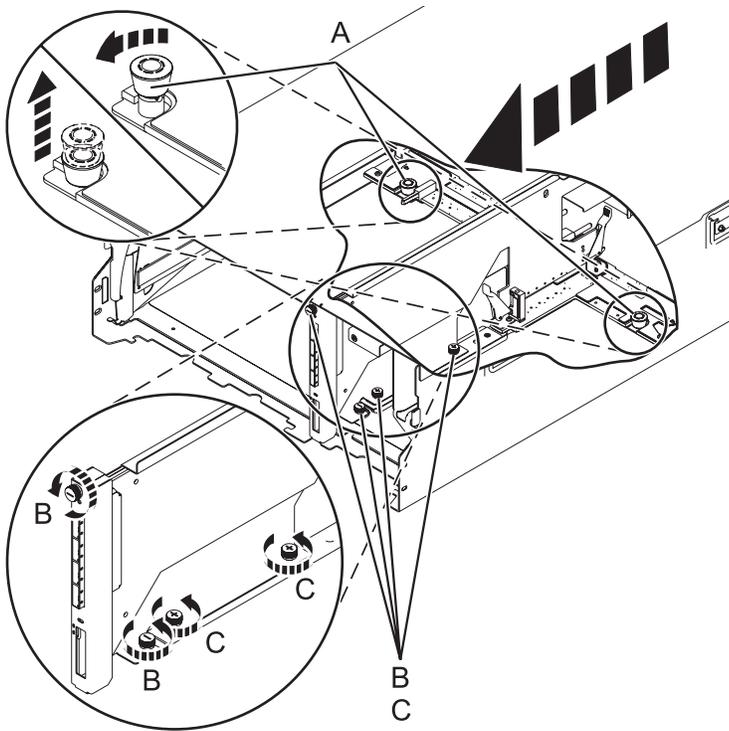


図 59. SAS コンジット・カードおよびミッドプレーンの取り外し

15. コンジット・カード上のハンドル (A) を下方に押して、カードをミッドプレーンから解放して、カードを取り外します。

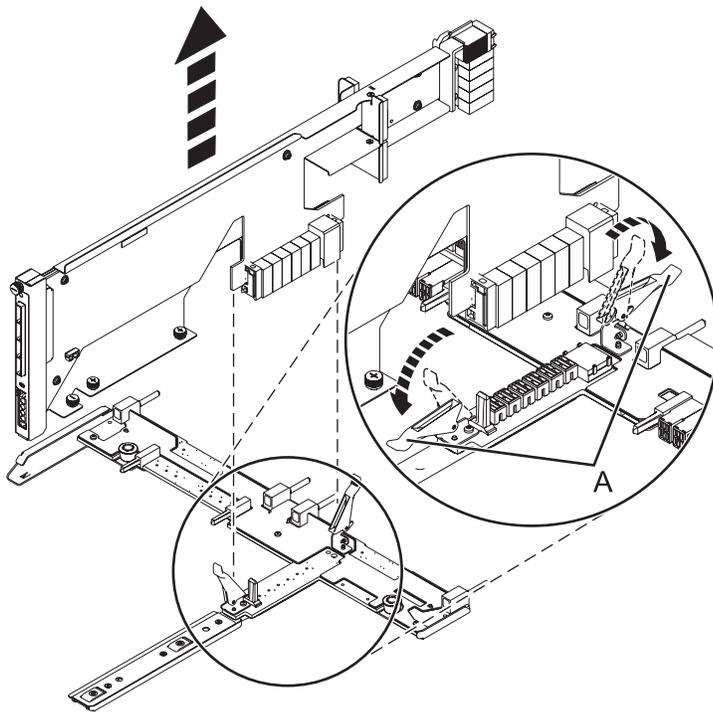


図 60. ミッドプレーンからの SAS コンジット・カードの取り外し

SAS 拡張カードの取り替えを続行するか、あるいはここに進む前の手順に戻ります。

## 電源オフの状態で行う 5802 拡張装置の SAS 拡張カードの取り替え

電源オフの状態ですべての SAS 拡張装置の SAS コンジット・カードを取り替える方法を説明します。

始める前に示されている要件を検査します。

1. SAS 拡張カードの取り付けまたは再取り付けを行う前に、シグナル・コネクタ・ピンを調べて、ピンの曲がりや損傷がないことを確認してください。

**重要:** ピンが曲がっていると、バックプレーンのコンセントが損傷を受けます。シグナル・コネクタ・ピンに触れたり、損傷を与えたりしないように十分注意してください。

2. 次の図に示すように、カードをスライドさせて、スロットに完全に差し込み、レバー (A) を押し下げて、カードを固定します。

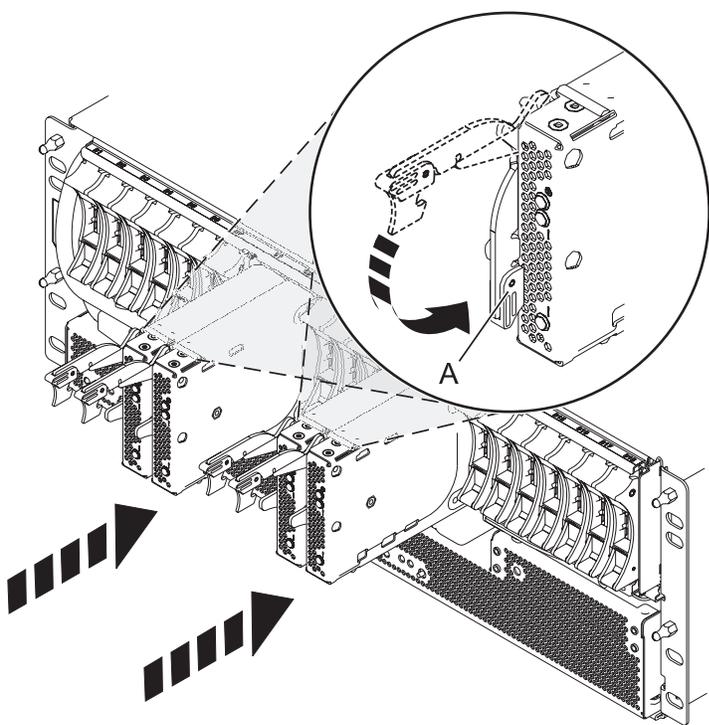


図 61. SAS 拡張カードの取り付け

3. システムを始動します。手順については、システムまたは論理区画の始動を参照してください。
4. 新しいカードが取り付けられていることを確認します。手順については、取り付け済み部品の検査を参照してください。

行う必要のある他の保守を続行します。

## 電源オフの状態で行う 5802 拡張装置からの SAS 拡張カードの取り外し

電源オフの状態、障害のある部品を取り替える必要がある場合に、5802 (ラック・マウント型) 拡張装置から SAS 拡張カードを取り外す方法を説明します。

1. 前提条件作業を実行します。手順については、81 ページの『開始する前に』を参照してください。
2. 取り外すカードを識別します。詳しくは、84 ページの『部品の識別』を参照してください。
3. 次の図に示すように、ハンドル (A) を引き上げて、カードをシステムから引き出します。

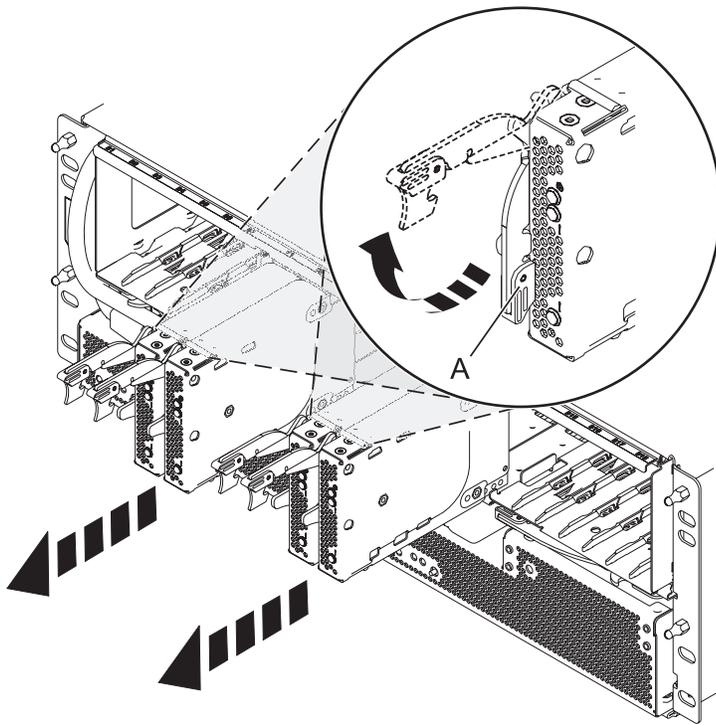


図 62. SAS 拡張カードの取り外し

SAS 拡張カードの取り替えを続行するか、あるいはここに進む前の手順に戻ります。

---

## インストール可能フィーチャーに関する共通の手順

このセクションには、フィーチャーの取り付け、取り外し、および取り替えに関連した共通の手順がすべて含まれています。

---

### 開始する前に

フィーチャーおよび部品の取り付け、取り外し、または取り替えの際、以下の予防措置を守ってください。

これらの予防措置は、システムを保守するための安全な環境を整えることを意図しており、システムの保守手順を説明するものではありません。取り付け、取り外し、および取り替え手順では、システムの保守に必要な処理を段階的に説明します。

## 危険

システムまたはその周辺で作業をする場合は、以下の予防措置を確認してください。

電源ケーブルや電話線、通信ケーブルからの電圧および電流は危険です。感電を防ぐために次の事項を守ってください。

- 電源と装置を接続する場合は、必ず IBM 提供の電源コードを使用してください。IBM 提供の電源コードを他の製品に使用しないでください。
- 電源装置アセンブリーを開いたり、保守しないでください。
- 雷雨の間はケーブルの接続や切り離し、または本製品の設置、保守、再構成を行わないでください。
- この製品は複数の電源コードを備えていることがあります。危険な電圧をすべて除去するには、すべての電源コードを取り外してください。
- すべての電源コードは正しく配線され接地されたコンセントに接続してください。コンセントがシステム定格プレートに従った正しい電圧および相回転を供給していることを確認してください。
- ご使用の製品に接続するすべての装置を、正しく配線されたコンセントに接続してください。
- シグナル・ケーブルの接続または切り離しは可能なかぎり片手で行ってください。
- 火災、水害、または建物に構造的損傷の形跡が見られる場合は、どの装置の電源もオンにしないでください。
- 取り付けおよび構成手順で特別に指示されている場合を除いて、装置のカバーを開く場合はその前に、必ず、接続されている電源コード、通信システム、ネットワーク、およびモデムを切り離してください。
- ご使用の製品または接続されたデバイスの取り付け、移動、またはカバーの取り外しを行う場合には、次の手順に従ってケーブルの接続および取り外しを行ってください。

### ケーブルの切り離し手順:

1. すべての電源をオフにします (別に指示される場合を除く)。
2. 電源コードを電源コンセントから取り外します。
3. シグナル・ケーブルをコネクタから取り外します。
4. すべてのケーブルをデバイスから取り外します。

### ケーブルの接続手順:

1. すべての電源をオフにします (別に指示される場合を除く)。
2. すべてのケーブルをデバイスに接続します。
3. シグナル・ケーブルをコネクタに接続します。
4. 電源コードをコンセントに接続します。
5. デバイスの電源をオンにします。

(D005)

## 危険

IT ラック・システムやその周辺で作業をする場合は、以下の予防措置を確認してください。

- 重量のある装置の場合、取り扱いを誤ると身体傷害または設備の損傷を引き起こす可能性があります。
- ラック・キャビネットのレベル・パッドは必ず下げておきます。
- ラック・キャビネットには必ずスタビライザー・ブラケットを取り付けてください。
- 釣り合いがとれていない機械的荷重による危険な状態を避けるため、最も重いデバイスを常に、ラック・キャビネットの下部に取り付けます。必ず、サーバーおよびオプション・デバイスはラック・キャビネットの下部側から取り付けてください。
- ラック・マウント型デバイスを棚やワークスペースとして使用しないでください。ラック・マウント型デバイスの上には何も置かないでください。



- 各ラック・キャビネットには複数の電源コードが付いていることがあります。保守する際に電源を切断するように指図された場合、ラック・キャビネットのすべての電源コードを抜いてください。
- ラック・キャビネット内のすべてのデバイスは、同一ラック・キャビネットに取り付けられている電源デバイスに接続します。あるラック・キャビネットに取り付けられているデバイスの電源コードを、別のラック・キャビネットにある電源デバイスに接続しないでください。
- 正しく配線されていない電源コンセントは、システムまたはシステムに接続されたデバイスの金属部品に危険な電圧をかける可能性があります。感電を避けるためにコンセントが正しく配線および接地されていることの確認は、お客様の責任で行ってください。

#### 注意

- ラック内部の温度が、すべてのラック・マウント型デバイスに対する製造者推奨の周辺温度を超えるようなラック内には、装置を取り付けしないでください。
- 空気の流れが妨げられているラック内には、装置を取り付けしないでください。装置内で空気の流れのために使用される装置のいずれかの側面、前面、または背面で、空気の流れが妨げられたり減速されたりしないようにしてください。
- 回路の過負荷によって電源配線や過電流保護が破損しないように、電源回路への機器の接続には十分注意してください。ラックに正しく電源を接続するには、ラック内の機器の定格ラベルで、電源回路の総消費電力を確認してください。
- (引き出し式ドロワーの場合。) ラック・スタビライザー・ブラケットがラックに取り付けられていない場合は、ドロワーまたはフィーチャーを引き出したり、取り付けたりしないでください。一度に複数のドロワーを引き出さないでください。一度に複数のドロワーを引き出すと、ラックが不安定になる可能性があります。
- (固定式ドロワーの場合。) このドロワーは固定ドロワーなので、製造元の指定がない限り、保守のために動かさないでください。ラックからドロワーの一部または全部を引き出そうとすると、ラックが不安定になったり、ドロワーがラックから落下する可能性があります。

(R001)

取り替えまたは取り付け手順を始める前に、これらの作業を行ってください。

1. 新しいフィーチャーを取り付ける場合は、そのフィーチャーをサポートするために必要なソフトウェアがお手元にあることを確認してください。IBM Prerequisite を参照してください。

2. ご使用のデータが損失する可能性のある取り付け手順や取り替え手順を実行する場合は、可能であれば、システムまたは論理区画の現行バックアップ (オペレーティング・システム、ライセンス・プログラム、およびデータを含む) が取られていることを確認します。
3. フィーチャーや部品の取り付け手順または取り替え手順を確認します。
4. システムのカラー表示によく注意します。

ハードウェア部品上の青色または赤褐色は、ハードウェアをシステムから取り外したりシステムに取り付けるために持っている場所や、ラッチを開けたり閉じたりするときに触っている場所などを示しています。赤褐色は、システムまたは論理区画が電源オンのまま、その部品を取り外したり再取り付けできることも示しています。

5. 中型のマイナス・ドライバー、プラス・ドライバー、およびはさみを用意します。
6. 部品が正しくなかったり、欠落していたり、外観上損傷がある場合は、以下のことを行います。
  - 部品を取り替える場合は、サービス・プロバイダー、またはその上のレベルのサポート部門に連絡してください。
  - フィーチャーを取り付ける場合は、次のいずれかのサービス機関に連絡してください。
    - その部品のプロバイダー、またはその上のレベルのサポート部門。
    - 米国: IBM Rochester Manufacturing Automated Information Line (R-MAIL)、電話番号 1-800-300-8751。

詳しくは、貴社担当の IBM 営業担当部員にお問い合わせください。

<http://www.ibm.com/planetwide>

7. 取り付けを行っているときに問題が生じた場合は、サービス・プロバイダー、IBM 販売店、またはその上のレベルのサポート部門に連絡してください。
8. 論理区画に新しいハードウェアを取り付ける場合は、システムの区画化について理解し、計画を立てることが必要です。詳しくは、論理区画化を参照してください。

---

## 部品の識別

以下の手順では、ご使用のシステムに該当する方式でシステム上または拡張装置上の障害部品の場所、取り外す部品の場所、または新しい部品を取り付ける場所を識別する方法について説明します。

POWER7<sup>®</sup> プロセッサを搭載した IBM PowerLinux ラック・サーバーでは、発光ダイオード (LED) を使用して、取り外し、保守、または取り付けを行う部品の位置を識別または検査できます。

識別および障害の共用 LED (オレンジ色) により、現場交換可能ユニット (FRU) の位置が示されます。FRU を取り外す場合は、管理コンソールまたはその他のユーザー・インターフェースで識別機能を使用することにより、正しい FRU で作業をしているかどうかをまず最初に検証します。ハードウェア管理コンソールを使用して FRU を取り外す場合、この識別機能は適切な時点で自動的に活動化および非活動化されます。

識別機能により、琥珀色の LED が明滅します。識別機能をオフにすると、LED は前の状態に戻ります。青色の保守ボタンが付いたパーツの場合、識別機能は保守ボタンに対して LED 情報を設定します。それによってこのボタンが押されると、そのパーツ上の適切な LED が明滅します。

識別機能を使用する必要がある場合は、次の手順を実行します。

## コントロール・パネルの LED

この情報は、コントロール パネルの LED およびボタンのガイドとして使用してください。

コントロール・パネルには、さまざまなシステム状況を示す LED があります。

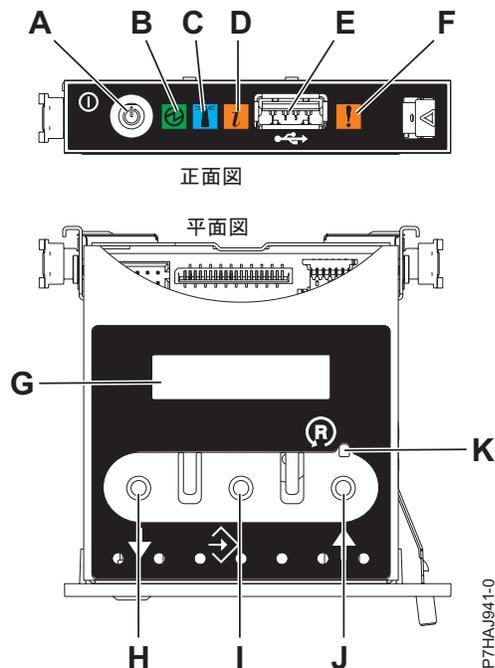


図 63. コントロール・パネル

- **A:** 電源オン・ボタン
- **B:** 電源 LED
  - ライトが常時点灯している場合、装置に完全なシステム電源が供給されていることを示します。
  - ライトが明滅している場合、装置にスタンバイ電源が供給されていることを示します。

注: 電源オンボタンを押すと約 30 秒の遷移時間で、電源 LED が明滅から常時点灯に変わります。この状態移行期間中は、LED が速く明滅する場合があります。

- **C:** エンクロージャー識別ライト
  - 常時点灯している場合は識別状態を示します。これは部品の識別に使用されます。
  - 点灯していない場合、システムが正常に作動していることを示します。
- **D:** システム情報ライト
  - 点灯していない場合、システムが正常に作動していることを示します。
  - 点灯している場合、システムがアテンションを必要としていることを示します。
- **E:** USB ポート
- **F:** エンクロージャー障害インジケータ・ライト
  - 常時点灯している場合、システム装置に障害があることを示します。
  - 点灯していない場合、システムが正常に作動していることを示します。
- **G:** 機能/データ・ディスプレイ
- **H:** 減分ボタン

- **I:** Enter ボタン
- **J:** 増分ボタン
- **K:** ピンホール・リセット・ボタン

#### 関連概念:

#### 障害項目の識別

この説明を理解すれば、ご使用のシステムに適した方式を使用してシステム上または拡張装置上の障害項目の場所を突き止め、かつ識別する方法を習得することができます。

## Linux システムまたは論理区画内の障害項目の識別

システムまたは論理区画に保守援助機能がインストールされている場合は、項目を見つけたりサービス処置を完了するために、表示ライトをアクティブまたは非アクティブにすることができます。

### Linux システムまたは論理区画内の障害項目の検出

システムまたは論理区画に保守援助機能がインストールされている場合は、項目を見つけるために表示ライトをアクティブにする必要があります。

表示ライトをアクティブにするには、以下の手順を実行します。

1. root ユーザーとしてログインします。
2. コマンド行で、`/usr/sbin/usysident -s identify -llocation_code` と入力してから Enter キーを押します。
3. システム・アテンション・ライトを見て、障害項目があるエンクロージャーを識別します。

#### 関連情報:

 PowerLinux サーバー用に IBM が提供するサービスおよび生産性向上ツール  
IBM では、IBM Power Systems™ サーバー上での Linux オペレーティング・システム用に、ハードウェア診断エイドと生産性向上ツール、およびインストール支援プログラムを提供しています。

### Linux システムまたは論理区画内の障害項目のロケーション・コード検出

このトピックの手順を使用して、ロケーション・コードが不明な場合は、障害項目のロケーション・コードを検索します。

システムまたは論理区画内の障害項目を見つけるには、以下のステップに従います。

1. root ユーザーとしてログインします。
2. コマンド行で、`grep diagela /var/log/platform` と入力して、Enter キーを押します。
3. システム参照コード (SRC) を含んだ最新のエントリーを探します。
4. ロケーション情報を記録します。

#### 関連情報:

 PowerLinux サーバー用に IBM が提供するサービスおよび生産性向上ツール  
IBM では、IBM Power Systems サーバー上での Linux オペレーティング・システム用に、ハードウェア診断エイドと生産性向上ツール、およびインストール支援プログラムを提供しています。

### 障害項目の表示ライトのアクティブ化

障害項目のロケーション・コードがわかっている場合は、表示ライトをアクティブにして、取り替える部品を見つけるのに役立っています。

表示ライトをアクティブにするには、以下の手順を実行します。

1. root ユーザーとしてログインします。
2. コマンド行で、`/usr/sbin/usysident -s identify -l location_code` と入力してから Enter キーを押します。
3. システム・アテンション・ライトを見て、障害項目があるエンクロージャーを識別します。

#### 関連情報:



PowerLinux サーバー用に IBM が提供するサービスおよび生産性向上ツール

IBM では、IBM Power Systems サーバー上での Linux オペレーティング・システム用に、ハードウェア診断エイドと生産性向上ツール、およびインストール支援プログラムを提供しています。

### 障害項目の表示ライトの非アクティブ化

取り外しおよび再取り付け手順が完了したら、障害項目の表示ライトを非アクティブにします。

表示ライトを非アクティブにするには、以下の手順を実行します。

1. root ユーザーとしてログインします。
2. コマンド行で、`/usr/sbin/usysident -s normal -l location_code` と入力してから Enter キーを押します。

#### 関連情報:



PowerLinux サーバー用に IBM が提供するサービスおよび生産性向上ツール

IBM では、IBM Power Systems サーバー上での Linux オペレーティング・システム用に、ハードウェア診断エイドと生産性向上ツール、およびインストール支援プログラムを提供しています。

### バーチャル I/O サーバー システムまたは論理区画内の障害項目の検出

障害のある項目を見つけるには、表示ライトをアクティブ化する前に、バーチャル I/O サーバー (VIOS) ツールを使用できます。

障害部品を見つけるには、以下のステップに進みます。

1. root ユーザーまたは celogin- としてログインします。
2. コマンド行で、`diagmenu` と入力して、Enter キーを押します。
3. 「機能選択 (Function Selection)」メニューから、「タスク選択 (Task Selection)」を選択して、Enter キーを押します。
4. 「直前の診断実行結果の表示 (Display Previous Diagnostic Results)」を選択して、Enter キーを押します。
5. 「直前の診断実行結果の表示 (Display Previous Diagnostic Results)」画面で、「診断ログの要約 (Display Diagnostic Log Summary)」を選択します。「診断ログの表示 (Display Diagnostic Log)」画面が表示されます。この画面には、イベントの発生順リストが表示されます。
6. 最新の「S」エントリーの「T」列を見付けます。表中でその行を選択して、Enter キーを押します。
7. 「コミット (Commit)」を選択します。そのログ・エントリーの詳細が表示されます。
8. エントリーの最後のあたりに表示されるロケーション情報と SRN 値を記録します。
9. コマンド行に戻ります。

障害項目のロケーション情報を見て、障害項目を識別している表示ライトをアクティブにします。手順については、88 ページの『バーチャル I/O サーバーを使用して部品を識別する』を参照してください。

## バーチャル I/O サーバーを使用して部品を識別する

バーチャル I/O サーバー (VIOS) ツールを使用して、部品を物理的に見つけることができます。

部品を識別する表示ライトをオンにするには、以下のステップを実行します。

1. root ユーザーとしてログインします。
2. コマンド行で、diagmenu と入力して、Enter キーを押します。
3. 「機能選択 (Function Selection)」メニューから、「タスク選択 (Task Selection)」を選択して、Enter キーを押します。
4. 「タスク選択 (Task Selection)」メニューから、「識別およびアテンション・インジケータ (Identify and Attention Indicators)」を選択して、Enter キーを押します。
5. ライトのリストから、障害項目のロケーション・コードを選択して、Enter キーを押します。
6. 「コミット (Commit)」を選択します。 これにより、システム・アテンションおよび障害項目の表示ライトがオンになります。
7. コマンド行に戻ります。

---

## システムまたは論理区画の始動

サービス処置またはシステム・アップグレードの実行後にシステムまたは論理区画を始動する方法を習得します。

### HMC または SDMC が管理しないシステムの始動

電源ボタンまたは Advanced System Management Interface (ASMI) を使用して、ハードウェア管理コンソール (HMC) または IBM Systems Director 管理コンソール (SDMC) によって管理されないシステムを始動できます。

HMC または SDMC によって管理されないシステムを始動するには、以下の手順に従ってください。

1. 必要であれば、ラックの前面ドアを開きます。
2. コントロール・パネルの電源ボタンを押す前に、次のようにして、システム装置に電源が接続されていることを確認します。
  - すべてのシステム電源ケーブルが電源に接続されている。
  - 次の図に示すように、電源 LED がゆっくり明滅している。
  - 次の図に示すように、画面の上部に 01 V=F が表示される。
3. 次の図に示すように、コントロール・パネル上の電源ボタン (A) を押します。

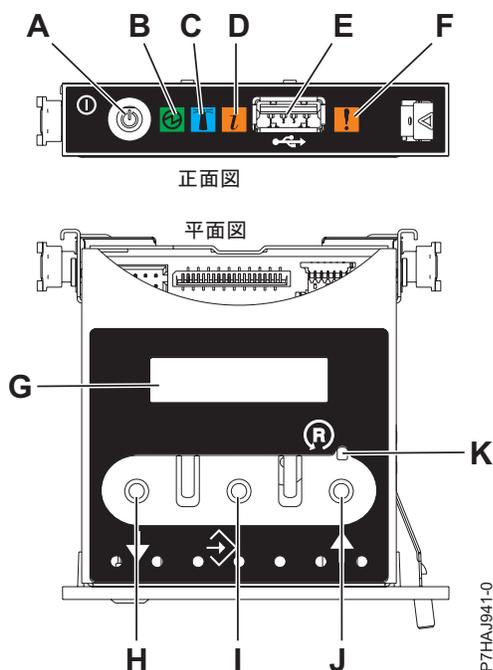


図 64. コントロール・パネル

- **A:** 電源オン・ボタン
  - **B:** 電源 LED
    - ライトが常時点灯している場合、装置に完全なシステム電源が供給されていることを示します。
    - ライトが明滅している場合、装置にスタンバイ電源が供給されていることを示します。
- 注: 電源オンボタンを押すと約 30 秒の遷移時間で、電源 LED が明滅から常時点灯に変わります。この状態移行期間中は、LED が速く明滅する場合があります。
- **C:** エンクロージャー識別ライト
    - 常時点灯している場合は、エンクロージャーまたはエンクロージャー内のリソースの識別状態を示します。
    - 点灯していない場合、エンクロージャー内に識別されるリソースがないことを示します。
  - **D:** アテンション・ライト
    - 点灯していない場合、システムが正常に作動していることを示します。
    - 常時点灯している場合、システムに注意が必要であることを示します。
  - **E:** USB ポート
  - **F:** エンクロージャー障害インジケータ・ライト
    - 常時点灯している場合、システムで障害インジケータがアクティブであることを示します。
    - 点灯していない場合、システムが正常に作動していることを示します。
  - **G:** 機能/データ・ディスプレイ
  - **H:** 減分ボタン
  - **I:** Enter ボタン
  - **J:** 増分ボタン
  - **K:** ピンホール・リセット・ボタン

4. 電源ボタンを押した後、以下のことを確認します。

- パワーオン表示ライトが高速で明滅を始める。
- 約 30 秒後にシステム冷却ファンが始動し、運転速度が加速し始める。
- システムの始動中に、進行インジケータ (チェックポイントともいう) がコントロール・パネルに表示される。コントロール・パネルのパワーオン表示ライトが明滅を停止して、点灯したままになり、システム電源がオンであることを示す。

**ヒント:** 電源ボタンを押してもシステムが始動しない場合は、次のステップを行って、Advanced System Management Interface (ASMI) を使用してシステムを始動してください。

1. ASMI にアクセスします。手順については、HMC を使用しない ASMI へのアクセスを参照してください。
2. ASMI を使用してシステムを始動します。手順については、システムの電源オンおよびオフ (Powering the system on and off) を参照してください。

## HMC によるシステムまたは論理区画の始動

必要なケーブルを取り付け、電源ケーブルを電源に接続した後、ハードウェア管理コンソール (HMC) を使用して、システムまたは論理区画を始動することができます。

HMC での作業手順の詳細については、HMC の管理を参照してください。論理区画を始動する手順については、論理区画化を参照してください。システムの始動手順については、管理対象システムの電源オン (Powering on the managed system) を参照してください。

システムの始動中に、進行インジケータ (チェックポイントともいう) がコントロール・パネルに表示されます。コントロール・パネルの電源オン表示ライトが明滅を停止して、点灯したままになると、システム電源はオンです。

## SDMC を使用したシステムまたは仮想サーバーの始動

必要なケーブルが取り付けられ、電源ケーブルが電源に接続されたら、IBM Systems Director 管理コンソール (SDMC) を使用してシステムまたは仮想サーバーを始動することができます。

SDMC による作業手順の詳細については、SDMC の管理および構成を参照してください。仮想サーバーの始動手順については、仮想サーバーの管理を参照してください。仮想サーバーのシャットダウンと再始動の手順については、仮想サーバーのシャットダウンと再始動を参照してください。

システムの始動中に、進行インジケータ (チェックポイントともいう) がコントロール・パネルに表示されます。コントロール・パネルの電源オン表示ライトが明滅を停止して、点灯したままになると、システム電源はオンです。

---

## システムまたは論理区画の停止

システム・アップグレードまたはサービス処置の一環として、システムまたは論理区画を停止する方法を説明します。

**重要:** コントロール・パネルの電源オン・ボタン、またはハードウェア管理コンソール (HMC) でのコマンド入力のいずれかでシステムを停止すると、データ・ファイルに予測不能なことが生じる可能性があります。システムを停止する前にすべてのアプリケーションが終了していないと、次にシステムを始動したとき、時間が長くなる場合があります。

システムまたは論理区画を停止するには、該当する手順を選択します。

## HMC または SDMC が管理しないシステムの停止

別の作業を行うためにシステムを停止することが必要になる場合があります。システムがハードウェア管理コンソール (HMC) または IBM Systems Director 管理コンソール (SDMC) によって管理されていない場合は、以下の手順に従い、電源ボタンまたは Advanced System Management Interface (ASMI) を使用してシステムを停止します。

システムの停止前に、以下のステップに従います。

1. すべてのジョブが完了して、すべてのアプリケーションを終了していることを確認します。
2. オペレーティング・システムが停止していることを確認します。  
**重要:** システムが停止する前に電源を切ると、データが失われる可能性があります。
3. バーチャル I/O サーバー (VIOS) 論理区画が稼働している場合は、すべてのクライアントがシャットダウンしていること、あるいはクライアントが代替方法で装置にアクセスできることを確認します。

以下の手順では、HMC または SDMC によって管理されないシステムの停止方法を説明します。

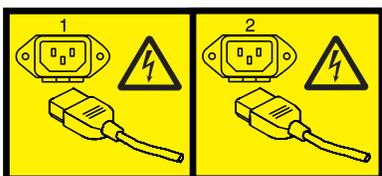
1. **shutdown** または **pwrdwnsys** (システム電源遮断) コマンドを実行する権限を持つユーザーとしてシステムにログインします。
2. Linux のコマンド行で **shutdown -h now** と入力します。

コマンドによって、オペレーティング・システムが停止します。システム電源がオフになり、パワーオン表示ライトがゆっくり明滅し始め、システムはスタンバイ状態になります。

3. コントロール・パネルの表示から IPL タイプと IPL モードを記録します。この情報は、取り付けまたは取り替え手順が完了したときにシステムをこの状態に戻すのに役立ちます。
4. システムに接続されているすべてのデバイスの電源スイッチをオフにします。
5. プリンターや拡張装置などの周辺装置に接続されたすべての電源ケーブルを抜きます。

**重要:** システムには 2 つ目の電源機構が装備されている場合があります。この手順を先に進む前に、システムへのすべての電源が切られていることを確認してください。

(L003)



または



## HMC を使用したシステムの停止

ハードウェア管理コンソール (HMC) を使用して、システムまたは論理区画を停止することができます。

デフォルトで管理対象システムは、最後に稼働している論理区画をシャットダウンすると、自動的に電源オフの状態になります。管理対象システムが自動的に電源オフしないように、HMC で管理対象システムのプロパティを設定する場合は、この手順を使用して管理対象システムを電源オフする必要があります。

**重要:** 可能ならば、管理対象システムを電源オフする前に、管理対象システムの実行中の論理区画をシャットダウンします。最初に論理区画をシャットダウンせずに管理対象システムを電源オフすると、論理区画が異常にシャットダウンし、データ損失の原因になります。バーチャル I/O サーバー (VIOS) 論理区画を使用している場合は、すべてのクライアントがシャットダウンしていること、あるいはクライアントが代替方法で装置にアクセスできることを確認します。

管理対象システムを電源オフするには、次のいずれかのロールのメンバーである必要があります。

- スーパー管理者
- サービス担当者
- オペレーター
- プロダクト・エンジニア

HMC を使用してシステムを停止するには、次の手順を実行します。

1. ナビゲーション領域で、「システム管理」フォルダーを展開します。
2. 「サーバー」アイコンをクリックします。
3. コンテンツ領域で、管理対象システムを選択します。
4. 「タスク」 > 「操作」 > 「電源オフ」を選択します。
5. 該当する電源オフ・モードを選択し、「OK」をクリックします。

## 関連情報:

論理区画のシャットダウンおよび再始動

## SDMC を使用したシステムの停止

IBM Systems Director 管理コンソール (SDMC) を使用して、システムまたは仮想サーバーを停止することができます。

デフォルトで管理対象システムは、最後に稼働している仮想サーバーをシャットダウンすると、自動的に電源オフの状態になります。管理対象システムが自動的に電源オフしないように、SDMC で管理対象システムのプロパティを設定する場合は、この手順を使用して管理対象システムを電源オフする必要があります。

**重要:** 可能ならば、管理対象システムを電源オフする前に、管理対象システムの実行中の仮想サーバーをシャットダウンします。最初に仮想サーバーをシャットダウンせずに管理対象システムを電源オフすると、仮想サーバーが異常にシャットダウンし、データ損失の原因になります。バーチャル I/O サーバー (VIOS) 論理区画を使用している場合は、すべてのクライアントがシャットダウンしていること、あるいはクライアントが代替方法で装置にアクセスできることを確認します。

管理対象システムを電源オフするには、次のいずれかのロールのメンバーである必要があります。

- スーパー管理者
- サービス担当者
- オペレーター
- プロダクト・エンジニア

SDMC を使用してシステムを停止するには、次の手順を実行します。

1. Power Systems リソース領域で、電源オフする管理対象システムを選択します。
2. 「アクション (Actions)」メニューから、「操作 (Operations)」 > 「電源オフ (Power Off)」を選択します。
3. 該当する電源オフ・モードを選択し、「OK」をクリックします。

---

## システムのカバー

POWER7 プロセッサを搭載した IBM PowerLinux ラック・サーバーのカバーの取り外しと再取り付けを行うには、以下の手順に従います。

### **8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T のカバーの取り外しおよび再取り付け**

コンポーネントへのアクセスや保守を実行するために、カバーの取り外し、再取り付け、または取り付けを行うには、以下の手順に従ってください。

### **8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、 8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T からの保守アクセス・カバーの取り外し**

保守アクセス・カバーを取り外す場合は、次の手順を実行します。

以下のステップを実行して保守アクセス・カバーを取り外します。

1. カバーの後部にあるつまみねじ (A) を緩めます。

2. カバー (B) をシステムの背面にスライドさせます。保守アクセス・カバーの最前部が上部のフレーム棚を通り過ぎたら、カバーを持ち上げてシステムから外します。

**重要:** 保守アクセス・カバーが取り外されると、システムは電源遮断を行います。

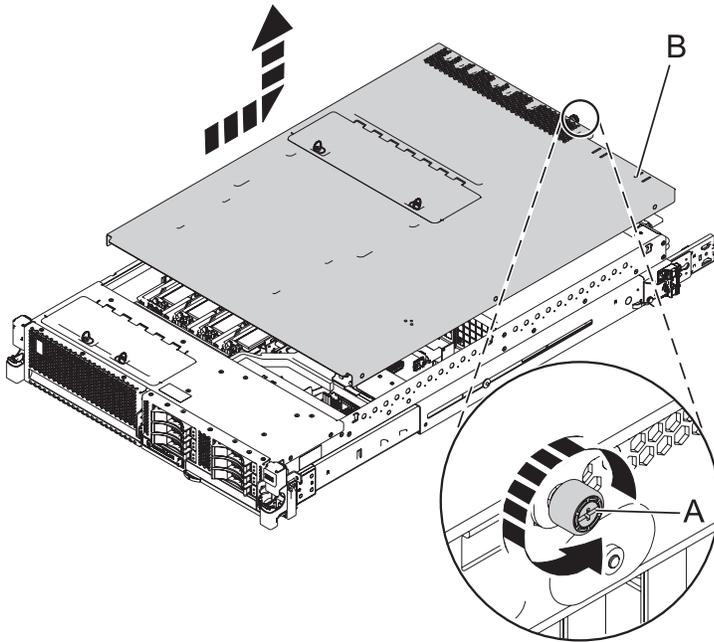


図 65. 保守アクセス・カバーの取り外し

### 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T への保守アクセス・カバーの取り付け

保守アクセス・カバーを取り付ける場合は、次の手順を実行します。

以下のステップを実行して保守アクセス・カバーを取り付けます。

1. 保守アクセス・カバー (A) を、上部のシャーシ棚からおおよそ 25 mm 離して、システムの上部に置きます。
2. 保守アクセス・カバーをシステム装置に沿わせて、システムの前方にスライドさせます。保守アクセス・カバーのタブは上部のシャーシ棚の下をスライドします。
3. 保守アクセス・カバーの後部にあるつまみねじ (B) を、システム・シャーシ後部の 2 つの穴の位置に合わせます。
4. つまみねじを締めて、保守アクセス・カバーを固定します。

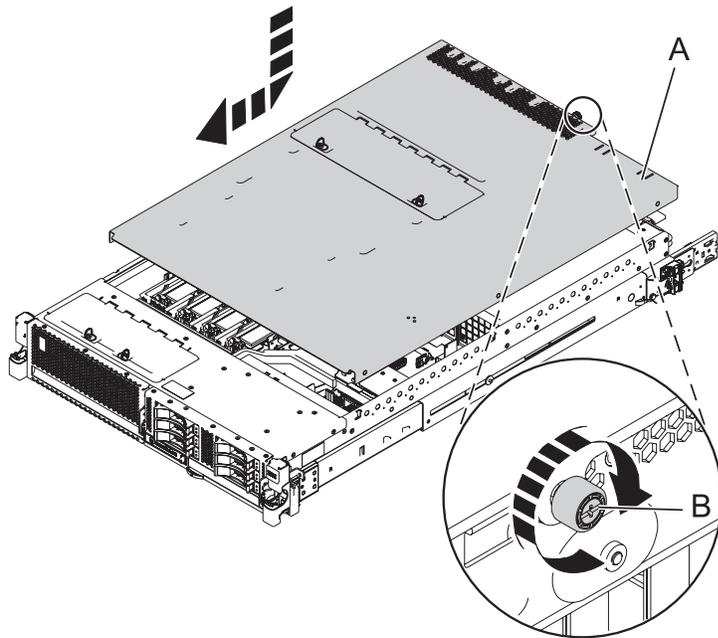


図 66. 保守アクセス・カバーの取り付け

## 保守位置および操作位置

IBM PowerLinux ラック・サーバーを保守位置または操作位置に設置するには、以下の手順に従います。

### 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T システムの保守位置または操作位置への設置

保守を実行したり内部コンポーネントにアクセスしたりするために、システムを保守位置あるいは操作位置にするには、以下の手順に従ってください。

#### ラック・マウント型 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T の保守位置への設置

ラック・マウント型システムを保守位置に設置するには、以下の手順を実行します。

#### 注:

- システムを保守位置に設置する場合は、ラックが倒れないように、すべての安定プレート在所定の場所にしっかり取り付ける必要があります。必ず、一度に 1 つのシステム装置のみを保守位置にしてください。
- 装置をラック内で前方に引き出すときは、システムの背面のケーブルが引っ掛かったり巻きついたりしていないことを確認してください。
- レールが完全に伸びきると、レール安全ラッチがロックされます。これにより、システムを引き出し過ぎることが防止されます。

1. ラックの前面ドアを開きます。
2. ラック内で保守対象のシステム装置を識別します。
3. システム装置のリリース・ラッチを左右の両側で下げたまま、レールが完全に伸びきってロックされるまで、システム装置をラックから引き出します。

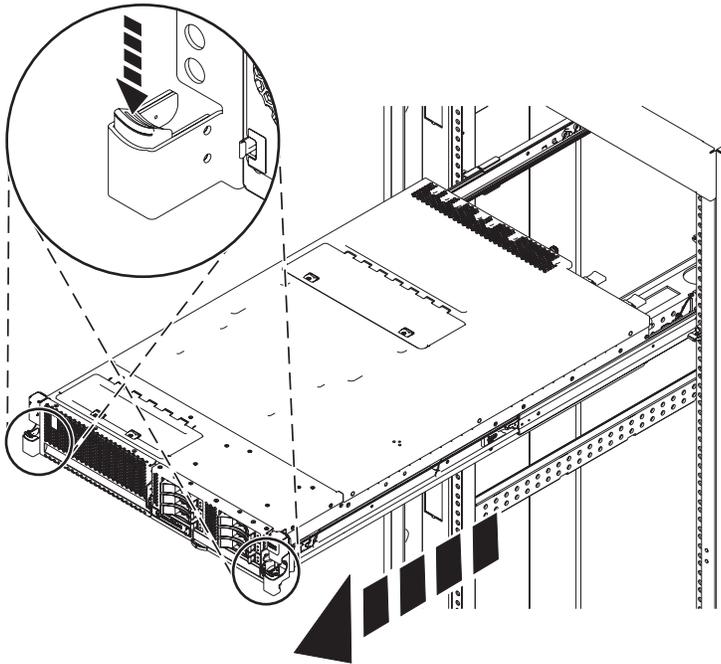


図 67. システムの保守位置への設置

### ラック・マウント型 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T の操作への設置

ラック・マウント型システムを操作位置に設置するには、以下の手順を実行します。

システムを操作位置に設置する場合、システム装置をラック内に押し戻すときには、システムの背面のケーブルが引っ掛かったり巻きついたりしていないことを確認してください。

1. 青色の安全レール・ラッチ (A) を上方に持ち上げてアンロックします。

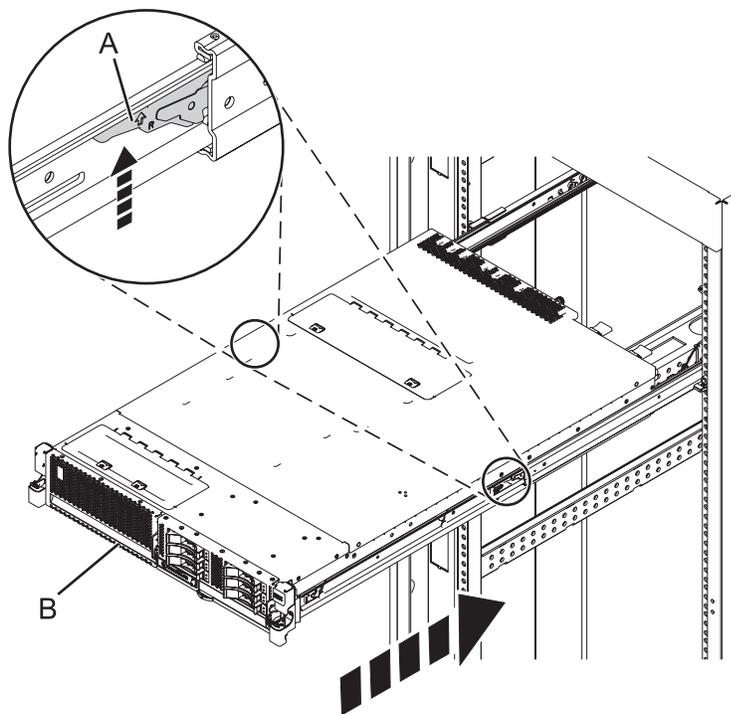


図 68. 安全レール・ラッチのアンロック

2. 両方のシステム装置リリース・ラッチが所定の位置にロックされるまで、システム装置をラック内に押し戻します。

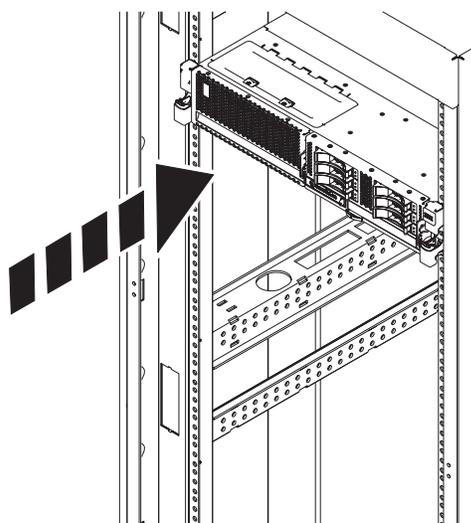


図 69. システムの操作位置への設置

3. 保守しているシステム装置の前面のラック・ドアを閉じます。

## 電源コード

POWER7 プロセッサを搭載した IBM PowerLinux ラック・サーバーの電源コードの切断と再接続を行うには、以下の手順に従います。

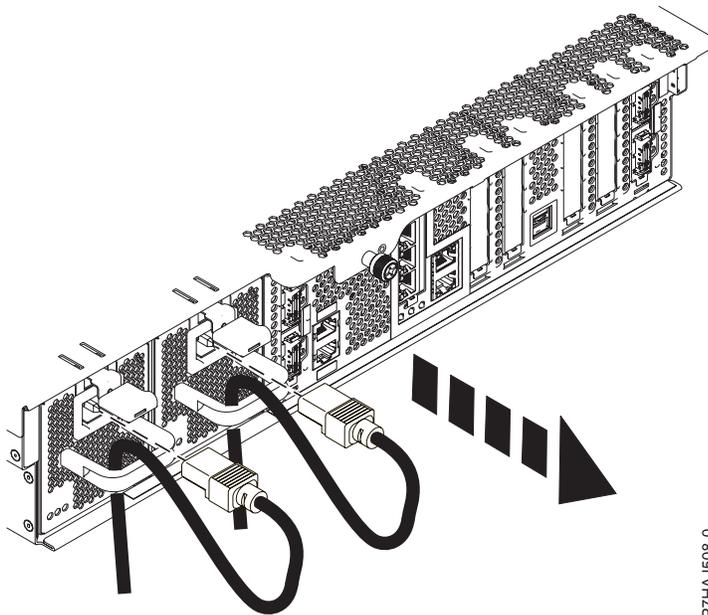
### 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、 8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T からの電源コードの切り離し

システムから電源コードを切り離す場合は、以下の手順を使用します。

システムから電源コードを切り離すには、以下のステップを実行します。

1. 保守対象のシステム装置の背面のラック・ドアを開きます。
2. ラック内で保守対象のシステム装置を識別します。
3. 保守対象システム装置からすべての電源コードを切り離します。

**注:** このシステムは、2 つの電源機構を装備している場合があります。電源オフが必要な取り外しおよび再取り付けの手順を先へ進める前に、システムへの両方の電源が完全に切られていることを確認してください。



P7HAJ508-0

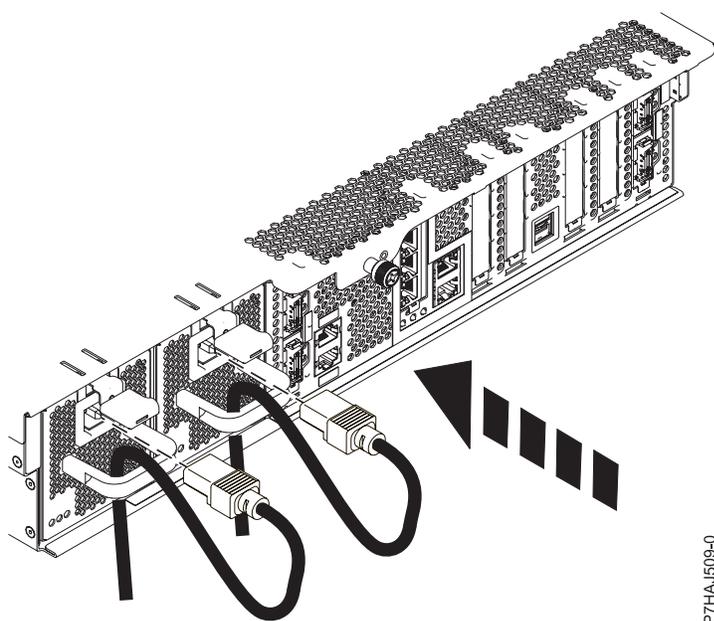
図 70. 電源コードの取り外し

## 8246-L1C、8246-L1D、8246-L1S、8246-L1T、8246-L2C、 8246-L2D、8246-L2S、または 8246-L2T システムへの電源コードの接続

システムに電源コードを接続する場合は、以下の手順を使用します。

システムに電源コードを接続する場合は、以下のステップを実行します。

1. 保守対象のシステム装置の背面のラック・ドアを開きます。
2. ラック内で保守対象のシステム装置を識別します。
3. すべての電源コードを保守対象のシステム装置に接続します。コードはハンドルを通して配線するようにしてください。



P7HAJ509-0

図 71. 電源コードの接続

### 取り付け済み部品の検査

オペレーティング・システム、スタンドアロン診断、またはハードウェア管理コンソール (HMC) を使用することによって、ご使用のシステム、論理区画、または拡張装置に新規に取り付けた部品や取り替えた部品を検査することができます。

### Linux システムまたは論理区画に取り付けられた部品の検査

新しい部品を取り付けた場合、システムがその部品を認識するかどうかを検査する方法が分かります。

新規に取り付けられた部品または取り替えられた部品を検査するには、100 ページの『スタンドアロン診断を使用して取り付け済み部品を検査する』から続行します。

## スタンドアロン診断を使用して取り付け済み部品を検査する

部品を取り付けまたは取り替えた場合は、その新しい部品をシステムが認識することを検査します。スタンドアロン診断プログラムを使用して、システム、拡張装置、または論理区画に取り付けられた部品を検査することができます。

- そのサーバーが別のサーバーに直接接続されているか、またはネットワークに接続されている場合は、他のサーバーとの通信が停止していることを確認します。
- スタンドアロン診断プログラムは、論理区画のすべてのリソースを使用します。その他のアクティビティを論理区画で実行することはできません。
- eServer スタンドアロン診断プログラムは、システム・コンソールを使用します。

これらの診断プログラムは、CD-ROM または Network Installation Management (NIM) サーバーから使用します。この手順では、CD-ROM からの診断プログラムの使用方法について説明します。NIM サーバーから診断を実行する場合については、スタンドアロン診断プログラムの Network Installation Management サーバーからの実行 (Running stand-alone diagnostics from a Network Installation Management server) を参照してください。

スタンドアロン診断プログラムを使用するには、以下の手順を実行します。

1. システムまたは論理区画で、すべてのジョブおよびアプリケーションを停止し、次にオペレーティング・システムを停止します。
2. すべての磁気テープ、ディスク、および CD-ROM を取り出します。
3. システム装置の電源をオフにします。次のステップとして、スタンドアロン診断プログラム CD-ROM からサーバーまたは論理区画をブートします。作業中のサーバーまたは論理区画でブート用デバイスとして光ディスク・ドライブが使用できない場合は、以下の手順を実行します。
  - a. ASMI にアクセスします。ASMI の使用について詳しくは、ASMI へのアクセス (Accessing the ASMI) を参照してください。
  - b. ASMI メインメニューで、「電源/再始動制御 (Power/Restart Control)」をクリックします。
  - c. 「システムの電源オン/オフ」をクリックします。
  - d. 「論理区画モード・ブート (Aix or Linux logical partition mode boot)」ドロップダウン・メニューで、「デフォルト・ブート・リストからのサービス・モード・ブート (Service mode boot from default boot list)」オプションを選択します。
  - e. 「設定を保管して電源オン (Save settings and power on)」をクリックします。光ディスク・ドライブの電源がオンになったら、スタンドアロン診断 CD-ROM を挿入します。
  - f. ステップ 5 に進みます。
4. システム装置の電源をオンにしたら、直ちに診断 CD-ROM を光ディスク・ドライブに挿入します。
5. システム・コンソール上に **keyboard POST** インジケーターが表示された後、最後の POST インジケーター (**speaker**) が表示される前に、システム・コンソール上で数字の 5 のキーを押して、デフォルトのサービス・モードを使用してサービス・モード・ブートを開始するように指示します。
6. 要求されたパスワードを入力します。
7. 「診断操作指示 (Diagnostic Operating Instructions)」画面で、Enter キーを押します。

**ヒント:** サービス要求番号 (SRN) または他の参照コードが表示された場合は、アダプターがしっかり固定されているか、またはケーブルの接続に問題がないか確認してください。

**注:** システムの始動時に SRN または他の参照コードを受け取った場合、サービス・プロバイダーに連絡して支援を依頼してください。

8. 端末タイプが要求された場合は、「機能選択 (Function Selection)」メニューの「**端末の初期化 (Initialize Terminal)**」オプションを選択して、オペレーティング・システムを初期化します。
9. 「機能選択 (Function Selection)」メニューから、「**拡張診断ルーチン (Advanced Diagnostics Routines)**」を選択し、Enter キーを押します。
10. 「診断モード選択 (Diagnostic Mode Selection)」メニューから、「**システム検査 (System Verification)**」を選択し、Enter キーを押します。
11. 「拡張診断選択 (Advanced Diagnostic Selection)」メニューが表示された場合は、「**すべてのリソース (All Resources)**」を選択するか、または個別の部品の診断を選択して Enter キーを押すことにより、取り替えた部品とその部品に接続されているすべてのデバイスだけをテストします。
12. 「テストが完了し、トラブルは検出されませんでした (Testing Complete, No trouble was found)」メッセージが表示されましたか?
  - **いいえ:** まだ問題が残っています。サービス・プロバイダーに連絡してください。
  - **はい:** ステップ 13 に進みます。
13. 上記の手順で指示されたように、サービス・プロセッサまたはネットワーク設定値を変更した場合は、設定値をシステムを保守する前の値に戻します。
14. 表示ライトがまだオンである場合は、次の手順を実行します。
  - a. 「タスク選択 (Task Selection)」メニューから、「**識別とアテンション・インジケータ (Identify and Attention Indicators)**」を選択して、システム・アテンション・ライトおよび表示ライトをオフにし、Enter キーを押します。
  - b. 「**システム・アテンション・インジケータを NORMAL に設定 (Set System Attention Indicator to NORMAL)**」を選択して、Enter キーを押します。
  - c. 「**すべての識別インジケータを NORMAL に設定 (Set All Identify Indicators to NORMAL)**」を選択して、Enter キーを押します。
  - d. 「**コミット (Commit)**」を選択します。

注: これにより、システム・アテンション・インジケータおよび識別インジケータが、**障害 状態から正常 状態**に変わります。
  - e. コマンド行に戻ります。

## HMC を使用した取り付け済み部品の検査

部品の取り付けまたは取り替えを行った場合、サーバーでのサービス処置が完了したら、ハードウェア管理コンソール (HMC) を使用して HMC レコードを更新します。 サービス処置中に参照コード、症状、またはロケーション・コードを使用した場合は、レコードの位置を確認してこの手順で使用します。

取り付け済み部品を検査するには、以下の手順を実行してください。

1. HMC で、オープンされているサービス処置イベントがないかサービス処置イベント・ログを検査します。詳しくは、103 ページの『HMC を使用したサービス可能イベントの表示』を参照してください。
2. オープンされているサービス処置イベントはありますか?
  - いいえ:** システム・アテンション LED がオンのままになっている場合は、HMC を使用してこの LED をオフにします。102 ページの『HMC を使用した LED の活動化および非活動化』を参照してください。これで手順は終了です。
  - はい:** 次の手順を引き続き実行します。
3. オープンされているサービス処置イベントのリストを記録します。

4. オープンされているサービス処置イベントを詳細に検査します。このサービス処置イベントに関連したエラー・コードは、前に収集したものと同じですか。
  - **いいえ:** 以下のオプションのいずれかを選択します。
    - 他のサービス可能イベントを調べて一致するものを見つけ、次のステップを引き続き実行します。
    - ログが前に収集ものと一致しない場合は、サービス・プロバイダーに連絡してください。
  - **はい:** 次の手順を引き続き実行します。
5. 「このサービス可能イベントに関連したエラー (Error Associated With This Serviceable Event)」ウィンドウでサービス処置イベントを選択して強調表示します。
6. 「**イベントのクローズ**」をクリックします。
7. サービス可能イベントにコメントを追加します。任意の固有な追加情報を組み込んでください。「**OK**」をクリックします。
8. オープンされたサービス処置イベントの現場交換可能ユニット (FRU) を交換、追加、または変更しましたか?
  - **いいえ:** 「このサービス可能イベントの **FRU** 交換はありません (No FRU Replaced for this Serviceable Event)」オプションをクリックしてから「**OK**」をクリックしてサービス処置イベントを閉じます。
  - **はい:** 次の手順を実行します。
    - a. FRU リストで、更新する必要がある FRU を選択します。
    - b. FRU をダブルクリックし、FRU 情報を更新します。
    - c. 「**OK**」をクリックし、サービス処置イベントを閉じます。
9. 問題が解決されない場合は、サービス・プロバイダーに連絡してください。

## HMC を使用した LED の活動化および非活動化

ハードウェア管理コンソール (HMC) のサービス・フォーカル・ポイントを使用して LED を活動化または非活動化するには、以下の手順を使用します。

### HMCを使用したシステム・アテンション LED または区画 LED の非活動化:

ある問題について優先度があまり高くないと判断し、後で問題を修復することにした場合、システムまたは論理区画のアテンション LED を非活動化することができます。非活動化しても、別の問題が発生した場合には LED を再び活動化することができます。

HMC を使用してシステム・アテンション LED を非活動化するには、以下の手順を実行します。

1. ナビゲーション領域で、「**システム管理**」を開きます。
2. 「**サーバー**」を開き、必要なシステムを選択します。
3. コンテンツ領域で、必要な区画を選択します。
4. 「**タスク**」 > 「**操作**」 > 「**アテンション LED の非活動化**」を選択します。システム内にはまだオープン問題が存在する可能性があることを示す確認ウィンドウが表示されます。
5. 「**OK**」をクリックして非活動化を続行します。システムまたは区画の詳細を示し、システムまたは論理区画のアテンション LED が非活動化されたことを確認できるウィンドウが表示されます。

### HMC を使用した識別 LED の活動化または非活動化:

システムは、エンクロージャーや現場交換可能ユニット (FRU) など、システム内のさまざまなコンポーネントを識別するのに役立ついくつかの LED を備えています。この理由から、これらの LED は**識別 LED**と呼ばれます。

ユーザーは、以下のタイプの識別 LED を活動化または非活動化することができます。

- **エンクロージャーの識別 LED。** 特定のドロワー (エンクロージャー) にアダプターを追加する場合、ドロワーのマシン・タイプ、モデル、およびシリアル番号 (MTMS) を知っている必要があります。新規アダプターを必要とするドロワー用の正しい MTMS を持っているかどうかを調べるには、ドロワーの LED を活動化して、MTMS が新規アダプターを必要とするドロワーに対応しているかどうかを確認することができます。
- **指定のエンクロージャーに関連した FRU の識別 LED。** 特定の入出力アダプターにケーブルを接続する場合、現場交換可能ユニット (FRU) であるアダプターの LED を活動化して、ケーブルの接続場所を物理的に確認することができます。これは特に、オープン・ポートを持つアダプターが複数ある場合に役立ちます。

エンクロージャーまたは FRU の識別 LED を活動化または非活動化するには、以下のステップを実行します。

1. ナビゲーション領域で、「システム管理」を開きます。
2. 「サーバー」を選択します。
3. コンテンツ領域で、該当するシステムのボックスをチェックします。
4. 「タスク」 > 「操作」 > 「LED 状況」 > 「識別 LED」を選択します。
5. エンクロージャーの識別 LED を活動化または非活動化するには、テーブルからエンクロージャーを選択して、「LED の活動化」または「LED の非活動化」のいずれかをクリックします。関連の LED がオンまたはオフになります。
6. FRU の識別 LED を活動化または非活動化するには、テーブルからエンクロージャーを選択して、「FRU のリスト」をクリックします。
7. テーブルから 1 つ以上の FRU を選択して、「LED の活動化」または「LED の非活動化」のいずれかをクリックします。関連の LED がオンまたはオフになります。

## HMC を使用したサービス可能イベントの表示

サービス可能イベント (詳細、コメント、およびサービス・ヒストリーを含む) を表示するには、以下の手順を使用します。

サービス可能イベントおよびイベントに関する他の情報を表示するには、以下のいずれかのロールのメンバーであることが必要です。

- スーパー管理者
- サービス担当者
- オペレーター
- プロダクト・エンジニア
- ビューアー

サービス可能イベントを表示するには、以下の手順に従います。

1. ナビゲーション領域で、「サービス管理 (Service Management)」を選択します。
2. 「サービス可能イベントの管理」を選択します。
3. 表示するサービス可能イベントの基準を選択して、「了解」をクリックします。「サービス可能イベントの概要」ウィンドウが開きます。リストには、選択基準に一致するサービス可能イベントがすべて表示されます。メニュー・オプションを使用して、サービス可能イベントに対するアクションを実行できます。

4. 「サービス可能イベントの概要」ウィンドウで行を選択して、「**選択済み**」 > 「**詳細の表示**」を選択します。「サービス可能イベントの詳細」ウィンドウが開き、サービス可能イベントに関する詳細情報が表示されます。上部のテーブルには、問題番号や参照コードなどの情報が表示されます。下部のテーブルには、このイベントに関連した現場交換可能ユニット (FRU) が表示されます。
5. コメントおよび履歴を表示したいエラーを選択して、以下の手順に従います。
  - a. 「**アクション**」 > 「**コメントの表示**」を選択します。
  - b. コメントの表示が終了したら、「**閉じる**」をクリックします。
  - c. 「**アクション**」 > 「**サービス・履歴の表示**」を選択します。「サービス・履歴」ウィンドウが開き、選択されたエラーに関連するサービス・履歴が表示されます。
  - d. サービス・履歴の表示が終了したら、「**閉じる**」をクリックします。
6. 完了したら、「**取消**」を 2 度クリックして、「サービス可能イベントの詳細」ウィンドウと「サービス可能イベントの概要」ウィンドウを閉じます。

## SDMC を使用した取り付け済み部品の検査

部品の取り付けまたは取り替えを行った場合、サーバーでのサービス処置が完了したら、IBM Systems Director 管理コンソール (SDMC) を使用して SDMC レコードを更新します。サービス処置中に参照コード、症状、またはロケーション・コードを使用した場合は、レコードの位置を確認してこの手順で使用します。

取り付け済み部品を検査するには、以下の手順を実行してください。

1. SDMC で、オープンされているサービス処置イベントがないかサービス処置イベント・ログを検査します。詳しくは、106 ページの『SDMC を使用したサービス可能イベントの表示』を参照してください。
2. オープンされているサービス処置イベントはありますか?
  - いいえ: システム・アテンション LED がオンのままになっている場合は、SDMC を使用してこの LED をオフにします。『SDMC を使用した LED の活動化および非活動化』を参照してください。これで手順は終了です。
  - はい: 次の手順を引き続き実行します。
3. オープンされているサービス処置イベントのリストを記録します。
4. オープンされているサービス処置イベントを詳細に検査します。このサービス処置イベントに関連したエラー・コードは、前に収集したものと同じですか。
  - **いいえ:** 以下のオプションのいずれかを選択します。
    - 他のサービス可能イベントを調べて一致するものを見つけ、次のステップを引き続き実行します。
    - ログが前に収集ものと一致しない場合は、サービス・プロバイダーに連絡してください。
  - **はい:** 次の手順を引き続き実行します。
5. 「このサービス可能イベントに関連したエラー (Error Associated With This Serviceable Event)」ウィンドウでサービス処置イベントを選択して強調表示します。
6. 「**削除 (Delete)**」または「**無視 (Ignore)**」をクリックします。

注: これらのオプションは問題イベント・ログからのみ選択できます。

## SDMC を使用した LED の活動化および非活動化

IBM Systems Director 管理コンソール (SDMC) を使用して LED を活動化または非活動化するには、以下の手順を実行します。

**SDMC を使用したシステム・アテンション LED または区画 LED の非活動化:**

システム・アテンション LED または論理区画 LED を非活動化することができます。例えば、ユーザーはある問題について優先度があまり高くないと判断し、後で問題を修復することに決める場合があります。ただし、別の問題が発生した場合はアラートを受け取りたいので、システム・アテンション LED を非活動化して、別の問題が発生したときに再度活動化できるようにする必要があります。

システム・アテンション LED を非活動化するには、以下の手順を実行します。

1. 「リソース (Resources)」タブで、適切なホストまたは仮想サーバーを選択します。
2. 「アクション (Actions)」 > 「サービスおよびサポート (Service and Support)」 > 「ハードウェア (Hardware)」 > 「システム・アテンション LED (System Attention LED)」を選択します。
3. 「システム・アテンション LED の非活動化 (Deactivate System Attention LED)」を選択します。確認ウィンドウが表示され、以下の情報が提供されます。
  - システム・アテンション LED が非活動化されたことの確認。
  - システム内にはまだオープン問題が存在する可能性があることの表示。
  - ユーザーはシステム・アテンション LED を活動化できないことの表示。
4. 仮想サーバーの 1 つを選択し、「システム・アテンション LED の非活動化 (Deactivate System Attention LED)」を選択します。確認ウィンドウが表示され、以下の情報が提供されます。
  - システム・アテンション LED が非活動化されたことの確認。
  - 論理区画内にはまだオープン問題が存在する可能性があることの表示。
  - 仮想サーバー LED を活動化できないことの表示。

#### SDMC を使用した識別 LED の活動化または非活動化:

システムは、エンクロージャーや現場交換可能ユニット (FRU) など、さまざまなコンポーネントを識別するのに役立ついくつかの LED を備えています。この理由から、これらの LED は識別 LED と呼ばれます。

ユーザーは、以下のタイプの識別 LED を活動化または非活動化することができます。

- **エンクロージャーの識別 LED。** 特定のドロワー (エンクロージャー) にアダプターを追加する場合、ドロワーのマシン・タイプ、モデル、およびシリアル番号 (MTMS) を知っている必要があります。新規アダプターを必要とするドロワー用の正しい MTMS を持っているかどうかを調べるには、ドロワーの LED を活動化して、MTMS が新規アダプターを必要とするドロワーに対応しているかどうかを確認することができます。
- **指定のエンクロージャーに関連した FRU の識別 LED。** 特定の入出力アダプターにケーブルを接続する場合、現場交換可能ユニット (FRU) であるアダプターの LED を活動化して、ケーブルの接続場所を物理的に確認することができます。これは特に、オープン・ポートを持つアダプターが複数ある場合に役立ちます。

エンクロージャーまたは FRU の識別 LED を活動化または非活動化するには、以下のステップを実行します。

1. 「リソース (Resources)」タブで、適切なホストまたは仮想サーバーを選択します。
2. 「アクション (Actions)」 > 「サービスおよびサポート (Service and Support)」 > 「ハードウェア (Hardware)」 > 「識別 LED (Identify LED)」を選択します。
3. 「識別 LED、エンクロージャーの選択 (Identify LED, Select Enclosure)」ウィンドウで、システム装置またはエンクロージャーを選択します。
4. 識別 LED を活動化または非活動化するには、「LED の活動化 (Activate LED)」または「LED の非活動化 (Deactivate LED)」のいずれかをクリックします。関連の LED がオンまたはオフになります。

- FRU の識別 LED を活動化または非活動化するには、テーブルからシステムまたはエンクロージャーを選択して、「**FRU のリスト (List FRUs)**」をクリックします。
- テーブルから 1 つ以上の FRU を選択して、「**LED の活動化**」または「**LED の非活動化**」のいずれかをクリックします。関連の LED がオンまたはオフになります。

## SDMC を使用したサービス可能イベントの表示

サービス可能イベント (詳細、コメント、およびサービス・ヒストリーを含む) を表示するには、以下の手順を使用します。

サービス可能イベントを表示するには、以下の手順に従います。

- 「リソース (Resources)」タブで、適切なホストまたは仮想サーバーを選択します。
- 「アクション (Actions)」 > 「システム状況およびヘルス (System Status and Health)」 > 「イベント・ログ (Event Log)」を選択します。
- オプション: 「イベント・フィルター (Event filter)」メニューを使用して、イベント基準を絞り込むことができます。
- 「イベント (Events)」ウィンドウで 1 行を選択し、「アクション (Actions)」 > 「プロパティ (Properties)」を選択します。「プロパティ (Properties)」ウィンドウが開き、サービス可能イベントに関する詳細情報が表示されます。テーブルには、このイベントに関連した問題番号、参照コード、現場交換可能ユニット (FRU) などの情報が表示されます。

## バーチャル I/O サーバーのツールを使用した、システムまたは論理区画の取り付け済み部品または取り替え済み部品の検査

部品を取り付けた場合または取り替えた場合は、バーチャル I/O サーバー (VIOS) にあるツールを使用して、その部品がシステムまたは論理区画で認識されることを確認する必要があります。

### VIOSを使用して取り付け済み部品を検査する

新たに取り付けられた部品または取り替えた部品の動作を検査することができます。

以下のステップを実行して、取り付けられた部品または取り替えた部品を検査します。

- root ユーザーとしてログインします。
- コマンド行で、diagmenu と入力して、Enter キーを押します。
- 「**拡張診断ルーチン (Advanced Diagnostics Routines)**」を選択し、Enter キーを押します。
- 「**診断モード選択 (Diagnostic Mode Selection)**」メニューから、「**システム検査 (System Verification)**」を選択し、Enter キーを押します。
- 「**拡張診断選択 (Advanced Diagnostic Selection)**」メニューが表示されたら、以下のいずれかのステップを実行します。
  - 1 つのリソースをテストするには、リソースのリストから取り付けたリソースを選択して、Enter キーを押します。
  - オペレーティング・システムで使用可能なすべてのリソースをテストするには、「**すべてのリソース (All Resources)**」を選択して、Enter キーを押します。
- 「**コミット (Commit)**」を選択して、表示されるプロンプトに応答して、診断プログラムの実行完了を待ちます。
- 診断プログラムは、メッセージ「**トラブルは検出されませんでした (No trouble was found)**」を表示して、実行を完了しましたか?

- **いいえ:** サービス要求番号 (SRN) または他の参照コードが表示された場合は、アダプターがしっかり固定されているか、またはケーブルの接続に問題がないか確認してください。取り付け手順を見直して、新しい部品が正しく取り付けられていることを確認します。問題を修正できない場合は、すべての SRN またはわかる範囲のその他の参照コード情報を収集してください。システムが LPAR モードで実行中の場合は、部品を取り付けた区画を記録します。サービス・プロバイダーに連絡して援助を依頼してください。
- **はい:** 新しいデバイスは正しく取り付けられています。診断プログラムを終了して、システムを通常操作に戻してください。

## VIOS を使用した取り替え済み部品の検査

新たに取り付けられた部品または取り替えた部品の動作を検査するには、以下の手順を実行します。

1. VIOS またはオンライン診断保守援助機能の同時 (ホット・スワップ) 保守操作を使用して部品を取り替えましたか?
  - **いいえ:** ステップ 2 に進みます。
  - **はい:** ステップ 5 (108 ページ) に進みます。
2. システムの電源をオフにしましたか?
  - **いいえ:** ステップ 4 に進みます。
  - **はい:** システムがスロー・ブートをサポートしている場合は、スロー・ブートを実行するようにシステムを設定します。詳しくは、「低速ブートの実行」を参照してください。
3. システムを始動して、VIOS オペレーティング・システムのログイン・プロンプトが表示されるか、オペレーター・パネルまたはディスプレイ上で見えるシステム・アクティビティーが停止するまで待ちます。VIOS のログイン・プロンプトは表示されましたか?
  - **いいえ:** SRN または他の参照コードが表示された場合は、アダプターがしっかり固定されているか、またはケーブルの接続に問題がないか確認してください。新しい部品が正しく取り付けられていることを取り替えた部品用の手順を見直して確認します。問題を修正できない場合は、すべての SRN またはわかる範囲のその他の参照コード情報を収集してください。システムが始動しないか、またはログイン・プロンプトが出ない場合は、オペレーティング・システムのロードと始動に関する問題を参照してください。

システムが区画化されている場合は、部品を取り替えた論理区画を記録します。サービス・プロバイダーに連絡して援助を依頼してください。

- **はい:** ステップ 4 に進みます。
4. コマンド・プロンプトで、diag -ra と入力し、Enter キーを押して、欠落リソースの有無を確認します。コマンド・プロンプトが表示された場合は、ステップ 5 (108 ページ) に進みます。

「診断選択 (Diagnostic selection)」メニューが表示され、いずれかのリソースの隣りに **M** が表示される場合は、次の手順を実行します。

- a. リソースを選択して、Enter キーを押します。
- b. 「コミット (Commit)」を選択します。
- c. 表示される指示に従います。
- d. 「以前に表示されたエラーを再表示しますか? (Do you want to review the previously displayed error?)」メッセージが表示される場合、「Yes」を選択して、Enter キーを押します。
- e. SRN が表示された場合は、カードがしっかり固定されているか、または接続に問題がないか確認します。明確な問題が表示されない場合は、SRN を記録し、サービス・プロバイダーに連絡して支援を依頼してください。

- f. SRN が表示されない場合は、ステップ 5 に進みます。
5. 以下のようにして、部品をテストします。
- コマンド行で、diagmenu と入力して、Enter キーを押します。
  - 「機能選択 (Function Selection)」メニューから、「拡張診断ルーチン (Advanced Diagnostics Routines)」を選択し、Enter キーを押します。
  - 「診断モード選択 (Diagnostic Mode Selection)」メニューから、「システム検査 (System Verification)」を選択し、Enter キーを押します。
  - 「すべてのリソース (All Resources)」を選択するか、個別の部品の診断を選択し、Enter キーを押して、取り替えた部品とその部品に接続されているすべてのデバイスのみをテストします。

「リソース修復処置 (Resource Repair Action)」メニューが表示されましたか？

- いいえ: ステップ 6 に進みます。
  - はい: ステップ 7 に進みます。
6. 「テストが完了し、トラブルは検出されませんでした (Testing Complete, No trouble was found)」メッセージが表示されましたか？
- いいえ: まだ問題が残っています。サービス・プロバイダーに連絡してください。これで手順は終了です。
  - はい: 前にログに記録されていない場合は、「タスク選択」メニューから「ログ修復処置 (Log Repair Action)」を選択してエラー・ログを更新します。修復処置でケーブルまたはアダプターの取り付け直しを行った場合は、その修復処置と関連したリソースを選択します。処置と関連したリソースが「リソース・リスト (Resource List)」に表示されない場合は、「sysplanar0」を選択し、Enter を押します。

ヒント: この変更により部品の表示ライトが障害状態から正常状態に変わります。  
ステップ 9 (109 ページ) に進みます。

7. 「リソース修復処置 (Resource Repair Action)」メニューから、取り替えられた部品のリソースを選択します。システム検証モードでリソースに対してテストが実行されており、エラー・ログの中にそのリソースのエントリーがあるときは、リソースのテストが正常であっても、「リソース修復処置 (Resource Repair Action)」メニューが表示されます。以下の手順を実行すると、エラー・ログが更新され、システム検出可能な部品が取り替えられたことが示されます。障害項目の表示ライトがあるシステムでは、これにより表示ライトが正常状態に変わります。
- 「リソース修復処置 (Resource Repair Action)」メニューから、取り替えられたリソースを選択します。修復処置でケーブルまたはアダプターの取り付け直しを行った場合は、その修復処置と関連したリソースを選択します。処置と関連したリソースが「リソース・リスト (Resource List)」に表示されない場合は、「sysplanar0」を選択します。Enter キーを押します。
  - 選択した後、「コミット (Commit)」を選択します。別の「リソース修復処置 (Resource Repair Action)」画面が表示されましたか？
    - いいえ: 「トラブルは検出されませんでした (No Trouble Found)」画面が表示された場合は、ステップ 9 (109 ページ) に進みます。
    - はい: ステップ 8 に進みます。
8. 「リソース修復処置 (Resource Repair Action)」メニューから、取り替えられた部品のリソースの親または子を選択します。システム検証モードでリソースに対してテストが実行されており、エラー・ログの中にそのリソースのエントリーがあるときは、リソースのテストが正常であっても、「リソース修

復処置 (Resource Repair Action)」メニューが表示されます。以下の手順を実行すると、エラー・ログが更新され、システム検出可能な部品が取り替えられたことが示されます。これにより部品の表示ライトが障害状態から正常状態に変わります。

- a. 「リソース修復処置 (Resource Repair Action)」メニューから、取り替えたリソースの親または子のリソースを選択します。修復処置でケーブルまたはアダプターの取り付け直しを行った場合は、その修復処置と関連したリソースを選択します。処置と関連したリソースが「リソース・リスト (Resource List)」に表示されない場合は、「sysplanar0」を選択します。Enter キーを押します。
  - b. 選択した後、「コミット (Commit)」を選択します。
    - a. 「トラブルは検出されませんでした (No Trouble Found)」画面が表示された場合は、ステップ9に進みます。
9. 上記の手順で指示されたように、サービス・プロセッサまたはネットワーク設定値を変更した場合は、設定値をシステムを保守する前の値に戻します。
10. この手順を実行する前に、なんらかのホット・プラグ手順を実行しましたか?
- いいえ: ステップ 11 に進みます。
  - はい: ステップ 12 に進みます。
11. システムまたは論理区画の通常モードで、オペレーティング・システムを始動します。オペレーティング・システムを始動できましたか?
- いいえ: サービス・プロバイダーにお問い合わせください。これで手順は終了です。
  - はい: ステップ 12 に進みます。
12. 表示ライトはまだ点灯していますか?
- いいえ: これで手順は終了です。
  - はい: ライトをオフにします。手順については、サービス・インジケータの変更を参照してください。

---

## 修復の検証

システムの修復を行った後、ハードウェアの動作を検証する場合に、以下の手順を使用します。

以下のオプションから選択してください。

- 現在電源がオフになっているシステムの修復を検証するには、手順 1 に進みます。
  - オペレーティング・システムがロードされていない状態で、現在電源がオンになっているシステムの修復を検証するには、手順 3 (110 ページ) に進みます。
  - 現在電源がオンになっており、オペレーティング・システムがロードされているシステムの修復を検証するには、手順 5 (110 ページ) に進みます。
1. サーバーおよび接続されているすべての入出力エンクロージャの電源をオンにします。

すべてのエンクロージャの電源がオンになりましたか?

- はい: 手順 3 (110 ページ) に進みます。
- いいえ: 次の手順を引き続き実行します。

- 
2. 以下のオプションから選択してください。

- 元の問題がエンクロージャーの電源がオンにならないことであったときに、取り替えが必要な別の FRU がある場合は、次の現場交換可能ユニット (FRU) を見つけ、取り替えます。
  - FRU リスト内の次の FRU が問題判別手順である場合、その問題判別手順を実行します。
  - 元の問題がエンクロージャーの電源がオンにならないことであったときに、完了させる問題判別手順がある場合は、その問題判別手順を実行します。
  - 元の問題がエンクロージャーの電源がオンにならないことであったときに、FRU リストにそれ以上の FRU または問題判別手順がない場合は、次のレベルのサポートに連絡します。
  - 新たな問題がある場合は、問題分析を実行し、新たな問題を修復します。
- 

### 3. オペレーティング・システムをロードします。

#### オペレーティング・システムが正常にロードしましたか？

はい: 手順 5 に進みます。

いいえ: 次の手順を引き続き実行します。

---

### 4. 次のオプションから選択します。

- 元の問題が、オペレーティング・システム・ソフトウェアが収録されていたディスク・ドライブの障害であった場合は、手順 5 に進みます。
  - オペレーティング・システムがロードされないことが当初の問題であり、かつ、別の FRU を取り替える必要がある場合は、FRU ロケーション・セクションに進み、次の FRU を検索します。
  - FRU リスト内の次の FRU が問題判別手順である場合、その問題判別手順を実行します。
  - 元の問題がオペレーティング・システムがロードしないことであったときに、完了させる問題判別手順がある場合は、その問題判別手順を実行します。
  - 元の問題がオペレーティング・システムがロードしないことであったときに、FRU リストにそれ以上の FRU または問題判別手順がない場合は、次のレベルのサポートに連絡します。
  - 新たな問題がある場合は、問題分析を実行し、新たな問題を修復します。
- 

### 5. 『Linux での修復の検証』 に進みます。

## Linux での修復の検証

Linux オペレーティング・システムを使用して修復の完了を検証する場合、以下の手順を使用できます。

1. CD または Network Installation Management (NIM) サーバーのどちらかから、スタンドアロン診断を実行します。CD-ROM からのスタンドアロン診断の実行を参照してください。

#### 問題を検出しましたか？

いいえ オペレーティング・システムをリブートし、コールの終了手順を続行します。

可 元の問題が続く場合は、現場交換可能ユニット (FRU) を取り替えるか、FRU リスト内の次の問題判別手順を実行します。FRU リストの最後に達した場合は、次のレベルのサポートに連絡してください。

新たな問題が発生した場合は、問題分析の開始に進み、新たな問題を修復します。

---

## 管理コンソールでの修復の検証

管理コンソール を使用して、以下の手順を実行し、問題番号の終了、ハードウェア・メッセージのクリア、およびサーバーをお客様に戻す準備を行います。

手順を実行する前に、次のチェックリストに従います。

- お客様が通常使用する状態 (IPL タイプ、IPL モード、およびシステムの構成または区画化の方法) に、サーバーを戻します。

**重要:** システムをお客様に返却する前に、システムをサービス・モードから戻してください。システムをサービス・モードのままにしておくと、システムは、自動的に 2 時間ごとにサービスのコールを行います。

- 元のサービス可能イベントで問題分析を実行していた間に、その他のサービス可能イベント番号がオープンされている可能性があります。保守活動の結果としてオープンされたすべてのサービス可能イベントをクローズしてください。
- サーバー検査が実行されました。追加のサービス処置が必要な問題はありません。
- HMC オンライン修復手順を使用して修復が行われた場合は、元のサービス可能イベントがクローズされていることを確認してください。

1. 保守しているサーバーの管理に管理コンソールを使用しますか?

- **はい:** 次の手順を引き続き実行します。
  - **いいえ:** 109 ページの『修復の検証』に戻ります。これで手順は終了です。
- 

2. 管理コンソール パーソナル・コンピューター上での修復であったサービス・イベントを閉じますか?

- **はい:** 次の手順を引き続き実行します。
  - **いいえ:** 手順 4 に進みます。
- 

3. 管理コンソールの電源をオンにします。電源オンのプロセスはエラーなしで完了しましたか?

- **はい:** 管理コンソールがサーバー管理タスクの実行に使用できることを確認し、管理コンソールを通常の操作に戻します。112 ページの『サービス・コールの終了』に進みます。これで手順は終了です。
  - **いいえ:** *HMC の問題判別手順* に進みます。これで手順は終了です。
- 

4. サービス担当員として管理コンソールにログインします。無効なユーザーまたは無効なパスワードが表示された場合、システム管理者から正しいログイン情報を入手してください。

1. System Manager にログオンしている場合、「System Manager」ウィンドウ上にある「**コンソールを終了 (Exit from the Console)**」を選択します。
  2. 以下のようにして、System Manager にログインします。
    - ユーザー ID - service
    - パスワード - service mode
- 

5. サービス可能イベントの詳細を表示します。

1. ナビゲーション領域で、「**サービス・アプリケーション**」をクリックします。

**注:** 指定したすべての条件に一致するイベントのみが表示されます。
  2. ナビゲーション領域で、「**サービス・フォーカル・ポイント**」をクリックします。
  3. コンテンツ領域で、「**サービス可能イベントの管理**」をクリックします。
  4. 表示するサービス可能イベントのセットを指定します。終了したら「**OK**」をクリックします。「**サービス・イベントの概要 (Service Event Overview)**」ウィンドウが開きます。
-

6. オープンされているイベントまたは遅延しているイベントをクローズします。

1. 「サービス・イベントの概要 (Service Event Overview)」ウィンドウで、クローズする問題を選択します。
  2. メニューバーの「**選択済み**」メニューを選択します。
  3. 「**イベントのクローズ**」をクリックします。
  4. 「**サービス可能イベントのコメント (Serviceable Event Comments)**」ウィンドウにコメントを入力して、「**イベントのクローズ**」をクリックします。
  5. 作業していた問題に関連するすべてのイベントをクローズします。
- 

7. 「サービス・イベントの概要 (Service Event Overview)」ウィンドウに作業していた 1 つ以上のイベントが含まれていましたか?

- **はい:** HMC を通常の操作に戻します。『サービス・コールの終了』に進みます。これで手順は終了です。
  - **いいえ:** 「問題の検出」に進みます。これで手順は終了です。
- 

## サービス・コールの終了

以下の手順を実行して、サービス可能イベントの終了、ハードウェア・メッセージのクリア、およびサーバーをお客様に戻す準備を行います。

手順を実行する前に、次のチェックリストに従います。

- お客様が通常使用する状態 (IPL タイプ、IPL モード、およびシステムの構成または区画化の方法) に、サーバーを戻します。  
**重要:** システムをお客様に返却する前に、システムをサービス・モードから戻してください。システムをサービス・モードのままにしておくと、システムは、自動的に 2 時間ごとにサービスのコールを行います。
  - 元のサービス可能イベントで問題分析を実行していた間に、その他のサービス可能イベントがオープンされている可能性があります。保守活動の結果としてオープンされたすべてのサービス可能イベントをクローズしてください。
  - サーバー検査が実行され、追加のサービス処置が必要な問題がないことを確認してください。
  - 管理コンソールのオンライン修復手順を使用して修復が行われた場合は、元のサービス可能イベントがクローズされていることを確認してください。
  - 1. 今後の参照のために、システム参照コード (SRC)、または症状、および取り替えた現場交換可能ユニット (FRU) のロケーション・コードを記録します。サーバーは管理コンソールによって管理されていますか?
    - **はい:** 次の手順を引き続き実行します。
    - **いいえ:** サーバーが Integrated Virtualization Manager (IVM) によって管理されている場合は、118 ページの『Integrated Virtualization Manager を使用したサービス・コールの終了』に進みます。
- 

2. ハードウェア管理コンソール (HMC) で、「**サービス可能イベントの管理**」を開き、オープンされているサービス・アクション・イベントがないかサービス・アクション・イベント・ログを検査します。
-

3. オープンされているサービス処置イベントはありますか?

- **はい:** 次の手順を引き続き実行します。
  - **いいえ:** システム・アテンション LED がまだオンの場合は、123 ページの『LED の活動化および非活動化』で説明されているとおりに LED をオフにします。システムをお客様に返します。これで修復は完了しました。
- 

4. オープンされているサービス処置イベントのリストを記録します。

---

5. ステップ 4 で記録されたサービス可能イベントのリストから、オープンしているサービス・アクション・イベントごとに、ステップ 6 からステップ 31 (116 ページ) を実行します。

---

6. サービス可能イベントのエラー・クラスを判別します。将来使用するために記録します。

---

7. オープンされているサービス処置イベントを詳細に検査します。

このサービス処置イベントに関連したエラー・コードは、ステップ 1 (112 ページ) で記録されたものと同じですか?

- **はい:** 手順 11 に進みます。
  - **いいえ:** 次の手順を引き続き実行します。
- 

8. サービス処置イベントの FRU リストを調べます。サービス処置イベントに対してリストされている FRU がありますか?

- **はい:** 次の手順を引き続き実行します。
  - **いいえ:** 手順 11 に進みます。
- 

9. FRU リストは、ステップ 1 (112 ページ) で記録されたエラー・コードの FRU リストと同一 (すなわち、同じ FRU、同数の FRU、および同じ順序の FRU) ですか?

- **はい:** 手順 11 に進みます。
  - **いいえ:** 次の手順を引き続き実行します。
- 

10. FRU リストが異なります。手順 1 (112 ページ) で取り替え、記録した FRU は、このサービス処置イベントの FRU のリスト内にありますか?

- **はい:** 次の手順を引き続き実行します。
  - **いいえ:** 手順 31 (116 ページ) に進みます。  
**注:** この MAP を終了するときにオープンしたままであるサービス処置イベントがあります。修復を完了するには、追加のサービス処置が必要な場合があります。
- 

11. このサービス処置イベントの詳細を調べ、後の手順で使用するために、このサービス処置イベントに関係する区画を記録しておきます。

---

12. このサービス処置イベントに関連したエラー・コードの形式は A11-xxx または A01-xxx ですか?

- はい: 次の手順を引き続き実行します。
  - いいえ: 手順 17 に進みます。
- 

13. この MAP で処理した前のサービス処置イベントから、Axx 区画のリストを始めましたか?

- はい: 手順 15 に進みます。
  - いいえ: 次の手順を引き続き実行します。
- 

14. 手順 11 (113 ページ) で取得された区画のリストをコピーして、Axx 区画の新しいリストを開始します。手順 16 に進みます。

---

15. ステップ 11 (113 ページ) で取得された区画リストを、この保守分析手順 (MAP) 内の直前のサービス処置イベントの処理から取得された Axx 区画の既存リストに追加します。

---

16. 手順 11 (113 ページ) で記録したすべての区画のリスト内のすべてのエントリーを除去します。手順 11 (113 ページ) で取得された区画のリストが将来の手順で参照される場合、そのリストは空です。手順 17 に進みます。

---

17. 「このサービス可能イベントに関連したエラー (Error Associated With This Serviceable Event)」ウィンドウでサービス処置イベントを選択して強調表示します。

---

18. 「イベントのクローズ」をクリックします。

---

19. サービス可能イベントにコメントを追加します。任意の固有な追加情報を組み込んでください。「OK」をクリックします。以下の手順では、FRU 情報を追加または更新します。

---

20. オープンされたサービス処置イベントの FRU を交換、追加、または変更しましたか?

- はい: 次の手順を引き続き実行します。
  - いいえ: 手順 22 (115 ページ) に進みます。
- 

21. FRU リストで、更新する必要がある FRU を選択します。FRU をダブルクリックし、FRU 情報を更新します。手順 23 (115 ページ) に進みます。

---

22. 「このサービス可能イベントの **FRU 交換はありません (No FRU Replaced for this Serviceable Event)**」 オプションを選択します。

---

23. 「**OK**」をクリックし、サービス処置イベントを閉じます。

---

24. 手順 11 (113 ページ) で記録したすべての区画のリストは空ですか?

- **はい:** 手順 31 (116 ページ) に進みます。
  - **いいえ:** 次の手順を引き続き実行します。
- 

25. 手順 11 (113 ページ) で記録したすべての区画のリストに、複数のエントリーが含まれていますか?

- **はい:** 次の手順を引き続き実行します。
  - **いいえ:** 手順 31 (116 ページ) に進みます。
- 

26. ステップ 11 (113 ページ) で記録したすべての区画のリスト内のエントリーごとに以下のすべてのステップを実行します。ただし、元の問題のデバッグに使用していた区画を除きます。

---

27. すべての区画のリストから、任意の区画の HMC 仮想端末ウィンドウを開き、次に コマンド・プロンプトで `diag` と入力します。

---

28. 「診断操作指示 (Diagnostic Operating Instructions)」が表示されたら、以下のステップを実行します。

1. Enter キーを押します。
2. 「**タスク選択 (Task Selection)**」オプションを選択します。
3. 「**ログ修復 (Log Repair)**」オプションを選択します。
4. 修復処置に関連したリソースを選択します。
  - 修復処置でケーブルまたはアダプターの再取り替えを行った場合は、その修復処置と関連したリソースを選択します。
  - 修復処置に関連したリソースが「リソース・リスト (Resource List)」に表示されない場合は、**sysplanar0** を選択します。
5. 選択した後、「**コミット (Commit)**」をクリックします。

**注:** 端末タイプが定義されていない場合は、次に進む前に定義するように求めるプロンプトが出されます。

---

29. この区画内の診断を終了し、コマンド・プロンプトに戻ります。

---

30. 手順 11 (113 ページ) で記録したすべての区画のリスト内のすべての区画が処理されましたか?

---

- はい: 次の手順を引き続き実行します。
  - いいえ: 手順 24 (115 ページ) に進み、手順 11 (113 ページ) で記録したリスト内の次の区画を処理します。
- 

31. 手順 4 (113 ページ) で記録されたすべてのサービス可能イベントが処理されましたか?

- はい: 次の手順を引き続き実行します。
  - いいえ: 手順 5 (113 ページ) に進み、手順 4 (113 ページ) で記録されたサービス可能イベントのリスト内の次のサービス処置イベントを処理します。
- 

32. すべてのサービス処置イベントの処理中に、手順 14 (114 ページ) に進むよう指示されましたか?

- はい: 次の手順を引き続き実行します。
  - いいえ: システム・アテンション LED がまだオンの場合は、123 ページの『LED の活動化および非活動化』で説明されているとおりに LED をオフにします。システムをお客様に返します。これで修復は完了しました。  
注: オープンしているサービス処置イベントのリストの処理中に、一部のサービス処置イベントがオープンしたままである場合、修復を完了するために追加のサービス処置が必要な場合があります。
- 

33. ステップ 14 (114 ページ) で記録を開始した Axx 区画のリスト内のエントリーごとに以下のすべてのステップを実行します。ただし、元の問題のデバッグに使用していた区画を除きます。

---

34. Axx 区画のリストから、任意の区画の管理コンソール仮想端末ウィンドウを開き、次に コマンド・プロンプトで diag と入力します。

---

35. 「診断操作指示 (Diagnostic Operating Instructions)」が表示されたら、以下のステップを実行します。

1. Enter キーを押します。
  2. 「タスク選択 (Task Selection)」オプションを選択します。  
注: 端末タイプが定義されていない場合は、次に進む前に定義するように求めるプロンプトが出されます。
  3. 修復処置に関連したリソースを選択します。
    - 修復処置でケーブルまたはアダプターの再取り替えを行った場合は、その修復処置に関連したリソースを選択します。
    - 修復処置に関連したリソースが「リソース・リスト (Resource List)」に表示されない場合は、**sysplanar0** を選択します。
  4. 選択した後、「コミット (Commit)」をクリックします。
- 

36. この区画内の診断を終了し、コマンド・プロンプトに戻ります。

---

37. 手順 14 (114 ページ) で記録を開始した Axx 区画のリスト内のすべての区画が処理されましたか?

- はい: 次の手順を引き続き実行します。
  - いいえ: 手順 33 に進み、手順 14 (114 ページ) で記録したリスト内の次の区画を処理します。
-

38. システム・アテンション LED がまだオンの場合は、123 ページの『LED の活動化および非活動化』で説明されているとおりに LED をオフにします。これで修復は完了しました。システムをお客様に返します。

**注:** オープンしているサービス処置イベントのリストの処理中に、一部のサービス処置イベントがオープンしたままである場合、修復を完了するために追加のサービス処置が必要な場合があります。

---

## Linux を使用したサービス・コールの終了

サーバーが 管理コンソール に接続されておらず、Integrated Virtualization Manager (IVM) を使用していない場合は、以下の手順を実行して、サービス可能イベントの終了、ハードウェア・メッセージのクリア、およびサーバーをお客様に戻す準備を行います。

手順を実行する前に、次のチェックリストに従います。

- お客様が通常使用する状態 (IPL タイプ、IPL モード、およびシステムの構成または区画化の方法) に、サーバーを戻します。

**重要:** システムをお客様に返却する前に、システムをサービス・モードから戻してください。システムをサービス・モードのままにしておくと、システムは、自動的に 2 時間ごとにサービスのコールを行います。

- 元のサービス可能イベントで問題分析を実行していた間に、その他のサービス可能イベント番号がオープンされている可能性があります。保守活動の結果としてオープンされたすべてのサービス可能イベントをクローズしてください。
- サーバー検査が実行され、追加のサービス処置が必要な問題がないことを確認してください。
- IVM オンライン修復手順を使用して修復が行われた場合は、元のサービス可能イベントが現在はクローズされていることを確認してください。

### 1. 診断サービス援助機能のホット・スワップ操作を使用して FRU を変更しましたか?

- **はい:** 手順 3 に進みます。
- **いいえ:** 次の手順を引き続き実行します。

---

### 2. 問題分析中に取り外した現場交換可能ユニット (FRU) (例えば、カード、アダプター、ケーブル、またはデバイス) で、システムに戻すものがありますか?

**注:** システム・バックプレーンまたはバッテリーが取り替えられ、ネットワークを介してサーバーから診断プログラムをロードする場合は、診断プログラムをロードする前に、お客様がこのシステムのネットワーク・ブート情報を設定する必要がある場合があります。また、修復が完了したら、システムの時刻と日付情報も設定してください。

- **はい:** 問題分析時に取り外したすべての FRU を再取り付けします。次の手順を引き続き実行します。
- **いいえ:** 次の手順を引き続き実行します。

---

### 3. CD-ROM または Network Installation Management (NIM) サーバーのどちらかから、問題判別モードでスタンドアロン診断を実行します。

**注:** CD からスタンドアロン診断を実行し、HMC を使用しない場合の手順については、HMC が接続されていないサーバー上での CD からのスタンドアロン診断プログラムの実行を参照してください。

NIM サーバーからスタンドアロン診断を実行する手順については、スタンドアロン診断プログラムの Network Installation Management サーバーからの実行を参照してください。

問題を検出しましたか?

- はい: 問題分析に進みます。
  - いいえ: 次の手順を引き続き実行します。
- 

#### 4. システムのハードウェアは正しく機能しています。

システム・アテンション LED がまだオンの場合は、123 ページの『LED の活動化および非活動化』で説明されているとおりに LED をオフにします。

これで修復は完了しました。

**注:** オープンしているサービス処置イベントのリストの処理中に、一部のサービス処置イベントがオープンしたままである場合、修復を完了するために追加のサービス処置が必要な場合があります。

お客様が通常使用する状態 (IPL タイプ、IPL モード、およびシステムの構成または区画化の方法) に、サーバーを戻します。このとき、オペレーティング・システムのリブートが必要になる場合があります。

**重要:** システムをお客様に返却する前に、システムをサービス・モードから戻してください。システムをサービス・モードのままにしておくと、システムは、自動的に 2 時間ごとにサービスのコールを行います。

---

## Integrated Virtualization Manager を使用したサービス・コールの終了

以下の手順を実行して、サービス可能イベントの終了、ハードウェア・メッセージのクリア、およびサーバーをお客様に戻す準備を行います。

手順を実行する前に、次のチェックリストに従います。

- お客様が通常使用する状態 (IPL タイプ、IPL モード、およびシステムの構成または区画化の方法) に、サーバーを戻します。

**重要:** システムをお客様に返却する前に、システムをサービス・モードから戻してください。システムをサービス・モードのままにしておくと、システムは、自動的に 2 時間ごとにサービスのコールを行います。

- 元のサービス可能イベントで問題分析を実行していた間に、その他のサービス可能イベント番号がオープンされている可能性があります。保守活動の結果としてオープンされたすべてのサービス可能イベントをクローズしてください。
  - サーバー検査が実行され、追加のサービス処置が必要な問題がないことを確認してください。
  - Integrated Virtualization Manager (IVM) オンライン修復手順を使用して修復が行われた場合は、元のサービス可能イベントが現在はクローズされていることを確認してください。
1. 今後の参照のために、システム参照コード (SRC)、または症状、および取り替えた現場交換可能ユニット (FRU) のロケーション・コードを記録します。
-

2. IVM で、「サービス可能イベントの管理」を開き、既存のサービス可能イベントを調べます。

---

3. オープンされているサービス処置イベントはありますか？

- はい: 次の手順を引き続き実行します。
  - いいえ: システム・アテンション LED がまだオンの場合は、123 ページの『LED の活動化および非活動化』で説明されているとおりに LED をオフにします。システムをお客様に返します。これで修復は完了しました。
- 

4. オープンされているサービス処置イベントのリストを記録します。

---

5. ステップ 4 で記録されたサービス可能イベントのリストから、オープンしているサービス・アクション・イベントごとに、ステップ 6 からステップ 30 (122 ページ) を実行します。

---

6. サービス可能イベントのエラー・クラスを判別します。将来使用するためにそれを記録します。

---

7. オープンされているサービス処置イベントを詳細に検査します。

このサービス処置イベントに関連したエラー・コードは、手順 1 (118 ページ) で記録されたものと同じですか？

- はい: 手順 11 (120 ページ) に進みます。
  - いいえ: 次の手順を引き続き実行します。
- 

8. サービス処置イベントの FRU リストを調べます。サービス処置イベントに対してリストされている FRU がありますか？

- はい: 次の手順を引き続き実行します。
  - いいえ: 手順 11 (120 ページ) に進みます。
- 

9. FRU リストは、ステップ 1 (118 ページ) で記録されたエラー・コードの FRU リストと同一 (すなわち、同じ FRU、同数の FRU、および同じ順序の FRU) ですか？

- はい: 手順 11 (120 ページ) に進みます。
  - いいえ: 次の手順を引き続き実行します。
- 

10. 手順 1 (118 ページ) で取り替え、記録した FRU は、このサービス処置イベントの FRU のリスト内にありますか？

• はい: 次の手順を引き続き実行します。

• いいえ: 手順 30 (122 ページ) に進みます。

注: この MAP を終了するときにオープンしたままであるサービス処置イベントがあります。修復を完了するには、追加のサービス処置が必要な場合があります。

---

11. このサービス処置イベントの詳細を調べ、後の手順で使用するために、このサービス処置イベントに関係する区画を記録しておきます。

---

12. このサービス処置イベントに関連したエラー・コードの形式は A11-xxx または A01-xxx ですか?

• はい: 次の手順を引き続き実行します。

• いいえ: 手順 17 に進みます。

---

13. この保守分析手順 (MAP) で処理した前のサービス処置イベントから、Axx 区画のリストを始めましたか?

• はい: 手順 15 に進みます。

• いいえ: 次の手順を引き続き実行します。

---

14. 手順 11 で取得された区画のリストをコピーして、Axx 区画の新しいリストを開始します。手順 16 に進みます。

---

15. 手順 11 で取得された区画リストを、この MAP 内の直前のサービス処置イベントの処理から取得された Axx 区画の既存リストに追加します。

---

16. 手順 11 で記録したすべての区画のリスト内のすべてのエントリーを除去します。手順 11 で取得された区画のリストが将来の手順で参照される場合、そのリストは空です。手順 17 に進みます。

---

17. 「サービス可能イベントの管理」ウィンドウでサービス処置イベントを選択して強調表示します。

---

18. 「イベントのクローズ」をクリックします。

---

19. サービス可能イベントにコメントを追加します。任意の固有な追加情報を組み込んでください。「OK」をクリックします。

---

20. FRU 情報を追加または更新します。

オープンされたサービス処置イベントの FRU を交換、追加、または変更しましたか?

- はい: 次の手順を引き続き実行します。
  - いいえ: 手順 22 に進みます。
- 

21. 「OK」をクリックし、サービス処置イベントを閉じます。

---

22. 手順 11 (120 ページ) で記録したすべての区画のリストは空ですか?

- はい: 手順 30 (122 ページ) に進みます。
  - いいえ: 次の手順を引き続き実行します。
- 

23. 手順 11 (120 ページ) で記録したすべての区画のリストに、複数のエントリーが含まれていますか?

- はい: 次の手順を引き続き実行します。
  - いいえ: 手順 30 (122 ページ) に進みます。
- 

24. 手順 23 で記録されたエラー・クラスですか?

- はい: 次の手順を引き続き実行します。
  - いいえ: 手順 30 (122 ページ) に進みます。
- 

25. ステップ 11 (120 ページ) で記録したすべての区画のリスト内のエントリーごとに以下のすべてのステップを実行します。ただし、元の問題のデバッグに使用していた区画を除きます。

---

26. すべての区画のリストから、任意の区画の IVM 仮想端末ウィンドウを開き、次に コマンド・プロンプトで diag と入力します。

---

27. 「診断操作指示 (Diagnostic Operating Instructions)」が表示されたら、以下のステップを実行します。

1. Enter キーを押します。
2. 「タスク選択 (Task Selection)」オプションを選択します。
3. 「ログ修復 (Log Repair)」オプションを選択します。
4. 修復処置に関連したリソースを選択します。
  - 修復処置でケーブルまたはアダプターの再取り替えを行った場合は、その修復処置と関連したリソースを選択します。
  - 修復処置に関連したリソースが「リソース・リスト (Resource List)」に表示されない場合は、**sysplanar0** を選択します。
5. 選択した後、「コミット (Commit)」をクリックします。

注: 端末タイプが定義されていない場合は、次に進む前に定義するように求めるプロンプトが出されます。

---

28. この区画内の診断を終了し、コマンド・プロンプトに戻ります。

---

29. 手順 11 (120 ページ) で記録したすべての区画のリスト内のすべての区画が処理されましたか?

- はい: 次の手順を引き続き実行します。
- いいえ: 手順 25 (121 ページ) に進み、手順 11 (120 ページ) で記録したリスト内の次の区画を処理します。

---

30. 手順 4 (119 ページ) で記録されたすべてのサービス可能イベントが処理されましたか?

- はい: 次の手順を引き続き実行します。
- いいえ: 手順 5 (119 ページ) に進み、手順 4 (119 ページ) で記録されたサービス可能イベントのリスト内の次のサービス処置イベントを処理します。

---

31. すべてのサービス処置イベントの処理中に、手順 14 (120 ページ) に進むよう指示されましたか?

- はい: 次の手順を引き続き実行します。
- いいえ: システム・アテンション LED がまだオンの場合は、123 ページの『LED の活動化および非活動化』で説明されているとおりに LED をオフにします。システムをお客様に返します。これで修復は完了しました。  
注: オープンしているサービス処置イベントのリストの処理中に、一部のサービス処置イベントがオープンしたままである場合、修復を完了するために追加のサービス処置が必要な場合があります。

---

32. ステップ 14 (120 ページ) で記録を開始した Axx 区画のリスト内のエントリーごとに以下のすべてのステップを実行します。ただし、元の問題のデバッグに使用していた区画を除きます。

---

33. Axx 区画のリストから、任意の区画の管理コンソール仮想端末ウィンドウを開き、次に コマンド・プロンプトで diag と入力します。

---

34. 「診断操作指示 (Diagnostic Operating Instructions)」が表示されたら、以下のステップを実行します。

1. Enter キーを押します。
2. 「タスク選択 (Task Selection)」オプションを選択します。  
注: 端末タイプが定義されていない場合は、次に進む前に定義するように求めるプロンプトが出されます。
3. 「ログ修復 (Log Repair)」オプションを選択します。
4. 修復処置に関連したリソースを選択します。
  - 修復処置でケーブルまたはアダプターの再取り替えを行った場合は、その修復処置と関連したリソースを選択します。
  - 修復処置に関連したリソースが「リソース・リスト (Resource List)」に表示されない場合は、sysplanar0 を選択します。
5. 選択した後、「コミット (Commit)」をクリックします。

---

35. この区画内の診断を終了し、コマンド・プロンプトに戻ります。

---

36. 手順 14 (120 ページ) で記録を開始した Axx 区画のリスト内のすべての区画が処理されましたか?

- はい: 次の手順を引き続き実行します。
  - いいえ: 手順 32 (122 ページ) に進み、手順 14 (120 ページ) で記録したリスト内の次の区画を処理します。
- 

37. システム・アテンション LED がまだオンの場合は、『LED の活動化および非活動化』で説明されているとおりに LED をオフにします。これで修復は完了しました。システムをお客様に返します。

注: オープンしているサービス処置イベントのリストの処理中に、一部のサービス処置イベントがオープンしたままである場合、修復を完了するために追加のサービス処置が必要な場合があります。

---

## LED の活動化および非活動化

管理コンソールまたは Advanced System Management Interface (ASMI) を使用して発光ダイオード (LED) の活動化または非活動化を行うには、以下の手順を実行します。

POWER7 プロセッサを搭載した IBM PowerLinux ラック・サーバーの場合、LED を使用して、保守対象の部品を識別または確認することができます。エラーおよび識別機能の LED (オレンジ色) はエラーを示し、システム参照コード (SRC) のロケーション・コードに対応しています。この LED は、自動的に活動化および非活動化されます。

また、以下の手順を実行して LED を活動化および非活動化することもできます。

- 『管理コンソールを使用したシステム・アテンション LED または区画 LED の非活動化』
- 124 ページの『管理コンソールを使用した識別 LED の活動化または非活動化』
- 125 ページの『Advanced System Management Interface を使用したシステム・アテンション LED または論理区画 LED の非活動化』
- 125 ページの『Advanced System Management Interface を使用した識別 LED の活動化または非活動化』

## 管理コンソールを使用したシステム・アテンション LED または区画 LED の非活動化

ある問題について優先度があまり高くないと判断し、後で問題を修復することに決めた場合、システム・アテンション LED または論理区画 LED を非活動化することができます。ハードウェア管理コンソール (HMC) または IBM Systems Director 管理コンソール (SDMC) からこのタスクを実行できます。

別の問題が発生した場合はアラートを受け取るようにする場合は、システム・アテンション LED を非活動化して、別の問題が発生したときに再度活動化できるようにする必要があります。

HMC を使用してシステム・アテンション LED を非活動化するには、以下の手順を実行します。

1. ナビゲーション領域で、「システム管理」を開きます。
2. 作業しているサーバーを選択します。
3. 「操作 (Operations)」 > 「LED 状況 (LED Status)」を開きます。
4. 「システム・アテンションの表示 (View System Attention)」を選択します。「システム・アテンション LED」ウィンドウが開きます。選択済みシステムとその LED 状態が、ウィンドウの上部に表示されます。論理区画とその LED 状態が、ウィンドウの下部に表示されます。「システム・アテンション LED」ウィンドウから、システム・アテンション LED と論理区画 LED の両方を非活動化することができます。

5. 「アクション」メニューから「システム・アテンション LED の非活動化」を選択します。確認ウィンドウが表示され、以下の情報が提供されます。
  - システム・アテンション LED が非活動化されたことの確認。
  - システム内にはまだオープン問題が存在する可能性があることの表示。
  - ユーザーはシステム・アテンション LED を活動化できないことの表示。
6. 下部のテーブルから論理区画の 1 つを選択して、「区画の操作 (Partition Operations)」メニューから「区画 LED の非活動化」を選択します。確認ウィンドウが表示され、以下の情報が提供されます。
  - 論理区画 LED が非活動化されたことの確認。
  - 論理区画内にはまだオープン問題が存在する可能性があることの表示。
  - ユーザーは論理区画 LED を活動化できないことの表示。

SDMC を使用してシステム・アテンション LED を非活動化するには、以下の手順を実行します。

1. 「ようこそ (Welcome)」ページの「リソース (Resources)」タブで、サーバーを選択します。
2. 「アクション」 > 「サービスおよびサポート」 > 「ハードウェア」 > 「システム・アテンション LED」をクリックします。
3. 「OK」をクリックします。

## 管理コンソールを使用した識別 LED の活動化または非活動化

システムに接続されたコンポーネントの識別 LED は、ハードウェア管理コンソール (HMC) または IBM Systems Director 管理コンソール (SDMC) から活動化または非活動化することができます。

システムは、エンクロージャーや現場交換可能ユニット (FRU) などのシステム内のさまざまなコンポーネントを識別するのに役立ついくつかの LED を備えています。この理由から、これらの LED は識別 LED と呼ばれます。

ユーザーは、以下のタイプの識別 LED を活動化または非活動化することができます。

- **エンクロージャーの識別 LED。** 特定のドロワー (エンクロージャー) にアダプターを追加する場合、ドロワーのマシン・タイプ、モデル、およびシリアル番号 (MTMS) を知っている必要があります。新規アダプターを必要とするドロワー用の正しい MTMS を持っているかどうかを調べるには、ドロワーの LED を活動化して、MTMS が新規アダプターを必要とするドロワーに対応しているかどうかを確認することができます。
- **指定したエンクロージャーに関連する FRU の識別 LED。** ケーブルを特定の入出力アダプターに接続する場合、現場交換可能ユニット (FRU) であるアダプター用の LED を活動化し、次にどこにケーブルを接続するかを物理的に確認します。これは特に、オープン・ポートを持つアダプターが複数ある場合に役立ちます。

HMC を使用してエンクロージャーまたは FRU の識別 LED を活動化または非活動化するには、以下の手順を実行します。

1. ナビゲーション領域で、「システム管理」を開きます。
2. 作業しているサーバーを選択します。
3. 「操作 (Operations)」 > 「LED 状況 (LED Status)」 > 「識別 LED (Identify LED)」をクリックします。「識別 LED、エンクロージャーの選択」ウィンドウが開きます。
4. エンクロージャーの識別 LED を活動化または非活動化するには、テーブルからエンクロージャーを選択して、「LED の活動化」または「LED の非活動化」のいずれかをクリックします。関連の LED がオンまたはオフになります。

5. FRU の識別 LED を活動化または非活動化するには、テーブルからエンクロージャーを選択して、「**選択済み**」 > 「**FRU のリスト (List FRUs)**」を選択します。
6. テーブルから 1 つ以上の FRU を選択して、「**LED の活動化**」または「**LED の非活動化**」のいずれかをクリックします。関連の LED がオンまたはオフになります。

SDMC を使用してエンクロージャーまたは FRU の識別 LED を活動化または非活動化するには、以下の手順を実行します。

1. 「**ようこそ (Welcome)**」ページの「**リソース (Resources)**」タブで、サーバーを選択します。
2. 「**アクション**」 > 「**サービスおよびサポート**」 > 「**ハードウェア**」 > 「**識別 LED**」をクリックします。
3. エンクロージャーの識別 LED を活動化または非活動化するには、テーブルからエンクロージャーを選択して、「**LED の活動化**」または「**LED の非活動化**」のいずれかをクリックします。関連の LED がオンまたはオフになります。
4. FRU の識別 LED を活動化または非活動化するには、テーブルからエンクロージャーを選択して、「**FRU のリスト (List FRUs)**」をクリックします。
5. テーブルから 1 つ以上の FRU を選択して、「**LED の活動化**」または「**LED の非活動化**」のいずれかをクリックします。関連の LED がオンまたはオフになります。

## Advanced System Management Interface を使用したシステム・アテンション LED または論理区画 LED の非活動化

Advanced System Management Interface (ASMI) を使用してシステム・アテンション LED または論理区画 LED を非活動化することができます。

システム・アテンション・インジケータは、システム全体として注意または保守が必要であることをビジュアル・シグナルで通知します。各システムは、単一のシステム・アテンション・インジケータを備えています。ユーザーの介入、またはサービスおよびサポートの介入が必要なイベントが発生すると、システム・アテンション・インジケータが連続的に点灯します。サービス・プロセッサのエラー・ログに項目が作成されると、システム・アテンション・インジケータがオンになります。エラー項目は、システム・エラー・ログおよびオペレーティング・システムのエラー・ログに伝送されます。

この操作を実行するには、次のいずれかの権限レベルが必要です。

- 管理者
- IBM 認定サービス・プロバイダー

システム・アテンション・インジケータをオフにするには、以下の手順を行います。

1. 「ASMI へようこそ」ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「**ログイン**」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「**システム構成**」 > 「**サービス・インジケータ**」 > 「**システム・アテンション・インジケータ**」を展開します。
3. 右側のペインで、「**システム・アテンション・インジケータをオフにする**」をクリックします。この試行が失敗すると、エラー・メッセージが表示されます。

## Advanced System Management Interface を使用した識別 LED の活動化または非活動化

Advanced System Management Interface (ASMI) を使用して識別 LED を活動化または非活動化することができます。

任意のインジケータのロケーション・コードを指定して、その現在の状態を表示または変更することができます。間違ったロケーション・コードが指定された場合、Advanced System Manager は、すぐ上のレベルのロケーション・コードを参照しようと試みます。

その次のレベルは、現場交換可能ユニット (FRU) に対するベース・レベル・ロケーション・コードです。例えば、システム内の 3 番目のエンクロージャの 2 番目の入出力スロットにある FRU に対するロケーション・コードを入力するとします。2 番目の入出力スロットに対するロケーション・コードが正しくない (このロケーションに FRU が存在しない) 場合は、インジケータを 3 番目のエンクロージャに設定しようとする試みが開始されます。この処理は FRU が見つかるまで、または他のレベルが使用できなくなるまで続きます。

この操作を実行するには、次のいずれかの権限レベルが必要です。

- 管理者
- IBM 認定サービス・プロバイダー

インジケータの現在の状態を変更するには、以下の手順を行います。

1. 「ASMI へようこそ」ペインで、ご使用のユーザー ID とパスワードを入力して、「ログイン」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「システム構成」 > 「サービス・インジケータ」 > 「ロケーション・コードごとのインジケータ」を展開します。
3. 右側のペインで、FRU のロケーション・コードを入力して、「続行」をクリックします。
4. リストから希望する状態を選択します。
5. 「設定の保存」をクリックします。

---

## 特記事項

本書は米国が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、製造元の担当者にお尋ねください。本書で、製造元の製品、プログラム、またはサービスに言及している部分があっても、このことは当該製品、プログラム、またはサービスだけが使用可能であることを意味するものではありません。これらの製品、プログラム、またはサービスに代えて、製造元の有効な知的所有権またはその他の法的に保護された権利を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、製造元によって明示的に指定されたものを除き、他社の製品、プログラムまたはサービスを使用した場合の評価と検証はお客様の責任で行っていただきます。

製造元は、本書で解説されている主題について特許権 (特許出願を含む) を所有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権、使用权等の許諾については、製造元に書面にてご照会ください。

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。本書は特定物として「現存するまま」の状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。製造元は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において製造元所有以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様自身の責任でご使用ください。

製造元は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様になんら義務も負わせない適切な方法で、使用もしくは配布することがあります。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

製造元以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。製造元は、それらの製品のテストを行っておりません。したがって、製造元以外の他社の製品に関する実行性、互換性、またはその他の損害賠償請求については確認できません。製造元以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

製造元の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている製造元の価格は製造元が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

本書に示されている図や仕様は、製造元の書面による許可を得ずにその一部または全部を複製してはいけません。

製造元は、指定された特定のマシンを対象として本書を作成しています。その他の使用および使用結果については、製造元は何ら保証責任を負いません。

製造元のコンピューター・システムには、破壊または損失したデータが検出されない危険性を減少するために設計されたメカニズムが含まれています。しかし、この危険性をゼロにすることはできません。不意の停電によるシステムの休止やシステム障害、電力の変動または停電、もしくはコンポーネント障害を経験するユーザーは、停電または障害が起きた時刻もしくはその近辺で行われたシステム操作とセーブまたは転送されたデータの正確性を検証する必要があります。さらに、ユーザーはそのような不安定で危機的な状況で操作されたデータを信頼する前に、独自のデータ検証手順を確立する必要があります。ユーザーはシステムおよび関連ソフトウェアに適用できる更新情報または修正がないか、定期的に製造元の Web サイトをチェックする必要があります。

## 認定ステートメント

本製品は、お客様の国で、いかなる方法においても公共通信ネットワークのインターフェースへの接続について認定されていない可能性があります。そのような接続を行うには、事前に法律によるさらなる認定が必要です。ご不明な点がある場合は、IBM 担当員または販売店にお問い合わせください。

---

## 商標

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://ibm.com) は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名は、IBM または各社の商標です。現時点での IBM の商標リストについては、[www.ibm.com/legal/copytrade.shtml](http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml) の「Copyright and trademark information」をご覧ください。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

---

## 電波障害自主規制特記事項

### VCCI クラス A 情報技術装置

この装置は、クラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

### VCCI クラス B 情報技術装置

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。 VCCI-B

---

## 使用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

**適用可能性:** これらの条件は、IBM Web サイトのすべてのご利用条件に追加されるものです。

**個人使用:** これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾を得ずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布（頒布、送信を含む）または表示（上映を含む）することはできません。

**商業的使用:** これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾を得ずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示したりすることはできません。

**権利:** ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。







Printed in Japan